

最強のサイヤ人とサイ
ヤ人の王子が幻想入り

レモ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

孫悟空が無事にフューを倒し宇宙に平和が訪れた。そして、悟空とベジータはまた破壊神の付き人ウイスさんに修行をしてもらっている最中、突如として現れた隙間に吸い込まれてしまった。そして悟空とベジータは幻想郷にたどり着いた。

これから悟空とベジータは幻想郷でどのように過ごしていくのか？悟空達の新たな冒険の始まりである。

目次

1 話	悟空とベジータ	1
2 話	孫悟空、幻想郷へ	8
3 話	ベジータ、幻想郷入り	19
4 話	対決!!悟空VS魔理沙	33
5 話	サイヤ人の本質!ベジータ対ベジータ!?	44
6 話	孫悟空と紅魔館く美鈴編く	53
7 話	激突!悟空と美鈴	66
8 話	孫悟空と紅魔館くフラン編く	79
9 話	サイヤ人と吸血鬼と華人小娘とく	
10 話	黒い気の正体	94
11 話	歴史のタイムパトローラー ランクス	105
12 話	覚妖怪と“元”神殺しく自由 を求めし人間編く	115
13 話	平和の幻想郷と新たな被害	131
14 話	蓬莱人とサイヤ人	142
15 話	入り交じる歴史!二人の17号	151
16 話	復活の帝王、再び	161
17 話	孫悟空の人生	172
		181

18話	ベジータへの怒り!! 復讐のサイヤ人	188	27話	英雄対悪魔	296
19話	親子の闘い!! 悟空VSバーダック	197	28話	幻想郷最大の危機	310
20話	因縁の対決! 孫悟飯VSセル	210	29話	ドラゴンボール	333
21話	王族の決着	221	30話	最凶の人造人間 セルマックス	349
22話	魔神の策略	229	31話	目覚めし獣、再び	359
23話	最強の戦士降臨	239	32話	終わりになき混沌	374
24話	鬼の力とサイヤ人	249	33話	灼熱の魂	391
25話	行くぞ地底へ! 地霊殿の戦い	267	34話	タイムパトロール	404
26話	時空の歪みとサイヤ人	283	35話	幻想郷大戦	414
			36話	決着	432

1話 悟空とベジータ

ービルス星ー

悟空とベジータは1カ月の間ウイスに修行をつけてもらっていた

悟空&ベジータ「だりやりやりやりやりや!!」「おららららー!」

ウイス「まだまだ無駄な動きがありますね」

ウイスは軽快な動きで悟空とベジータの攻撃を避ける

悟空&ベジータ『くっ』

悟空&ベジータ『はあああああ!!!』

悟空とベジータは超サイヤ人ゴッド超サイヤ人へ以降SSGSSと書きます〜に変身した

悟空SSGSS&ベジータSSGSS 『うおおおおお!!!』

攻撃するスピードが上がった悟空とベジータでもウイスに攻撃することはできなかつた

悟空&ベジータ 『はあはあはあはあ…』

ウイス 「少し休憩しましょうか」

ベジータ 「オレはまだやれる！」

ウイス 「休憩も大事ですよベジータさん」

ベジータ「チツ」

悟空「ふー：にしてもオラ達も力つけたのにまだウイスさんに攻撃できねえや
グウウウウウ」

悟空「にひひ、オラ腹減っちゃった」

ウイス「やれやれ：」

ベジータ「ふんっ」

そして昼食を食べた悟空達はまた、再開しようとした時、ビルス星の主破壊神ビルスがやってきた

ビルス「おーいウイスー、僕が寝てからどれくらいたった？」

ウイス「そうですねー地球の時間から5ヵ月程でしょうか？」

ビルス「クソツうるさいから思った以上に早く起きたじゃないか（怒）」

悟空「オツス、ビルス様〜！」

ビルス「何でまたお前がいるんだ」

悟空「ウイスさんにまた修行つけてもらってたんだ」

ビルス「へー」

ビルスは特に興味は無さそうだ

ウイス「では改めてお二方で試合をしてもらいましょう。ルールは飛び道具無し、超サイヤ人等の変身も無しですよ。では始めてくださ〜い！」

ウイスの合図とともに悟空とベジータはぶつかり合った

悟空「だりやりやりやりやりやりやり!!」

ベジータ「ふん」

悟空「おりやあ！」ドガツ：

ベジータ「ゲツ」

悟空「だりやあ！」ガツ！

ベジータ「がはっ…」

悟空「だあああ！」ガシッ

ベジータ「調子に乗るなよカカロットオオオオ!!」ガン!!

ベジータは悟空に頭突きをした

悟空「がはっ」

ベジータ「でやあああ！」

ベジータは悟空をおもいつきり蹴飛ばした

悟空「うわあああ!!」

悟空は大木に掴まりスピードを殺した

そしてまた悟空とベジータがぶつかろうとした途端、二人の間にスキマが出来た

悟空「いいい!?!」

ベジータ「な、何だと!?!」

悟空&ベジータ『うわあああああ!!!』

悟空とベジータがスキマに入った途端にスキマは消えた…。そしてビルス星に二人の姿はなかった…。

悟空「おーいちち… あれ、ここどこだ？」ガサツ

悟空「誰だっ！」

2話 孫悟空、幻想郷へ

ガサツ

悟空「誰だっ！」

悟空が警戒していると其処から紅白の少女がやってきた

??? 「あんた誰よ」

悟空「オツスオラ孫悟空、おめえは？」

悟空はいつもの調子で挨拶をした。

??? 「私は博麗霊夢、博麗の巫女よ」

悟空「博麗の巫女お？」

霊夢 「貴方外人ね」

悟空 「ガイライジンって何だ？ 食いもんか？」

霊夢 「違うわ、貴方達外の世界からたまーにくる人よ」

悟空 「へー、そーなんか」

霊夢 「ま、一端博麗神社に行くわよ」

ー博麗神社ー

悟空 「そんいや、ここどこだ？」

霊夢 「此処は幻想郷、人は勿論妖怪、妖精、いろんな種族が此処に住んでいるわ」

悟空「つええ奴居んのか？」

霊夢「居るわよ、貴方妖怪が来る前に私が来て良かったわね。そうじゃないととくに食べられてたからね」

悟空「オラ美味しくねえぞ。けんどつええ奴居んのかく戦ってみてえなくワクワクすっぞ！」

霊夢「あんたねえ… 食べられてたかもしれないのよ？」

霊夢はこの幻想郷では外来人は簡単に死ぬ事を説明した。(周りには人外だらけ、さうらに対抗手段がないのだ)

悟空「オラ強いからでえじょうぶだ、それより… おめえ結構つええだろ。もし良かったらオラと戦つてくんねえか？」

霊夢「はっ？」

霊夢（こいつ頭おかしいんじゃないの？さつき妖怪が貴方を襲おうとしてたから助けたのに自ら死に行くようなものじゃない）

霊夢の思考はごもつともである。

悟空「ダメか？」

霊夢「ダメに決まってるでしょ…」

悟空「っ！誰か来る！」

霊夢「え？」

そのとき、空から箒に乗った白黒の少女が飛んできた

??? 「よう霊夢♪？っってお前誰だ？」

悟空「オラ孫悟空だ」

??? 「私は霧雨魔理沙だぜ」

悟空「よろしくな！」

魔理沙「なあ霊夢、悟空…さんって外来人だよな？」

悟空「悟空でいいぞ」

魔理沙「助かるぜ♪？」

霊夢「ええ、そうよ。悟空さんは外来人よ」

魔理沙「じゃあ早く外の世界に戻さなくていいのか？」

外来人を外の世界に戻すのが博麗の巫女の仕事でもあるからだ。

霊夢「そうね、戻さなきゃ」

悟空「オラはまだ此処に居る」

悟空は元いた世界に戻るのを拒んだ。

霊夢&魔理沙『え？何だよ《だ》？』

悟空「オラと同時に此処に来た奴が居るかんなく」

霊夢「はあ…」

魔理沙「名前は何て言うんだぜ？」

悟空「ベジータっつうんだ」

霊夢 「残念ながら、その人は助けることは出来なさそうね」

先ほども言ったとおり、外来人はこの幻想郷ではほぼ無力なのだ。

魔理沙 「そうだな…」

悟空 「間違えて妖怪殺しちまいそうだもんなく」

霊夢 「ええ…ん？」

魔理沙 「今、何て言ったんだ…？」

悟空 「だからあいつが妖怪を思わず殺しちまいそうなんだ…」

魔理沙 「嘘に決まってる…よな？」

霊夢 「外人にそんなパワーがある訳無いじゃない」

悟空 「自己紹介が遅れたな、オラ孫悟空。地球育ちのサイヤ人だ」

霊夢&魔理沙 『サイヤジン？』

幻想郷には妖怪，妖精，神など数々の種族が生息しているが宇宙人はいない（当たり前である）

悟空 「ベジータが言うには、戦闘に特化した戦闘民族らしいぞ？」

霊夢&魔理沙 『へ、へえ〜…』

魔理沙 「私も自己紹介が遅れたな。私は霧雨魔理沙、普通の魔法使いだぜ」

悟空 「あ、ベジータはサイヤ人の王子だ」

霊夢&魔理沙『王子…』

悟空「そんなことより、おめえらつええだろ？良かったら戦ってくんねえか？」

悟空は霊夢と魔理沙に闘いを要求した。幻想郷では霊夢が一番強い（と言われている）ので普通は闘いを要求するのは意味不明なのだ。

霊夢「はあ…」

魔理沙「いいぜ」

霊夢「ちよつと魔理沙」

魔理沙「楽しそうじゃないか♪？」

悟空「サンキュー、オラワクワクすつぞ」

霊夢「いいけど… 神社から離れてやりなさいよね」

悟空&魔理沙『わかった《ぜ》』

悟空「じゃ、こつち来い！」

魔理沙「悟空、お前空飛べたのか？」

悟空「オラんとこじゃ知ってる奴皆飛んでるぞ？」

魔理沙「お前んとこ、すごいな…。」

悟空「此処でいつか…。」ピタッ

悟空は森の上で止まり、戦闘態勢をとった。

魔理沙「この私に勝負を挑んだ事後悔させてやるぜ！」

悟空「おめえだろ……。ま、いつか。ようし、来い！」

地球育ちのサイヤ人孫悟空か、普通の魔法使い霧雨魔理沙か、勝つのはどっちだ!!

3話 ベジータ、幻想郷入り

ザツザツザツザツ

??? 「貴方大丈夫ですか!？」

ベジータを見つけた一人の少女がいた。

ベジータ（ウツ何だ：？うるさいな：クソツオレは今どうなっているんだ：）
??? 「○○○様、●●●様来てくださいます!!」

??? 「どうした？△△…これは…？」

??? 「どうしたのさ騒がしいな」

??? 「一端神社に運ぶぞー！」

??? 「え？何この状況」

↳数分後↳

ガバアツ

ベジータ「此処は何処だ…！」

ベジータは目が覚め、起きたら謎の部屋でさつきの少女が座っていた。その少女は緑を基本とした巫女服？を着た少女だ。

??? 「目が覚めましたか？」

ベジータ「誰だ？貴様」

??? 「私は東風谷早苗、奇跡の現人神で此処の守矢神社の巫女をしています☆」

ベジータ「早苗か。オレはサイヤ人の王子ベジータだ」

早苗「王子様なんですか!?!…ん?サイヤジン?」

ベジータ「そうだな…戦闘民族って言ったらわかるか?」

早苗「宇宙人なんですか!?!」

早苗は自分が助けたのが外の世界の宇宙人とは思わなかったのだ。(見た目はほぼ人間なので初見で見破るのは無理だろう)

ベジータ「まあ…間違っではないな…」

ベジータ「そーいや此処は何処だ?」

早苗「此処は幻想郷です、そして貴方は此処で言う外来人なのでしょう」

ベジータ「ガイライジン？」

早苗「外の世界から来た人です」

ベジータ「そうなのか…ん？」

ベジータ「…おい…」

ベジータは違和感に気付いた様だった。

ベジータ「其処に居るのは誰だ…隠れてないで姿を見せたらどうだ！」

早苗「え？…ああ、其処に居るのは…」スツ

??? 「私と…」

??? 「私だよ」

ベジータ 「… お前ら神だな？」

??? 「ほう、わかるのか」

??? 「自己紹介が遅れたね。私は洩矢諏訪子。土着神の頂点さ」

??? 「私は山坂と湖の権化、八坂神奈子」

ベジータ 「そうか…」

ベジータは目の前にいる神に全く動じる事はなかった。

諏訪子 「あんた目の前に神が居るのに何とも思わないんだ」

ベジータ 「まあ、オレの世界では地球で普通に彷徨いてたからな…」

ベジータは自分が住んでいた世界を少しだけ話した。

くビルス星く

ビルス「ブワアックション」ズズズ

ウイス「あらあら」

く戻って守矢神社く

神奈子「大丈夫なのか？それは」

ベジータ「食い物のために破壊はされてない」

早苗「すごいですね…」

早苗は外の世界の元住人にも関わらず、神がいたこと（神奈子や諏訪子を除く）を知

らなかった。

ベジータ「神だからって全員が強い奴ではない」

諏訪子「というと？」

ベジータ「ヘタレの神もいる」

く界王神界く

界王神「うわあっ！」

界王神は何故か何も無いところで躓いた

キビト「大丈夫ですか？界王神様」

老界王神「何やっとなるんじゃ」

界王神「あはは：。」

界王神はとにかく苦笑いするしかなかった。

「また守矢神社」

ベジータ「とにかく、神は見飽きるぐらい見てきた訳だ」

神奈子「楽しそうだね、君の世界は」

ベジータ「そういや、クソツタレの神もいたな」

早苗「神様にクソツタレって：。」

神は本来は願うとか、そんな感じなので普通の人からしたらとても罰当たりな発言で崇られる等だが、ベジータは神を見ているし暴言や戦闘等、崇られる以上の事もしつか

りやっている為特に何も変わらないのだった。

ベジータ「オレの息子の世界を人間0計画と言って破壊しつくしていた不死身の神のことだ」

早苗&神奈子&諏訪子『…』

ベジータ「そんな顔するな、奴はもう死んだ」

早苗「えっ？死んだ？不死身ですよね」

「早苗は不死身なのに死ぬという矛盾を感じた。

諏訪子「ベジータが倒したのかい？」

ベジータ「…」グッ

ベジータは喋らずに拳に力を込めた

神奈子「どうやって倒したんだ？」

ベジータ「全王が全てを消した」

全王とは全ての宇宙の頂点であり、機嫌を損ねるだけで消滅させるとてもヤバい人物？である。

ベジータ「…もういいか」

神奈子「すまなかった」

ベジータ「別にいい」

自分に力さえあれば消える事のなかった未来を思い出しながらベジータは語り終えた。

ベジータ「そーいやカカロットは知ってるか？」

神奈子「カカロット？」

ベジータ「あゝ……………ソーン、ゴクウ…だったか」

ベジータは普段からカカロット呼びするので孫悟空と言うのはとてもカタコトになるのだった。

早苗「わからないですね…」

ベジータ「すまん」

ベジータ「…強い奴はいるか？」

諏訪子「何故だい？」

諏訪子は突然強者について訪ねるので不思議に思った。幻想郷では弱者だとしてもそれなりに力があるので、一般人からしたらだいたい脅威であるに変わりない。

ベジータ「奴は強い奴と戦う事が好きだからな」

神奈子「……なら、一端博麗神社に行ったらいい」

ベジータ「博麗神社？何故だ」

神奈子「外来人ならば必ず行かなければいけないからな」

ベジータ（神社の神が他の神社に行くことを勧めるって変な話だ）

神社が他の神社を勧めるのは、敵に塩を送るようなものだ

ベジータ「それは何処だ？」

神奈子「この先を真っ直ぐ行ったらつく」

ベジータ「すまなかつたな」ピッ

ベジータは礼を言い、守矢神社の外に出た。

神奈子「ああ」

早苗「また、来てくださいね〜!!」

ベジータ「時間があったらな…」フワー

諏訪子「じゃあね〜」

ベジータ「世話になった」ドヒューン

ベジータは神奈子達に別れを言い博麗神社へ飛んでいった

4話 対決!! 悟空VS魔理沙

ベジータが博麗神社に向かう途中

魔理沙（今の所全部の弾幕が避けられちまつてるな…）

悟空「ふっ」シャツ

魔理沙（また消えた…クソ）

悟空は軽快なステップで器用に魔理沙の弾幕を避け続けた。

悟空「こつちだあ!!」

魔理沙「こうなったら…!!」【魔符「スターダストレヴァリエ」

悟空「いい!?よっ：と：」クル

魔理沙は普通の弾幕では悟空に当てる事は不可能だと感じとったのかスペルカードを使った。魔理沙のスペルカードに翻弄される悟空は苦戦を強いられていた

魔理沙「こつちだぜ!!」【魔符「ミルキーウェイ」】

悟空「わ!わわわ!」ヒョイ

悟空「クツ!だだだだだだだだ!!」【連続エネルギー波】

悟空は自身の気弾で魔理沙の弾幕を相殺したが、特段意味はなさなかった。

魔理沙「これならどうだ!」【恋符「ノンディレクシヨナルレーザー」】

悟空「グググ：：だあああ!!」

悟空は気合いで魔理沙の攻撃を消し飛ばした

悟空「おめえの力こんなもんじゃねえだろ」

魔理沙「わかつていたのか？」

悟空「まあな」

魔理沙「この一撃に全てを込める！」【恋符「マスタースパーク」】

魔理沙は八卦炉に魔力を送り込みエネルギーをチャージし始めた。相手が悟空ではなかったら、フパワーの一撃は出せなかったが、相手の全力と闘いたい悟空の気持ちにより溜める時間が出来た。

悟空「か…め…め…め…」【かめはめ波】 スッ

魔理沙「マスター…」ピカッ

悟空「は……め……」ブウン

魔理沙「スパーク!!!」ズオオ!!

悟空「波……!!!」ボオオオ!!

悟空と魔理沙、互いの大きなエネルギーがぶつかり合った

魔理沙「私のマスタースパークにそっくりだぜ!!」

魔理沙はそう言いつつ、徐々に……確実に押さえている事に気付いていた。

悟空「おめえはすげえよ…… たった一人でこれ程の力あ持ってたんだ…… オラ、ワクワクしてんだ!!!」バツ

まるで昔の時に皆の力で凶悪な魔神を倒す瞬間に言った様なセリフを魔理沙相手に

喋っていた。

魔理沙「へえ……そいつはありがたいな……」ズズズ

悟空「はっ!!」グイッ

悟空はかめはめ波の軌道を魔理沙に当たらない様ずらした

悟空「なあ」

魔理沙「どうしたんだぜ？」

悟空「おめえ誰だっ？」

魔理沙「何……言ってるんだぜ？」

悟空「魔理沙じゃねえ……」

魔理沙（なら、誰に向かって言ってるんだぜ…？）

悟空「隠れてもわかんた、其処に居るんだろ？」

悟空は魔理沙…ではなく、その後ろに訪ねた。

??? 「あやややや…バレていましたか…」

悟空「オラ気を探れんだ。だから大体の位置はわかる…」

ちなみに悟空の世界では強者は大体気を察知する事が可能である。

??? 「そうですか…申し遅れました。私は射命丸文、鴉天狗です」

悟空「文か…オラ孫悟空だ」

文「驚きませんか…」

悟空「へへへ」

「その頃ベジータは」

ベジータ「っ!？」

ベジータ「この気は… カカロットだな…!」ニヤ

ベジータ「はあっ!!」

ベジータ（っ!?!何だこの気は!）

ベジータはカカロット…：悟空と共に別の、違和感のある邪悪な気も察知した。

ベジータ「これは…まさか…な…」

ベジータ（カカロットは気付いているのか？）

ーその頃悟空達はー

悟空「っ?!皆ー!逃げろー!!」

悟空も違和感に気付いていた。

魔理沙「何でだぜ!」

悟空「ベジータ：． おめえらはぜってえについてくるんじやねえ!!!わかったな!!!」

そして悟空はどこかへ飛んでいった

魔理沙「悟空があそこまで起こっているなんてどうなっているんだぜ??」

文「追いかけてみましょう…せめて、悟空さんが何かしようとしていたらその手助けでも…」

ドガアアアアアアン!!!

魔理沙「な、何だ!?!」

突如、悟空が飛んで行った場所から大きな爆発音が鳴り響いた。

霊夢「魔理沙!! 悟空さんは何処!?!」

ちょうど霊夢も魔理沙と合流出来た。

魔理沙「飛んでいったぜ…物凄い怖かったぜ…」

―荒野―

悟空「ベジータ：——何でおめえがこんなことを…。」

ベジータ? 「ふん…： カカロットオ! オレと戦えー!」 ガツ

ベジータは悟空に対して自分と闘う様に叫んだ。
ただし…

悟空「何でおめえが洗脳されてんだ!」

破壊王子ベジータSS「ふっ」ニヤ

ベジータは早苗達と会っていない方のベジータだった（このベジータは魔神ブウ編のベジータです。ので力もあのままです。）

破壊王子ベジータSS「さっさと本気になれ……カカロット!!」

悟空「ベジータ……!」

5話 サイヤ人の本質!ベジータ対ベジータ!?

破壊王子ベジータ「カカロット!!必ず貴様を始末してやる!!!」

悟空（こりやあすぐには終わりそうにねえや…）

破壊王子ベジータ「考え事か?呑気な奴だっ!」バツ

悟空「クツ!……はあああああ!!!」ズオオ

悟空の周りに物凄い大ききさオーラが出たのと同時に幻想郷全体が揺れた。

悟空「はっ!!」ドウツ

悟空SS「……ベジータ、こっちは準備出来たぞ。」

悟空は超サイヤ人に変身し、多少の揺れは収まった。

破壊王子ベジータSS「貴様！舐めてやがるな！本気で戦え！！カカロットオオ！！」

破壊王子ベジータSS2「舐めやがって……！！」

破壊王子ベジータは超サイヤ人2に変身したが、変身する時は超サイヤ人の時より揺れた。

悟空SS「オラがおめえを倒す!!!ベジータ!!」

そして悟空とベジータがぶつかり合った

悟空SS「だりやりやりやりやりや!!!」

破壊王子ベジータSS2「でやあ！うおらあ！はあっ!!!」

悟空とベジータはぶつかり合った。ベジータは全力を出したが悟空は全くもって全力ではなかった。

悟空SS&破壊王子ベジータSS2 『はああああああ!!!』ブウン

破壊王子ベジータSS2 「くらえ!」【ギャリック砲】

破壊王子ベジータSS2 「ギャリックh.:.」ズガアアン

悟空SS 「え!?!」

ベジータがギャリック砲を放つ寸前で何者かの手によって封じられた。

破壊王子ベジータSS2 「だ、誰だ!オレの戦いを邪魔した奴はあ!!!」

??? 「残念だったな」ニヤ

破壊王子ベジータSS2「な、何だと!？」

悟空SS「何故おめえが……ベジータ!!!」

ベジータは予想外だった。まさかもう一人の自分がいた事に、そしてその自分が自分よりも圧倒的な力を持つ者ということをしる。

ベジータ「オレが相手だ……さっさとかかってきやがれよ雑魚が……」ヒュッ

ベジータは自分自身に向かって軽く挑発をした。相手は自分なのでこの程度の挑発でも効果的である。

魔理沙（ど……どうなってんだ!?!）

文（悟空さんの言うベジータさんが二人!?!）

見た目がそっくりの相手に少し混乱している者が二人いた

ベジータ「おいカカロット、其処に居る奴と一緒に離れているんだな」

悟空SS「え?…… あ、おめえら!」

魔理沙&文『バレた!!!』

悟空「仕方ねえなあ、おめえらは……」

魔理沙&文『あ、あはは〜』

悟空はため息をつきながら二人を連れてその場から離れた

ベジータ「おい、過去のオレ」

破壊王子ベジータSS2「何だ?オレと戦うつもりか?笑わせる」

ベジータSS「己の誇り一つ守れん負け犬風情にオレが負ける訳あるか!!!」

破壊王子ベジータSS2「貴様を始末したら次はカカロットだ!!覚えておけ!!」

Wベジータ『はああああああ!!!』

二人のベジータはほぼ同時に気を溜め：

Wベジータ『でやああああ!!!』

同時に攻撃を仕掛けた。二人のベジータがぶつかり合った途端、大きな衝撃が広がった

ベジータSS「貴様!!サイヤ人の本質が何かわかるか!!」

破壊王子ベジータSS2「サイヤ人の本質?そんなもん決まっている... 邪悪さこそがサイヤ人の本質!!誇り!!それが無い貴様に負けるかああ!!」ブン ガシツ

ベジータは自分に向かってサイヤ人の誇りを問いかけたがその答えがベジータの癪に触った。

ベジータSSG「ふざけるなよ……」

破壊王子ベジータSS2「何!?!」

ベジータSSG「サイヤ人の本質は邪悪さだと?違う!戦闘民族サイヤ人の本質とは戦い続けること!己を高め、ただ強さを求めることだ!!!」ブン

破壊王子ベジータSS2「こはあ…!?!」

破壊王子のベジータは自分に何が起きたかわかっていなかった…わかった事があるとすれば、自分を遥かに凌駕するスピードとパワーがあるということだけだ。

ベジータSSG「はっ!!だっ!!でやあ!!!おらあ!!たっ!!はあ!!たあ!!」ドガガガガガ

ガガガ

破壊王子ベジータSS2「がはっ」

ベジータは反撃する隙を絶対に与えようとはしなかった。その為、破壊王子ベジータは何もする事が出来ず、ただ一方的にボコられ続けるだけだった。

破壊王子ベジータSS2「クソツタレがあああ!!!地球もろとも宇宙のチリになれえええ!!!」【ギャリック砲】ブウン

ベジータSSG「こいつを受け止める勇氣があるかああああ!!!」【ファイナルフラッシュ】バチバチ

破壊王子ベジータSS2「ギャリック砲ー!!!」

ベジータSSG「ファイナルフラッシュー!!!」

Wベジータ『はあああああああ!!!』

ベジータの必殺技がぶつかり合い、互角と思われたのはほんの少しの間だけだった。

破壊王子ベジータSS2「お、押され… うわああああ!!!」

ベジータSSG「逃がすか!!!」ドゴ

ベジータは例え自分が相手でもトドメを刺すのに躊躇いはなかった。

ベジータSSG「ビッグ・バン・アタック!!」【ビッグ・バン・アタック】

破壊王子ベジータSS2「ふおあああ!!!」ドガアアアアア

ベジータは破壊王子になったとしても超サイヤ人ゴッドベジータのビッグ・バン・アタックフルパワーに耐える術がないのでそのまま食らってしまった。

6話 孫悟空と紅魔館く美鈴編く

ベジータ「まったくあのやろう…。」

悟空「別にいいじゃねえか… 終わったしさあ…。」

ベジータは自分に勝ったがまだイラついていた。

悟空「魔理沙…つ文…つ霊夢ん所に戻つぞー！」

魔理沙「なあ…。」

文「わかってます…。」

魔理沙&文（絶対にサイヤ人を怒こらせたらダメだ…。）

ベジータ「おいっ！行くぞ！」

魔理沙&文「は、はい!!!」フワァー

魔理沙と文は決してベジータの機嫌を損ねる事は起こさない様気を付けていた。

悟空&ベジータ『…なっ!?!』

その時、悟空とベジータはある異変に気付いた。

悟空「なあ… 魔理沙、空って彼処まで紅い霧無かったよな？」

魔理沙&文（っ!?!）

魔理沙「紅魔館の奴らまた何かしでかしたと思うぜ」

悟空&ベジータ『コウマカン?』

文「紅霧異変再び!!!ですか…」

文はため息をつきながら悟空達に着いていった

ベジータ「前もあったのか？」

文「はい…」

悟空「そいつらつてつええんか？」

文「まあ、はい、一応…」

魔理沙（本気出さなくても勝てそうだぜ…）

魔理沙はこの時幻想郷のパワーバランスが崩壊しているのを悟ってしまった。

ーその頃霊夢は……ー

だらけていた……

霊夢「うっさいわね!!」

聞こえてんの!?

霊夢「聞こえてないわよ!!!」

絶対聞こえてるわ……これ

霊夢「レミリア、また懲りずにやってるのかしら」

無視かい! まあ……いいのか

霊夢 「めんどくさいけど、行くか…」 ヒューーン

霊夢 「あ、この湖の周りはめんどくさいのが居るんだったわ」

サイキョー妖精から逃げるな！

霊夢 「あんたは口出すな!!」

すんません…

???&???&??? 『私達と遊んでくれるよね〜?』

霊夢 「あんたら…」

この三人組はサニーミルク、ルナチャイルド、スターサファイアの三月精である。普通に霊夢より弱いので脅威はない

霊夢「あんたら他の妖精共と一緒に遊んできなさいよ……」

サニーミルク「え〜」

霊夢「構ってる暇無いの此方は」

スターサファイア「いつものぐうたら巫女が？」

霊夢「そこ！うるさい！」

サニーミルク「逃げろ〜」キヤツキヤツ

霊夢「何でいつも邪魔されるのかしら？」

霊夢は嫌々ながらもしつかり追いかけ、悪戯妖精共を成敗した

ーその頃悟空達はー

??? 「あたいのテリトリーに勝手に入ったな〜！」

悟空 「何だおめえ？」

??? 「やめようよ〜チルノちゃん」アワアワ

チルノ 「あたいに任せといて！大ちゃん！」

大妖精 「チルノちゃん」

悟空達の前に現れたのは、氷の妖精チルノとその友達の大妖精だ。

ベジータ 「くだらん…。」

チルノ 「くだらなくないぞー!!あたいの力に驚くといい！」

悟空「おめえつええんか？」

チルノ「当たり前よ！何せあたいはサイキョーなんだから!!」

ちなみに最強なのは本当ではあるが、嘘でもある。

悟空「じゃ、オラと戦ってくれ！」

チルノ「いいけど、あたいを暇にさせないでよね！」

ベジータ（普通楽しませてくれ…じゃないのか？）

ベジータはチルノの言葉に対して心の中で冷静に突っ込んだ。

悟空「いくぞおお！」ビュン

チルノ「え…。」

この時の悟空のスピードをチルノは追う事が出来なかった

悟空「だりやああ!!」ドガツ ピチューン

悟空「いいい!? やつちまったか…?」

ベジータ「バカかお前は!」

悟空「わりいわりい」へへへ

妖精が弾け飛んだにも関わらず、呑気である。相変わらずの平常運転だ。

魔理沙「妖精はピチュツでも生き返るから安心するんだぜ! チルノの最強はへ妖精の
中で〜だぜ…。」

る。
魔理沙はチルノのサイキョーの意味を伝えた……悟空が理解しているかは不明である。

悟空「ま、いつか！」

ベジータ「貴様な……」

悟空「何だ？ベジータあ」

ベジータ「もういい……」

ベジータは怒りを通り抜け、呆れの境地まで行った為諦めた。

文「着きましたよ」

ベジータ「あれが紅魔館か……」

ベジータ「……………ん？」

悟空「どうした？ベジータ」シヤッ

悟空「……………んなっ!？」ガッ

悟空「あぶねえ、何すんだおめえ」

悟空は不意打ちの攻撃も上手く対処し、相手から少々離れた。

??? 「今は緊急事態なので誰も通しません」

魔理沙「珍しいな、居眠り門番が寝てないなんて…」

??? 「酷くないですか!？魔理沙さん」

??? 「私は虹色の門番、紅美鈴です。貴方は？」

悟空「オラ孫悟空だ」

ベジータ「ベジータだ」

悟空とベジータは流れで挨拶した。

悟空「なあ美鈴、オラと手合わせしてくんねえかな？」

美鈴「え!? まあ、いいですけど…」

悟空「オラが勝ったら中に入れてくんねえかな？」

美鈴「……………は？」

美鈴のリアクションはごもつともである。

魔理沙「まゝったやろうとしてるぜ……」

ベジータ「お気楽な奴だぜ……全く」

悟空「オラ達だつておめえの緊急じてえつてのを手助け出来ねえかなつてさ？」

美鈴（本当はお嬢様と咲夜さんからダメって言われてるけど……仕方ないか）

美鈴「いいですよ……ただし負けたら引き返してくださいね？」

美鈴は軽く手加減しつつ、しっかり勝利して追い払うという考えに至った。

悟空「おう！」

悟空は美鈴が気を使える事に気付き、内心ワクワクしっぱなしだった。

7話 激突! 悟空と美鈴

悟空「行くぞお! 美鈴っ!」ザッ

美鈴「何処からでもどうぞ…!」サッ

悟空は先手を打ち、美鈴も戦闘態勢をとった。

悟空「だりやあああ」シユン

美鈴「消えた!?!」

悟空は美鈴が見る事が出来ない様なスピード背後にまわった。

悟空「此方だ!」ドガッ

美鈴 「きやあ!!」 クルツ

美鈴 「はいやー!!」 ギユワツ

美鈴は悟空の攻撃を受けるも、すぐに反撃しようとした。

悟空 「やべっ!?!」

美鈴 「やー!」 ブン

悟空 「いいい!?!」 ヒョイ

悟空は美鈴の攻撃を超ギリギリで避けていた。

美鈴 「はいやー!!」 ブオン

悟空 「危ねっ」 ギイツ

美鈴「私の本気、貴方に見せます!!!」【虹符「烈虹真拳」】

悟空「へ〜きれーだなー…。って感心してる場合じゃねえか…。」バツバツバツバツ

悟空は美鈴のスペルカードに見とれていたがすぐに気を取り戻した。

美鈴「まだまだこんなもんじゃないですよ」【彩華「虹色太極拳」】

悟空「おもしれえなおめえ、よっしゃ!じゃあ…。!」【20倍界王拳】

悟空「界王拳…。!20ベえだあああ!」ズオオ

悟空「だりやああああ!!!」ビュン

美鈴（は、速いっ…。!）

悟空「だりやりやりやりやりや!!!」ドガガガガガガガ

さっきの悟空のスピードでも苦戦していた美鈴が20倍界王拳のスピードを対処するのは無謀な事だった

美鈴「うっ：くっ：うわっ！」ドガッ

悟空「ふっ」バシユウ：

美鈴「何故戻ったんですk」

悟空「はああああああ!!」

美鈴が喋り終える前に、また気を溜めだした。

美鈴「き、気が高まっていく：：！」

悟空「はああっ!!」ズオオオオオオオオオオオツ!!! カッ

悟空は更に気を溜め、体が光りだした。その光が収まると中から金色の髪と緑の目、威圧感溢れるこれまた金色のオーラを纏った悟空がいた。

悟空SS「これは超サイヤ人だ…」

美鈴「……………んなっ?!」

美鈴は悟空の放つ威圧に怯んだ。

悟空SS「全力でいくぞ!!!」ブワッ

美鈴「私も… いきます!」【彩符「彩雨」】

悟空SS「だだだだだだだ!!!」【連続エネルギー弾】ズガアアン!!

悟空は数々のエネルギー波でスペルカードの弾幕をほぼ全て相殺した。

美鈴「これが私の全てです!!!」【真紅星脈地転弾】

美鈴は自分のスペルカードでは歯が立たない事を悟ったのか今度は美鈴のラストワードを繰り出した。これは文字通りの最終兵器である。

悟空SS「だあっ!!!」【フルパワーエネルギー弾】ズガアアアアン

美鈴「!?……………そもそも私に勝ち目など存在しなかった訳ですか……………」

悟空SS「おめえの強さはよくわかった!」

美鈴「……………え?」

悟空「悪かったな…美鈴」

美鈴「いえ、元から貴方に勝てるとは思っていませんし、負けると確信してましたから…。」

美鈴はそもそも勝ち目が100%以上ないということがわかっていた様に話した。

魔理沙「美鈴…。」

ベジータ「おい、何故貴様らがこんな霧を出しているんだ」

美鈴「そうでした!!すっかり戦いに夢中になって忘れてました!!」

ベジータは霧について問うと、美鈴はまるで今思い出したかのように慌てた。

悟空「こんなかにある一つのとんでもねえ気のことか?」

美鈴「はい!!このままではお嬢様がああ!!」

魔理沙「まさか、フランが関係しているのか!？」

ベジータ「フランって奴がそのお嬢様なのか？」

美鈴「いえ、正確に言えばお嬢様の妹様です」

美鈴は冷静にフランの家系を説明するも、ベジータは興味がなさそうだった。

ベジータ「そいつがこんな邪悪な気を持っているのか…」

美鈴「邪悪な気を持ち始めたのは最近です」

ベジータ「どう言うことだ!？」

悟空「駄目だ…オラさっぱりわかんねえぞ…」

悟空は現在置かれている状態を理解していなかった。

ベジータ「このバカめ…」

美鈴「妹様の能力はありとあらゆる物を破壊する程度の能力です」

ベジータ「要するに破壊するパワーを持った妹がさらに邪悪な気に染まったと…」

悟空よりも理解力のあるベジータは普通に美鈴と会話をしていた。

美鈴「はい…」

ベジータ「なら何故霧を出す必要がある」

美鈴「それは妹様の能力で紅魔館が壊れてもお嬢様が生きていられるようにするためです」ドガアアアアアアアアアア

悟空&ベジータ&魔理沙『っ!?!』

美鈴「やっぱ……!!!」

悟空やベジータは突然紅魔館が爆発したので驚き、美鈴は誰がやったかわかっている上で慌てていた。爆発の煙から金髪の赤い服を着た一人の少女が出てきた。

??? 「アハハ、コワレチャツタ… モロスギルノガイケナイノヨ」

その少女は狂っているという表現が正しく、周りからは真つ黒のオーラが溢れていた。

悟空「あいつか…！」

魔理沙「あいつが… フラン、だぜ」

ベジータ「何て禍々しい気だ…！」

??? 「うっ!!」ドゴッ

フランの攻撃を受けていたのはフランに似ていたが傷だらけで吸血鬼に相應しい様な羽が付いていて、カリスマ感漂う?様な少女だった。

??? 「お嬢様っ!!!」

フラン「オネエサマハカンタンニコワレナイヨネ?」フワー

??? 「はあ……はあ……はあ……はあ……はあ……」

美鈴「お嬢様!!!咲夜さんっ!!!」

咲夜「美鈴……貴女は離れていなさい……はあ……はあ……」

美鈴は全身傷だらけでメイドの格好をした人物の事を「咲夜」と呼んだ。

悟空「でえじよおぶか？これ仙豆だ。食べ」スツ

たとえ知らない人だとしても困っていたら助ける。それが孫悟空という人物なのだ。

咲夜「貴方は……？あ、ありがとうございます」カリツ　ゴクツ

咲夜「こ、これは……！」

全身ボロボロだったのにたった一つの豆で傷が治り、体力も全回復したので咲夜は驚きを隠せないでいた。

悟空「オラ孫悟空だ」

自己紹介をするのが遅いと思うかもしれないが仕方ないのかも知れない。

咲夜「ありがとうございますわ、孫悟空様。私は十六夜咲夜、紅魔館のメイド長をしております」

??? 「私は… レミリア・スカーレットよ… 紅魔館の主よ…」 フラア

悟空 「あぶねっ、おめえも食え」 ガシッ

レミリア 「ありがとう…」 カリッ

レミリア 「助かったわ、そして彼処に居るのが…」

悟空 「フラン… だな？」

レミリア 「…!!? ……ええそうよ… フランドール・スカーレット、それが妹の名前よ」

自分の妹の名を当てた為、多少は驚いたが近くに美鈴や魔理沙がいたので知っていてもおかしくはないと勝手に信じた。

8話 孫悟空と紅魔館くフラン編く

フラン「コンドハメーリンタチガオモチャニナツテクレルノ？」ニヤ

ベジータ「ふざせるな!!! いい加減にしやがれー!!」

美鈴「あ… あ… あ…」

ベジータは自分がおもちや扱いされている事に凄く腹を立てた。そして美鈴の方は絶望しきっていた。

悟空「なあ、美鈴…!」

美鈴「は、はい!!!」

悟空「おめえは仙豆持って他にケガしてる奴を治しにいつてくれ…!」

美鈴「で、でも…。」

文「私も一緒に行きますよ、この中じゃ足手まといにしかならなさそうだし…。」

美鈴は多少遠慮したが文と一緒に行くことで一応同意した

霊夢「遅れたわ… ってもしかしてあれフラン？」

咲夜「そうよ」

霊夢「何で平然としていられるのか不思議だわ」

フラン「ヤッター、オモチャガフエター♪？」

霊夢「フラン、完全に狂ってるわね…。」

霊夢は咲夜の平常心っぷりに少し突っ込んだがフランの様子を見て引いた。

悟空「よし………フランっ！オラが相手だあっ！」バツ

そして霊夢がフランに対して引いていると、悟空が闘いを挑みだした。

フラン「オニイサンガアソソデクレルノ？カンタンニコワレナイデヨ……ネー！」ドン

悟空「クツッ!!」ビュン

フランの突然の攻撃も悟空はギリギリで回避し続けた。

フラン「スゴイスゴイ♪？」【禁忌「フォーオブアカインド」】

フラン×4『アハハハハ!!』フラン1【禁忌「レーヴァテイン」】フラン2【禁忌「克蘭ベリートラップ」】フラン3【禁忌「カゴメカゴメ」】フラン4【禁忌「恋の迷路」】

フランは狂っているせいなのかは知らないが、スペルカードを同時に何枚も使いだした。スペルカードのルールは複数だったり同時使用など色々制限があるのだがそれをフランは無視して悟空に攻撃していたのだ。フランの大量のスペルカードは悟空を襲った。

悟空「嘘だろ……!?本気だすしかねえか…はああああ!!」ズドドドド…

悟空SS「だあああああ!!」ボウツ

悟空の周りから金色のオーラが出現し、超サイヤ人に変身した。悟空の超サイヤ人は敵を気を感じない人物でも威圧する事が出来た。

フラン「チョットイロガカワツタグライデチヨウシニノラナイコトネ」

しかし、フランはただ色が変わったただけだと勘違いしていた。

悟空SS「……フツ」ニヤ

霊夢「わ、笑ってる……?」

霊夢は悟空が何故笑っているのか理解出来なかった。

悟空SS「…はっ!!」ボウツ

悟空SS2「…さっきの変身は超サイヤ人、これが超サイヤ人2…」バチバチ
超サイヤ人2はあまりの気の大きさから、無意識にスパークが発生していた。

悟空SS2「…そして…!はあああああ!!!!」ゴゴゴゴゴ

霊夢「え?何これ?地震!」

美鈴「いえ!これは…悟空さんから起きてます!!!」

悟空が気を上げだすと、周りから不自然に地震や落雷が発生しだした。そして、少しずつではあるが悟空の髪がどんどん長くなり眉毛が薄くなった。

バチバチ：バチバチ：バチバチ：

フラン「……?!?!」

悟空の圧倒的な威圧がフランに向かって本能的な恐怖が襲いかかった。ベジータ以外まともに喋る事すら出来なかった……

悟空SS3「どうした…フラン？今ならおめえでも感じとれつだろオレのパワーをさ……」

悟空SS3「こいつが超サイヤ人3だ…この変身はな、体力の消耗が激しいんだ…さっさとケリつけつぞ!!」シユン

超サイヤ人3は普通の超サイヤ人と違って、気の消耗がとても激しく、気を溜めるよ

り減る方が早いので早期決着型の変身である。

悟空SS3 「まずは、分身が邪魔だな……」

悟空SS3 「クリリン技借りっぞ!!気円斬!!」【気円斬】ブウン

悟空の掌から円盤型の気弾を生成した。

悟空SS3 「でやあああ!!」ブウンズバツ!

悟空の気円斬がフランに当たり分身フランは消えた…そして着々と分身を消し、最後のフラン…一人だけになった

悟空SS3 「かゝ!めゝ…!」【かめはめ波】

悟空SS3 「はゝ…!めゝ…!!」

フランの顔は最早絶望の表情だった。そして自分の命の危機を感じると、

フラン「ヤ、ヤメロオオオオオオオ!!」バツ

悟空に襲い掛かろうとしたが間に合わず…

悟空SS3「波くく!!」ズオツ

フラン「なっ!!!」ズガアアン!!!

フランは悟空のかめはめ波に呑み込まれた。

フラン「うっ……ううう……」ズズズ……フツ

悟空「でえじょうぶか!？」

悟空はフランから邪悪な気を感じなくなると、心配しながら仙豆を取り出した。

フラン「ごめんなさい……ごめんなさい……お姉様あ……皆……うわああああん！」
レミリア「いいのよ……無事なら……」

フランは泣きながらレミリアに抱きつき、レミリアもフランを抱きしめた。

咲夜「お嬢様……！妹様……！」

咲夜は姉妹愛に感動していた。

ベジータ「つたく、世話焼かせやがって」

悟空「別にいいじゃねえか、ベジータ」

ちなみにベジータは今回は何もしていなかったりする。

レミリア「フランを… 私達を助けてくれてありがとう…」

悟空「別にこれくれえどうってことねえさ！」

レミリアは頭を下げたが、悟空は全く気にしなかった。

魔理沙「悟空らしいぜ」

???「終わったの？」ゴホツゴホツ

既に崩落寸前の紅魔館から出てきたのは、紫色のパジャマ姿の様な格好で出て来た少女と後ろから羽の生えた小悪魔がいた。

レミリア「ええ、パチエ… 紹介するわ、私の親友のパチュリーよ」

パチュリー「パチュリー・ノーレッジよ」

悟空「オラ孫悟空だ、よろしくな！」

悟空は初めて会った人物だとしてもまるで知り合いの様に話すので違和感を感じられなかった。

??? 「パチュリー様く!!」

パチュリー「あら、どうかしたの?こあ」

小悪魔「さっきまでボロボロだったので無茶しちやダメですよく!!」

パチュリーと小悪魔は美鈴から貰った仙豆で全回復していた。

美鈴「ありがとうございます、悟空さん。にしてもこの豆スゴい効果ですね!!一粒で体力満タンは破格ですよこれ!!!」

パチュリー「ほんとその豆ですべて治ったわ、体も軽いし」

悟空「良かったな」

霊夢「その豆そんなに便利なの？」

霊夢は仙豆を食べてないので威力を知らない。

悟空「ああ、生きていたら病気以外全て治るぞ」

霊夢「チート豆ね……」

今では一粒で体力全回復の豆みたいに言われるが、昔は一粒で10日食べなくていいものだった。

魔理沙「回復魔法より速く、効果抜群ってやばすぎるぜ」

パチュリー「そうね……何のための回復魔法かしら……」

仙豆の超。パワーに魔法使いは嘆いていた。

悟空「仙豆を10粒程やるから、これで栽培とか研究に使ってくれ!!!」

レミリア「何から何まで悪いわね…。」

悟空「またなく!!!」

悟空は紅魔館のメンバーに別れを告げ、飛んだ。

美鈴「また、来てください!!」

レミリア「歓迎するわ」

フラン「遊んでね♪?」

咲夜「どうもありがとうございます。」

魔理沙「じゃあなく！」ブンブン

パチュリー＆小悪魔『……………ん？』

しかし、違和感を感じている者が2名いた。

パチュリー「…あつ、魔理沙！本返しなさい！！」

小悪魔「いい加減返して下さい！！」

魔理沙「今じゃないだろ!?後、死ぬまで仮りるって約束したしな♪?」

ベジータ「泥棒じゃないか…」

霊夢「まだやってるのね…」

悟空「あはは…」

魔理沙の盗み癖でベジータと霊夢は呆れ、悟空は苦笑いした。

文「写真撮りますから集まって下さいね〜」

霊夢「全くどいつもこちつも…」グチグチ…

こうして異変は解決した…しかしこれは始まりに過ぎなかった…

9話 サイヤ人と吸血鬼と華人小娘とく

フランから黒い気を解放して1週間がたった

悟空「美鈴、おめえも上手く気をコントロールできてるな！じゃ、明日からちげえトレーニングすつぞ！」

美鈴「はい！」

悟空「明日からは、界王拳を体に慣らす特訓だ！」

ちなみに、1週間の間に美鈴は界王拳を習得していた…。さらに悟空とベジータは紅魔館に現在住んでいる

悟空「じゃ、オラ飯採ってくる！」

美鈴「行つてらっしやいませ!!」

悟空とベジータは紅魔館の食糧を半分食い尽くしたため、レミリアから昼・夜の飯は自分達で採ってくるようにと命じた…。ドンマイ、紅魔館

フラン×4「はあああああ!!」【禁忌「フォーオブアカインド」】ババババババ

ベジータ「…」ヒョイヒョイヒョイ

悟空が昼飯を採りに行こうとしている頃、フランはベジータと遊んでいた（ベジータからしたら攻撃を避けるトレーニングのようなものである）

ベジータ「はっ!!」ドウツ

フラン「きゃあ!」ドテツ

ベジータは気合でフランを吹っ飛ばした、フランは地面に当たった。

ベジータ「大丈夫か？」

フラン「平気だけど… やっぱり私には無理なのかな…」 ショボン

ベジータ「そんなことはない… 現に貴様には吸血鬼の血が流れているんだ… お前なら出来る」

何処かのナメック星人のようなセリフで励ましたベジータだった。

フラン「ありがとう…」

ベジータ「礼などいらん」 フン

悟空「ベジータあゝ、飯採ってこねえと怒られちゃうぞ〜！」

ベジータ「そうだったな」

悟空とベジータが食糧を採りにいったその頃ある場所では……

??? 「今回こそ、西行妖を復活させるのよ……」ズオオオオオ……

??? 「はい……」ザッ

今を謳歌する悟空達を余所に不穏な影が漂っていた……しかしそんなことを知らない悟空達は1日を過ごし、半年がたった……

悟空 「なあ、霊夢？これって異変じゃねえか？ううくさみいや……」

霊夢 「まくた白玉楼の奴ら西行妖咲かせようとしてるのかしら？」

悟空 「誰だ？」

霊夢は白玉楼に住む者が幻想郷の春を全て奪った異変があったことを告げた。

霊夢 「幻想郷から春を奪った奴らよ」

悟空 「わりい奴なんか？」

霊夢 「最近は暴れていなかったのに：」

悟空 「どんな奴なんか？」

霊夢 「はつきり言ったら亡霊ね、つまり死人よ」

悟空 「へへ」

霊夢は死という単語で悟空を嘲笑おうとしたのだが、軽いノリで返事されたので違和感を抱いた。

霊夢 「あら、驚かないの？」

悟空「珍しいもんでもねえかな」

霊夢「…え？」

悟空「オラだって2回死んでるぞ？」

霊夢（……え!?!）

霊夢は悟空の2度死んだ発言で頭を悩ませてしまった。

霊夢（悟空さんって亡霊なの？でも…ってこの人2回も死んでるの!?!）

悟空「生き返らせてもらってるから心配すんなって！」

霊夢（えええ…）

悟空「ベジータもおんなじだぞ？」

霊夢（ベジータさんも…）

悟空「クリリンは… 3ヶえぐれえか？」

霊夢（幻想郷は常識が通用しないけど、この人達は常識がないわ… 幻想郷だって死人は生き返らないけど…）

霊夢は考える事をやめた。

悟空「どうした？」

霊夢「な、何でもないわ…」

悟空「そっか」ゾワツ

悟空&霊夢『……っ!?』

霊夢「な、何なのよ… この嫌な気配は…」

悟空「邪悪な気がビリビリ感じっぞ…！」

悟空と霊夢は邪悪な気を感じた。霊夢は気を感じない筈なのでとてつもなく邪悪と
いうのがわかった。

悟空「瞬間移動すつから、手出してくれ」

霊夢「え?ええ…」スツ

悟空「ベジータ…ベジータ…見つけた!!!」シヤッ

悟空「よう」

ベジータ「カカロットか…」

悟空「こりやまずいな…」

ベジータ「ああ…」

悟空とベジータは互いに顔を見合せ、険しい表情に変わった。

悟空「なあ霊夢、白玉楼って何処だ？」

霊夢「冥界よ」

悟空「め、冥界い？」

霊夢「行ったらわかるわ」

ベジータ「随分ざっくりだな…」

ベジータは霊夢に対して少し呆れていた。

悟空「じゃ、レミリア行ってくる」

レミリア「ええ…」

フラン「帰ってきてよ♪？」

ベジータ「当たり前だ！」

悟空「美鈴また後でな！」

美鈴「はい！」

魔理沙「何だか面白そうだぜ」ヒョコ

霊夢 「いつからいたのよ、あんたは」

そして、悟空、ベジータ、霊夢、魔理沙は冥界へ飛んでいった。

10話 黒い気の正体

悟空「ここが冥界か……」スタツ

霊夢「ええ、そうよ」

悟空達は霊夢の案内により冥界に到着した。

ベジータ「何だこの階段の長さは!?!」

魔理沙「私達は飛べるからいいけどな♪?」

悟空達は階段を飛んで移動するとある少女が出てきた。

??? 「アナタタチガシンニユウシヤデスカ」

ベジータ「……む？何だ貴様」

??? 「トリアエズ… キル!!」

魔理沙 「どうしたんだぜ!?! 妖夢!!!」

妖夢 「ワタシハドウモシテマセンガ」ズズズ…

悟空 「この気は…!」

ベジータ 「カンバーの悪の気にも似ているが自我のようなものはないぞ!」

悟空とベジータはこの邪悪な気を少し知っているような口調だったが妖夢が持つ気は違うようだ。

悟空 「はああああああ!!!」ゴゴゴゴゴゴゴゴ

孫悟空は超サイヤ人（SS）に変身した

悟空SS「……」

悟空は相手の動きを観察するような感じだった。

妖夢「…グッ！う、ううう…ふう…」ジユワ…

ベジータ「何だ？」

妖夢「どうしました？」

妖夢は苦しんだかと思うとすぐに戻った。

悟空SS「いいっ!？」

妖夢「かかってこないなら此方からいきます!!」

妖夢「……妖怪が鍛えたこの楼観剣に 斬れぬものなど、あんまり無い！」

悟空SS「あんまりかよ〜」

ベジータ（……何故確信がない）

魔理沙「前も同じ事言ってなかったか？」

霊夢「言ってた気はするけど……」

悟空は呆れ、ベジータは内心で突っ込みみら霊夢と魔理沙は確認していた。

妖夢「人鬼「未来永劫斬」!!!」【人鬼「未来永劫斬」】

悟空SS「うわわわわあ!?!」

悟空は自分の方に斬撃が飛んできたので慌てた。

??? 「壊れちゃえ！」ズガアアン

悟空SS「……へ？」

悟空はつい情けない声を出してしまった。

ベジータ「っ!?!おいフラン!!何しに来た！」

フラン「此処は任せて先、行ってよ」ニコー

フランは悟空とベジータに向かって笑顔を返した。

魔理沙「なら、私も此処で戦うぜ」

ベジータ「好きにしろ……だが、助けんからな」

魔理沙「覚悟するんだぜ、妖夢！」

魔理沙「動くと撃つ！間違えた。撃つと動くだ。今すぐ動く！」

妖夢「ふふっ」ザッ

妖夢は笑うと攻撃モーションへと意向した。

魔理沙「妖夢！それは私達に負けることの意味表示か？」【星符「ドラゴンメテオ」】

妖夢「ふっ！」【餓鬼剣「餓鬼道草紙」】

フラン「あはは！」禁忌「クランベリートラップ」

そして3つのスペルカードがぶつかり合った。

ー悟空達はー

??? 「あらあら」

霊夢 「えっ?」

其処には黒く邪悪な気を纏う西行寺幽々子と八雲紫がいた…。その奥からスキマが現れ仮面の男が出てきた

悟空&ベジータ 『ブラック!?!』

仮面の男 「誰の事だ?俺はブラック等という名ではない」

悟空 「ちげえんか…。?」

悟空とベジータがブラックと叫んだのは、宇宙モドキにいた紅い仮面をつけたゴクウブラックがいたからだ。

ベジータ「おいカカロット、あいつサイヤ人だ…尻尾がある」

仮面のサイヤ人「ほう」

仮面の男は感激しているようだった。

霊夢「此方は何とかするから仮面よろしく頼むわね」

美鈴「援護にきました!!!」

悟空「美鈴!」

悟空はまさか美鈴が来ているなんて知らなかったのが驚いていた。(美鈴は極限まで気を消していたので気がつかなかった)

霊夢「良かったわ…:2対1、しかも幽々子と紫だと私だけじゃ大分無理があるから

……」

美鈴「一人増えたとしても1対1で、相手の方が有利な能力なので簡単には終わりませんよね……」

ベジータ「覚悟しているよ、貴様……」

悟空&ベジータ『はあああああ!!!』

霊夢「あんた、何で其処に居るのよ!!」

紫「ダメかしら？」ズオオ

霊夢「ウツ!?!」ビクッ

幽々子「私達に勝てるかしら？」ズオオ

美鈴「クツ!？」 スッ

幽々子と紫の威圧で霊夢と美鈴は怯んでしまった。

レミリア「私達も居るわ!!!」

咲夜「美鈴遅れたわ」

美鈴「咲夜さん!!!それにお嬢様まで!!」

レミリア「私達が来たからには安心しなさい」

幽々子「あらあら♪?……」

11話 歴史のタイムパトローラー トランクス

悟空&ベジータ『だだだだだだだだだ!!!』ブン

仮面のサイヤ人「この程度か……」ヒヨイヒヨイヒヨイヒヨイ

悟空とベジータは2対1のアドバンテージがあるのにも関わらず仮面のサイヤ人に攻撃が上手く決まらなかった。

ベジータ「クソツ舐めてるんじゃないぞ!!!」【ギャリック砲】

悟空「いくぞベジータ!!!」【かめはめ波】

ベジータはギャリック砲の構えをとり、悟空はかめはめ波の構えをとった。

ベジータ「ギャリック砲!!!」

悟空「かめはめ…」

悟空&ベジータ『波あああああ!!!』ブワッ

仮面のサイヤ人「ダークリベリオントリガー!」【ダークリベリオントリガー】

二人の合わさった攻撃と互角の威力をもった技を使った仮面のサイヤ人は少しずつ押していった。

ベジータSS「はあああああ!!!」ボウッ

悟空SS「だあああああ!!!」ボッ

悟空とベジータは超サイヤ人に変身し、押し返そうと考えた。

仮面のサイヤ人「はああああ!!!」ピー…

??? 「だあつ！」ザン

仮面のサイヤ人「……！」ズガアアアアン!!

一人の青年がぶつかり合った気功波を斬った。

仮面のサイヤ人「何？」

ベジータ「トランクスか！」

その青年は未来のベジータの息子のトランクスだった。しかし、未来のトランクスと違うところは服装や気の大きさに変化があった。

トランクス：ゼノ「父さん……」

仮面のサイヤ人「よそ見とは……心外だな」フン

トランクス：ゼノ「バーダックさん!!」

ベジータ「何だと!？」

悟空「誰だ?」

ベジータにはバーダックという名は知っていた。バーダックは最下級戦士ながら中級戦士の戦闘力を凌駕する戦闘力10000をもっていた。最前線で闘い続けフリーザに惑星ごと消滅させられたかと思いきや、サイヤ人に占領される前の惑星ベジータ、及び惑星プラントでバーダックは目を覚ました。そこで超サイヤ人に覚醒したバーダックはフリーザの祖先チルドを撃破し、地獄でも闘い続けた。そんな戦士が目の前にいるのでベジータは驚きを隠せなかった。

ベジータ「貴様の父親だつ!!」

悟空「オラの父ちゃんめっちゃつええんだな!」

仮面のサイヤ人「ふっ…」

ーフランスィデー

妖夢「クツ」ジユワ…ドサツ

妖夢はフランと魔理沙の連携攻撃により、邪悪な気が消え洗脳が解けた。

魔理沙「妖夢!!」ダッ

妖夢は両膝を地面につけ、座り込んでしまった。

妖夢「っ?!すみません魔理沙さん、フランさん…」

魔理沙「操られてただけなんだから気にするなだせ!!」グツ

妖夢「幽々子様は？」

思い出したかのように自分の周りにいなかったのが幽々子の位置を訪ねると……

フラン「あつちでお姉様と戦ってる」

妖夢「私のせいで……幽々子……様が？」

魔理沙「いや、あいつも洗脳されて操られてるぜ」

妖夢「そ、そうですか……」

魔理沙は幽々子を指差しながら話した。妖夢は自分のせいで主を危険に晒さなかった事に安堵したが、身を引き締めた。

魔理沙「それより、霊夢の助太刀にいくぞ！」

フラン「お姉様を助ける!!」

妖夢「わ、私もいきます!」

魔理沙「妖夢、これを食べさせてくれ」

妖夢は魔理沙から差し出された豆を見て困惑した。今からまた闘うのに豆なんか食ってる場合かと考えてしまった。

魔理沙「これさえ食べれば体力も満タんだぜ」ポイ

妖夢「うわわつとつとつと…あ、ありがとうございます」コリ

魔理沙が投げた仙豆をギリキヤツチ出来た妖夢はそのまま食べた。

妖夢「……!!!これ本当に凄いですね!!!」

フラン「行かないの？」

妖夢「あ、行きます」

霊夢「はあはあはあはあはあ……嘘でしょ……」

紫「どうかしたのかしら？ 霊夢」

美鈴「界王拳でも力が及ばないなんて……」

美鈴は3倍界王拳を使用するも決め手にならなかった。それどころか、息切れすらしていないかったのだ。

幽々子「貴女の力はこんなものなのかしら？」

霊夢「はあはあ：：」ヒューーン

魔理沙「助けに来たぜ！霊夢！」

霊夢「やーつと其所終わったのね」

霊夢と美鈴の所に魔理沙達が到着した。

妖夢「申し訳ありません、皆さん：：」

美鈴「人数は大いに越したことがないですからね。別に気にしてませんよ」

フラン「さっさと終わらせちゃおう!!」

「悟空 side 1」

??? 「十分〃キリ〃が溜まったわ。戻ってなさい」ズズズ

トランクス：ゼノ「貴様は…！トワ!?」

悟空達の目の前で時空が裂け、中から魔神トワが現れた。

魔神トワ「あらトランクスじゃない、また私達の計画を邪魔しに来たのかしら？」

トランクス：ゼノ「まさか、暗黒王の復活が目当てか！」

魔神トワ「貴方には関係無いわ、後はよろしくね紫」ズズズ

トランクス：ゼノ「待て…！クソッ！」

紫「貴方達の相手は私よ」

トランクス：ゼノ「悟空さん、奴がまた来たらこれで知らせてください」

悟空「わかった」

トランクス：ゼノ「では」シユン

トランクスは悟空にスイッチを渡して、その場から消えていった。

ベジータ「おい霊夢！こいつはオレがやるぞ！いいな！」

悟空「霊夢達はそいつ頼んだ！」

妖夢「了解しました！」

悟空&ベジータ『はあああああ!!』

悟空SS2 & ベジータSS2 『∴ ∴ ∴』バチバチ

紫「藍！出なさい！」

藍「はっ！」シユバツ

紫の掛け声と共に八雲籃が飛び出した。

ベジータSS2「ほう、仲間を呼んだか」

悟空SS2「オラがやるぞ！」

ベジータSS2「勝手にしろ、だが俺も勝手にするがな」

悟空もベジータも平常運転である。

悟空SS2「だりやあああああ!!!」ドン！

藍 「はあっ!!!」ズオツ

悟空SS2 「うりやりやりやりやりやりやりやりやあああ!!!」ドガガガガガガガ

藍 「ぐあっ!？」

ベジータSS2 「でやああああ!!!」バツ

紫 「速いっ!!」

ベジータSS2 「うらららららららら!!!」ガガガガガガガガ

紫 「うっ!？」

悟空SS2 & ベジータSS2 『はあああああ!!!』バチバチ

悟空SSSGSS&ベジータSSGS 『だああああ!!』ブオオツ

悟空とベジータは一気に気を解放し超サイヤ人ブルーへと変身した。

悟空SSGS 「やるぞ!!ベジータ!!」ガッ

ベジータSSGS 「あわせてやるよ」スッ

悟空SSGS&ベジータSSGS 「ファイナル…「かめはめ…波ああああ

!!!」『ファイナルフラッシュ』「かめはめ波」

紫&藍 『うわあああっ!?』ドガアアアアアアアア

悟空とベジータの合体技に紫と藍は敗れた。その頃……

霊夢「夢想天生!!」【「夢想天生」】

魔理沙「ファイナルマスタースパーク!!」【魔砲「ファイナルマスタースパーク」】

咲夜「デフレーションワールド!!」【「デフレーションワールド」】

レミリア「スカーレットデイスティニー!!」【「スカーレットデイスティニー」】

フラン「閉じゆくシュワルツシルト半径!!」【「閉じゆくシュワルツシルト半径」】

妖夢「待宵反射衛星斬!!」【「待宵反射衛星斬」】

美鈴「真紅星脈地転弾!!」【「真紅星脈地転弾」】

幽々子「西行寺無余涅槃」【「西行寺無余涅槃」】

12話 覚妖怪と “元” 神殺し 自由を求めし人間編

此処は旧地獄。鬼達もそこらへんで酒を飲んでるほど自由になりつつある。

??? 「此処は… 一体…」

そんな場所に一人の人間が迷いこんでしまったようだった

鬼1 「おい、来てみるよ!!! 人間がいるぞ!!」

鬼2 「ほんとだぜ! 殺つちまうか!」

鬼3 「殺つちまえ! 勇儀姐さんが来る前によ!」

鬼3 (勇儀姐さんが来ると俺達も自由に暴れることができねえからなあ!)

??? 「そういうことか…。」ニヤ

鬼1 「諦めがいいじゃねえか！」

??? 「自由に暴れることができない」…そうだろ？」

その男は鬼の心の声を話した。

鬼3 (なっ!?!何で俺の思ってることがわかったんだこいつ!俺は喋ってねえんだぞ
!)

??? 「喋らなくてもわかるさ…。」

鬼3 「何っ!?!」

??? 「君の心を読んだからね」

鬼2 「お前っ！覚妖怪かつ！」

人の心を読むのは覚妖怪位である

鬼1 「男の覚妖怪何て知らねえぞ!!!」

鬼3 「殺っちまえばどうしたってこたあねえんだ… よっ!!おらああ!!」ブン

鬼が男を殴ろうとした途端…:

??? 「何やってるんだい？お前達」ザツザツ

鬼1・2・3 (勇儀姐さんが来ちまった!!!)

男の周りにいた鬼達はどんどん離れていった。

??? 「何を怯えているんだい？」

勇義 「あんた…人間か？何で旧地獄なんかにいるのさ？」

??? 「俺はハーツ、人間の自由を求め神を殺そうとした者さ」

勇義 「あんた、面白いねえ」

ハーツ 「お手柔らかに頼むよ」

ハーツも勇義も闘う気満々だった。

??? 「待つてください」

そこに現れたのはピンクの髪に身体の周りからはコードのようなものや目だったりと、色々不思議な少女だった。

勇義「…！あんた、いたんだねえ…！」

??? 「此処で暴れないでください」

??? （此処で戦って地霊殿にまで影響が出たら…：）

ハーツ「わかった… 地霊殿という場所にまで影響が出ない様にすればいいか？」

??? （ええっ!?)

少女は自分の思っていたことを当てられ、驚いていた。

ハーツ「俺はハーツ、君の心を読んだだけさ」

??? 「あ、ありがとうございます」

勇義「じゃあ、10秒動けなくなったら負けってルールならどうだ？」

ハーツ「いいだろう」

勇義の提案をハーツは快く引き受けた。

鬼1「俺達に勝てると思ってやがる」フワァー

ハーツ「ハアツ！」ポウツ

ハーツの手からは四角形のようなキューブが鬼の数だけ出現し、飛んでいった。

鬼1・2・3（へへっこんなものすぐに…）ズン！

そのキューブが鬼に当たった瞬間、地面に倒れ混んだ。意地でも起き上がろうとしても全く意味を成さなかった。

鬼2「ぐわっ!?な、何だあ!？」

ハーツ「——10秒……」

勇義「ハーツが勝つちまった……！」

これには勇義も啞然としていた。本来ならば攻撃される瞬間にハーツの目の前に移動し、鬼の攻撃を止めようとしていたからだ。

??? 「貴方一体何者ですか？」

ハーツ「神殺しの力を持った人間さ、死んだけどね」

??? 「私は古明地さとり、皆から恐れられてる覚妖怪です」

さとり「貴方は私の事が怖くないのですか？」

さとりは周りとは違う反応をするハーツに疑問を感じた。

ハーツ「何故君と同じような能力を持っているのに君の事を怖いと思うんだい？」

さとり「…そうですね、変な事聞きましたね」

さとりは納得したような仕草を見せた。

ハーツ（此処の場所良く知らないから教えてくれないか？）

さとり（いいですよ）フフツ

勇義「あんたら、心の中で会話してるな？」

勇義は全く喋らないのにさとりが微笑みだしたのである結論に至った。

ハーツ「じゃ、頼むよ」

さとり「…はい！」ニコ

そしてさとり達が住む地霊殿に着いた。

さとり「此処が私の住む地霊殿です」

ハーツ「立派な建物だ」

さとり「ありがとうございます」

さとりは色々と誉められ、気分が上がっていた。

さとり「お燐ー、お空ー」

燐&路空『お帰りなさい、さとり様！』

さとり「ハーツ、お燐とお空よ」

お燐「私は…」

ハーツ「火焰猫燐、此方は霊鳥路空…であっているか？さとり」

さとり「ええ」

お空「名前言っていないのに!!」

お空はハーツに名前を一発で当てられ、驚いていた。

ハーツ「心を読んだからさ」

お燐&お空『ええええ!?!』

お燐（さ、さとり様！ハーツってお方は覚妖怪ですか？）

ハーツ「俺はただの人間さ」

13話 平和の幻想郷と新たな被害

霊夢「嘘でしょ…。」

魔理沙「まだ立ちあがるのぜ？」

レミリア「しづといやつね…。」

幽々子「まだまだいくわよ〜」

悟空「待てっ！」ギューン

悟空「もうやめだ… けえるぞ皆」

霊夢「何言ってるのよ…！」

悟空「おめえも、ほんとは限界なんだろう？」

ベジータ「オレとカカロット以外全員の気が落ちているからな」

悟空「もう、戦っても意味はねえ」

魔理沙「悟空……」

霊夢「まだよ！」

悟空「そうか……」シャッ

悟空「霊夢、すまねえ」ボソッ トン

霊夢「ご、悟空……」ドサッ

悟空「あんたもだ……」トン

幽々子「うつ、ううう…」ドサツ ジュワ

ベジータ「悪の気は完全に消えたな」

妖夢「ありがとうございます！」

悟空「別にいいさ、これぐれえ」

悟空「じゃあなく妖夢！」

妖夢「皆さん、また会いましょう！」

悟空「オラ、腹減っちゃった…へへへ」

レミリア「紅魔館に帰りましょうか、咲夜、フラン。貴方達もいいわよ」

―その後、紅魔館から嘆きと悲鳴が起きたが別の話―

一週間後、悟空は美鈴に修行をつけていた

悟空「美鈴、休憩すつぞ」

美鈴「はいっ！」

ベジータ「カカロット、オレとやれ」スツ

悟空「おう」スツ

悟空&ベジータ『はあああああ!!!』

悟空SS「おりやああああ!!!」

ベジータSS「でやああああ!!!」

美鈴「すごい…：これがサイヤ人の本気の戦い…：」ダン！ダン！ダン！ダン！ダン！

悟空SS「うりやりやりやりやりやりや！！」ドガガガガガガ

ベジータSS「うららららららら！！」ドガアアアアアアアア

美鈴「悟空さん！ベジータさん！」

ベジータ「なんだ！美鈴！」

美鈴「あつちから邪悪な気を感じます！」

ベジータ「何!?!…っ!?!」

悟空「ターレスかつ!!後…。」

ベジータ「いくぞ!!!」

悟空「お、おう……」

美鈴「どうしたんですか？」

悟空「へへへ……嫌な予感しかしねえや」

ベジータ「居たぞ！」

ターレス「よう、カカロットと王子さまよお」

ベジータ「貴様は……キャベ!!!」

キャベ「誰だ？お前は」

悟空「何か変じゃねえか？」

ベジータ「オレ達の知っているキャベじゃないようだ… オマケに黒い気までプレゼントかあ？」

キャベ「サイヤ人は力こそ絶対なのだ！」

ベジータ「面汚しが…」

「ベジータ師匠！ 何だキャベ 力の大会では一つの宇宙しか残れません、なので一生会うことが出来ません 超ドラゴンボールで蘇らせてやる ベジータ… 師匠…」

「…ありがとうございます！師匠！」

ベジータ「クツ」ギリツ

ターレス「お前の相手はこの俺だあ！カカロット」

悟空「はあああああ!!!」バチバチ

ターレス「何!?!」

悟空SS2「でりやあ!」

ターレス「何: : : だと: :」

悟空SS2「かゝめゝはゝめゝ波ああああああ!!!」
「かめはめ波」

ターレス「俺は結局カカロットに負けるのか: : :
クソツタレがああああ!!!」
ド
ガアアアアアアン

キャベ「フハハハ!!」

ベジータ「サイヤ人の王子を舐めるなよ!!!」

キャベSS2「はあっ!」バチバチ

ベジータ「はっ!!」ボウツ

ベジータSSG「終わりだ… はあっ!」ドガ

ベジータSSG「ギャリック砲!!」【ギャリック砲】

キャベSS2「ぐわああああ!!」

ベジータ「… 帰るぞ」

悟空「ああ…」

14話 蓬萊人とサイヤ人

ベジータ「おいカカロット… 月がおかしいぞ」

悟空「あ、本当だあ」

霊夢「月と言ったら… 永遠亭かしら？」

悟空「何でだ？」

霊夢「全科があるからねえ…」

悟空「行ってみようぜ？なあ、ベジータあ？」

ベジータ「はああ…」

霊夢「私もいくわ」

魔理沙「私もだぜ！」

アリス「魔理沙ったら…」

悟空「アリスもいくか？」

アリス「ええ…」

悟空「サンキュー、アリス」

ベジータ「紫もいくのか」

紫「助っ人もね」

悟空「そっか！じゃあ、行くぞ永遠亭に！」

霊夢 「着いたわ、此処よ」

悟空 「ひゃー、竹がいつぺえだなあ〜！」

魔理沙 「感心してる場合じゃないんだぜ…。」

悟空 「そうだったな、わりいわりい」

悟空 「おめえが今回の犯人かあ！」

霊夢 「違うわ、あいつは鈴仙・優曇華院・イナバ…でもあんたがいるってことは永琳もいるわね」

鈴仙 「貴方達を此処から先には行かせませんよ」

悟空 「オラがやるさ」ザッザッザッザッ

ベジータ「でやっ！」ガッ

ベジータSS「おら！」ドゴ

悟空SS暴走「グッう、うおおおおおおああああ!!!」

ベジータSS「美鈴！カカロットを押しえつけとけ!!」

美鈴「は、はいっ!!」ガシッ

悟空SS暴走「ぐううううう!!!」ブンブンブン

ベジータSSG「さっさと目を覚ましやがれえええ!!!」ズン!!

ベジータSSG「はっ!!」ドガ

魔神トワ「貴方の力、見せてもらうわ」ズズズ

悟空SSGSS暴走「はああああああああ!!!」 シャツ

ベジータSSG「しまつて…」

悟空SSGSS暴走「だりやああああ!!!」 ドガ

ベジータ「クソツ」

??? 「加勢しようか？」

霊夢「妹紅じゃない！」

妹紅「軽く紹介するよ。私は藤原妹紅、不死身の蓬莱人さ」

ベジータ「好きにしろ… はああああああ!!!」

妹紅「なんて奴だ…」【蓬莱「凱風快晴―フジヤマヴォルケイノ―」】

鈴仙「霊夢さん、貴女達を先には行かせませんよ」「幻朧月睨（ルナティックレットドアイズ）」

霊夢「夢想転生!!」【夢想転生】

魔理沙「ファイナルマスタースパーク!!」【魔砲「ファイナルマスタースパーク」】

アリス「大丈夫かしら…」【グランギニョル座の怪人】

妹紅「これで終わらせる!!」【フェニックス再誕】

悟空SSSSSS暴走「がああああ!!!」

ベジータSSSSSS「うおおおおお!!!はあああああ!!!」

ベジータSSSSS：進化「かああああああ!!!」

ベジータSSSSS：進化「ガンマバーストフラッシュ!!!」【ガンマバーストフラッシュ】

悟空SSSSS暴走「うがああああああ!!!」

悟空「へへへ…すまなかつたな…」

ベジータSSSSS：進化「仙豆食つてろ」ポイ

悟空「サンキュー」

悟空「おめえもありがとな！」

妹紅「いいってことよ」

悟空「霊夢く終わったか〜？」

霊夢「何言ってるのよ」

魔理沙「此処からが本番だぜ！」

ベジータ「お前らも食っておけ」

悟空「よし、いくぞ！」

15話 入り交じる歴史！二人の17号

??? 「霊夢達?!居るの？」

鈴仙 「姫様!?何故…」

??? 「永琳がおかしい」

鈴仙 「お師匠様が!？」

??? 「私は蓬莱山輝夜、よろしくね♪？」

ベジータ 「偉い元気な姫様だな」

妹紅 「何故てめえがいる」ギッ

輝夜「何故って、助けを求めてるだけよ？」

悟空「えーりんっちゅーやつが暴れてるんか？」

輝夜「まあね…」

鈴仙「姫様が本気を出せば、止められる筈ですが…」

輝夜「力がとてつもなく上がってるのよ」

輝夜「人数的にも不利だしね」

ベジータ「何？敵は複数いるのか？」

輝夜「パワー的にも人数的にも不利だったのよ…」

悟空「へーつええんかー楽しみだなー！」

妹紅「着いたぞ… な、何だこれは…？」

鈴仙「そんな… 永遠亭が…」

輝夜「奴らよ」

ベジータ「なっ!？」

悟空「あいつらは…！」

霊夢「知ってるの？」

ベジータ「奴らは人造人間だ… 17号と18号か…」

悟空「？何か破壊力が弱くねえか？」

ベジータ(まさか、トランクスの未来の人造人間か!?)

18号「あれえ? あんた昔私に向かって殺された奴だあ!」

ベジータ「トランクスの言った人造人間達か…!」

悟空「17号と18号と… あいつ誰だ?」

ベジータ「奴も人造人間か…」

悟空「へへ、オラワクワクしてきたぞ!!!」

ベジータ「カカロットは仮面のやつをやれ、オレは未来のをやる、そして… 霊夢!!!」

霊夢「な、なによ!?!」

ベジータ「お前達は永琳をやれ、いいな」

魔理沙「2対1は無謀じゃないか？」

ベジータ「いくぞ!!!」

悟空「おめえ… なにもんだ!!」

仮面の人造人間「孫悟空… やつと来た… 貴様を倒す日がな!!!」

悟空「いいい!?!」

悟空「おめえ… 17号か!?!」

仮面の人造人間「俺は人造人間17号ではない… 超17号だ!!!」カパ

悟空「超17号… !?!」

超17号「貴様を地獄に送ってやる… 孫悟空!!!」

悟空「こい!!!」

ーベジータ side ー

ベジータ「貴様ら、トランクスを知っているか？」

17号「ああ、そしてお前らの事もな」

ベジータ「未来ではオレ達を殺して地球をめちやくちやにしたらしいじゃないか」

18号「それがなんだい、ただのゲームさ」

ベジータ「遊んでやるよ」クイクイ

17号「俺達を舐めているらしい」

18号「後悔するんじゃないよ!!!」

ベジータ「へ、雑魚がスクラップにしてやるよ」

17号&18号「はあああ!!」バツ

ベジータ「ふん、0期待外れもいいところだ」スカツスカツ

17号「当たりさえすれば・・・！」ブン

ベジータ「当ててみるよ」

17号「はあっ！」

18号「これで奴も・・・っ!?!」

ベジータ「どうした?」

17号「なっ!?!」

ベジータ「星はめちやくちやに出来てもたった一人の人間は壊す事が出来ないようだな」シャツ

17号「っ!?!」

ベジータ「かあっ!!!」

ベジータSS「ふっ」

18号「はああああ!!!」バツ

ベジータSS「ビッグ・バン・アタック!!!」〔ビッグバンアタック〕

ベジータのビッグバンアタックは見事に命中した

17号「18号っ!？」

ベジータSS「17号!!てめえは弱虫だああ!!!」

17号「何だと・・・？」

ベジータSS「貴様には期待外れだ」

17号「言ってくれるじゃないか・・・」

ベジータSS「弱虫じゃないなら受けてみる!!!」【ファイナルフラッシュ】

ベジータSS「貴様に受け止める勇義があつたら・・・の話なんだがな」バチバチ

17号「はああああ!!!」

ベジータSSGSS「食らえ!!!」

ベジータSSGSS「ファイナルフラッシュ!!!!」

17号はベジータのファイナルフラッシュによって跡形も無くなった

ー悟空sideー

悟空は苦戦を強いられるも善戦していた

悟空SS「終わりだ!!超17号!!」【かめはめ波】

超17号「うおおおお!!!」

悟空SS「かゝめゝはゝめゝ波ああああ!!!」

超17号「無駄だあああ!!!」

悟空SSS「こつちだああ！」

悟空SSSSS「龍拳!!!」【龍拳】

悟空SSSSS「貫けええええ!!!」ザクツ

悟空SSSSS「ダメ押しのこと… かめはめ波だああ!!!」【かめはめ波】

悟空のかめはめ波によって超17号は消滅した

16話 復活の帝王、再び

永遠亭の連中が黒い気を纏い、人造人間達と共に暴れてから1か月たった

アリス「今日も疲れたわ……って人？が倒れてるわ」

アリス「ちょっと大丈夫？貴方」

???「貴女が助けてくれたんですね」

アリス「突然だけど貴方の名前は？私はアリス・マーガトロイド」

???「私はソルベと言います」

アリス「ソルベさんね」

ソルベ 「貴女は孫悟空という人物を知っていますか？」

アリス 「悟空さんは知っているけど…。」

ソルベ 「そうですか…。」

アリス 「悟空さんがなにかあったの？」

ソルベ 「くくく了解しました…。」

アリス 「ソルベさん」バシユ

ソルベ 「これはフリーザ様を選んだ事だ」ドサツ

ソルベ 「フリーザ様、如何致しましょう？」

フリーザ 「そうですねえ、ソルベさんは引き続き孫悟空を探して下さいね？」

ソルベ「了解しました」

― 霊夢 side ー

霊夢「今日も暇ねえ」ガサガサ

霊夢「誰か居るの？」バツ

???「ばあっ！」

霊夢「うわっ!？」

???キヤツキヤツキヤツ

霊夢（ヤバイ、ちよつとだけ可愛いと思っちゃったわ）

??? 「にひっ」【魔貫光殺砲】ビッ

??? 「はあっ」【かめはめ波】

??? 「ばあっ」【気功砲】

霊夢 「うそっ!?!」ズガアアン

霊夢 「あぶなかったわ」

霊夢 「多すぎない?これ」

ー早苗 side ー

早苗 「神奈子様〜?」

神奈子 「どうした?早苗」

早苗「何か空が暗い様な…」ザツ

??? 「此処は良い星だな」ニヤ

??? 「これなら良い栽培マンが出来るぜ」

早苗「何を言ってるのですか」

??? 「ナツパ、お前いつまで植える気だ？」

ナツパ「別に良いじゃねえかよ！ラディッツ！」

ラディッツ「ま、好きにしろ」

神奈子「そうはさせないよ」

ラディッツ「誰だあ？てめえはよお」

ナツパ「貴様ら、カカロットやベジータを知らねえか？」

諏訪子「カカロット？」

早苗「おそらく悟空さんの事かと…」

神奈子「一応知ってるけど？」

ナツパ「チツあいつらも居るのかよ…」ボゴツボゴツボゴツ

??? 「うきやきやー！」

??? 「うぎやぎやー！」

??? 「ぎぎいー！」

ナツパ「よし行け!!栽培マン共!!」

神奈子「数が多すぎるな…」

ナツパが出した栽培マンの数は600を優に越えていた

諏訪子「こいつはとんでもないことしてくれたねえ」

神奈子「単純計算でも最低200体は倒さなきゃねえ」

早苗「ひいつ!?!」

神奈子「やらなきゃだめな時もあるのさ…」ズガアアン

早苗&諏訪子&神奈子&ナツパ&ラディッツ

『!?!?!?』

??? 「ようナツパ、ラディッツ… 貴様ら一体何をしている… バカが…」

ラディッツ 「お前は… ! ベジータ!？」

ベジータ 「何だナツパ、まだ栽培マンを埋めていたのか」

ナツパ 「何だとおおお!! 裏切り者がああ!!!」

ベジータ 「へっ!! 弱い奴などいらん」

ナツパ 「ふぎけやがってえええええ!!!」 バッ

ベジータ 「身の程をわきまえるんだな」

ラディッツ 「やるしかねえのか… くそっ!!!」

ベジータ 「かかってこいよ」

ベジータSS「消し飛ばしてやる」

ナツパ「くそがあああああ!!!」

ベジータとナツパ、ラディッツが戦いを繰り広げようとしている時、計画は進んでい
た

??? 「ソルベさん、悟空さんとベジータさんは見つかりましたか？」

ソルベ「はい、フリーザ様……」

??? 「それはそれは、良い報告ですねえ……さて、復讐の再開といきましょうか」

フリーザ「今度こそ悟空さん、貴方の絶望した表情を見てくださいよ」

17話 孫悟空の人生

悟空「うりやりやりやりやりや!!!」

悟空は一発も食らわずにセルJr達にダメージを与えていった

霊夢「相変わらずとんでもない数相手にしてるわ…」

悟空「オラも簡単にやあ負けねえぞ！」

悟空SS「はあっ！」

悟空は気合いだけでセルJrを吹っ飛ばし破壊した

悟空「ふー、霊夢でえじよおぶかあ？」

霊夢 「二応ね…」

霊夢 (一体どれだけ過酷な世界で生きていたのかしら…)

霊夢 「あつそうだ… 悟空、ちよつと貴方着いてきて…」

悟空 「別にいいけど…」

そして悟空は霊夢と一緒に人里に来た

霊夢 「私の知り合いに貴方の記憶を見る事が出来るのがあるのよ」

悟空 「… どうすんだ？」

霊夢 「その暇に頼んで貴方の記憶を見せてもらえけどいい？」

悟空 「別にいいぞ！」

霊夢 「慧音く？居るのかしら？」

??? 「どうした、霊夢：：珍しいな」

悟空 「オツスオラ孫悟空!!!」

??? 「あつああ：：私は上白沢慧音だ、よろしく」

霊夢 「早速なんだけど、悟空の過去を見てくれないかしら」

慧音 「いいが：：悟空さんは大丈夫なのかい？」

悟空 「平気さ」

慧音 「では、見せてもらおうぞ：：」

「これで……全てが変わる……！ カカロット……この俺の意思を継げっ……！ これからお前は悟空っ！孫悟空じゃ！ オラの……この拳に賭けるっ！貫けー！ やつと会えたぞ……カカロット お父さんを……いじめるなー!!! いくら落ちこぼれだつて必死に努力すれば、エリートを超えるかもよ……カラダ持つてくれよ!!! 3倍界王拳だああ!!! 地球もろとそ宇宙のチリになれー!!! かくめくはくめく波ああああ!!! 界王拳4倍だああああ!!! 頼……む……フリー……ザを……倒してくれええ……サイヤ人の手で……頼……む……止めろおお!!!フリーザああああ!!! 悟空うううう!!! オレは……怒ったぞー!!!フリーザー!!! あの地球人の様に……だと……？ クリリンのことか……クリリンの事かー!!! 貴様は俺に殺されるべきなんだー!!! バカヤロー!!! バイバイ……皆……かくめくはくめく波ああああ!!! 今だああああ!!! 波ああああ!!! そんな……バカな……オレは昔のオレに戻りたかつたんだああああ!!! こいつが超サイヤ人3だ……これでもいいんだろ!!これで！ サンキューベジータ!! ヨツシャー!!! 俺はベジータとカカロットで……ベジット!!そしてこいつが……超ベジット!!! お前の相手は宇宙1強い飴玉だぞ オラにく！元氣い！わけてくれええ!!! くたばつまえええ!! おめえはすげえよ……よく一人で頑張った……今度は良い奴に生まれ変われよ！そして、また闘ってくれ!!!またな!!! 破壊を楽しんでんじゃ……ねえぞく!!! フリーザく!!!波ああああ!!! 超サイヤ人ブ

ルーに界王拳の上乗せだ!!! 10倍だああ!!! オラの居る位置はアンタの遙か先だ!!! 美しいだろ...? 貴様らのネーミングセンスに合わせるならロゼ... 超サイヤ人ロゼ... オラ... もう謝ったって許さね〜ぞ!!! 我が姿は正義、我が姿は世界!! 気高くも美しい、不死にして最強の神... ザマスを!! ヨッシャー!! 貴様が一人になったから此方も一人になったのさ... 俺はベジータとカカロットが合体してベジット... そして、これがベジットブルー!!! さあ、決着を着けようぜ!! どうした!! 神の力はそれっぽっちゃか!! こいつで終わりだ!! ファイナルかめはめ波!!! これで最後だ〜! 良く食べ、良く学び、良く遊び、良く寝て、良く休め!!! 亀仙流はお主と共にあるぞ!!! これが最大最強のかめはめ波じゃ〜!!! あたしの勝ちだ〜!! か... め... は... め... 波〜!!! ジレン!!! 勝負だ!!! 界王拳!!! はああああ!!! かああああ!!! オラは別にヒーローでも何でもねえ... けんどな、仲間を傷つける奴は許さね〜ぞ!!! 行くぞフリーザ!!! これが... 信頼!!! 第7宇宙の力!!! はああああ!!! また会いてえ俺はもう自由だ!! 君達は気付いていないんだよ!! 不自由さって奴にね!! 僕は... 君達が... 好きだ... 人間... 風情が〜!! もういいよ... 僕の実験の邪魔をする奴は... 消えろ〜!!! 宇宙には、まだこんな可能性が...!」

慧音「っ!?」

悟空 「でえじょうぶか？」

慧音 (この者は一体どれだけの修羅場をくぐり抜けてきたと言うのだ!?)

慧音 「ありがとう… 君は数々のピンチから世界… いや宇宙を救ってきたんだな…」

霊夢 「そうなのね…」

悟空 「じゃまたなく！」

慧音 「ああ！」

慧音 (良いものを見せてくれたよ…)

妹紅 「嬉しそうだな、慧音」

慧音「まあね… 改めて世界は広い事を教えてくれた気がするよ…」

慧音（ありがとう… 孫悟空…！）

悟空の過去を見てきた慧音だったが、壮絶な人生にただ感心するしかなったのである…

18話 ベジータへの怒り!!復讐のサイヤ人

ベジータ「相変わらず気味の悪い趣味してんぜ…全く…」

ナツパ「栽培マン共!!!お前達はあの女のどこに行け!!!」

栽培マン「うきやきやー!!!」ビューンビューンビューン

早苗「うわわわわわわ!!!」

神奈子「慌てるな!!!早苗!奴らは数は多いが大して強くはないから、落ち着いて対処しろ!」

早苗「は、はい!」

ナツパ「ベジータ!よくも前はぶっ殺してくれたな!!!」

ベジータ「それは貴様が弱かったからだろ」

ナツパ「復讐の機会を待っていたが、遂に裏切り者をこの手で消すことができそうだ
ぜ!!!」

ラディッツ「俺達の力の思い知れ!!!」ズズズ…

ベジータ「これは…」

ナツパ「あの女から貰った力だ」ズオオ…

ラディッツ「更に、神聖樹の実もある…」ゴロゴロ

ナツパ「つまり… てめえの負けが決まったんだよベジータ!!!」カリカリ

ベジータ「物に頼りやがって…」

ラディッツ「何ほざいてやがる!!」

ナツパSS3「地獄に送ってやる!!!」バチバチ

ラディッツSS3「覚悟しろ!!!」バチバチ

ベジータ「超サイヤ人!?!」

ベジータ（いや違う…超サイヤ人は眉毛なんか失くならん…あれは、3か…めんどくせーことしやがるぜ…）

ベジータ「ふっ…サイヤ人の王子が直々に…」

ベジータSS「あの世に送ってやる…安心するんだな」

ナツパSS3「舐めやがって!!!」

ラディッツSS3「この超サイヤ人3がただの超サイヤ人に負ける訳がないだろ!!」

ベジータSS「へっ… かかってきやがれ… サイヤ人の面汚しめ!!!」

ー悟空saidー

悟空「またおめえか…」

仮面のサイヤ人「ふっ…」

悟空SSG「今回は本気でやろうぜ…!」

仮面のサイヤ人「…こい…!」

悟空SSG「だりやああああ!!!」バツ

仮面のサイヤ人「ぐっ!？」

悟空SSGSS「だりやりやりやりやりや!!!」

仮面のサイヤ人「うおっ!?!がつ…」

悟空SSGSS「おりやあああ!!」パリン…

仮面のサイヤ人「ぐわあああ!!!」ズガアアン

悟空の渾身の一撃により、仮面が完全ではないものの割れた

仮面のサイヤ人「うっ…」

悟空「何だ…?」

仮面のサイヤ人「はあ… はあ… はあ… はあ… はあ… はあ…」

仮面のサイヤ人「此処は… 何処だ？」カパ

悟空「おめえ…」

仮面のサイヤ人「お前は… ターレスか？… いや違うな…」

仮面のサイヤ人「まさかとは思うがカカロットなのか？」

悟空「ああ… おめえは…？」

仮面のサイヤ人「俺か？俺は… ただの下級戦士… バーダックだ」

悟空「おめえのその力あ試させてくれ」

バーダック「へっ戦闘力たったの2だったクソガキがどこまで強くなったか見せてもらおうか！」

悟空&バーダック『いくぞ!!!』

悟空&バーダック『だりやああああ!!!』バツ

ーベジータ saidー

ベジータ「くだらん弱さだ…話にならん…」

ナツパ「くそがあああ!!!」

ラディッツ「っ!?!あんたは…!」

???'「お前達にしては良くやった方だな…」

ナツパ「何をするつもりだ!!!」

??? 「… 用済みの奴は死ね」

ラディッツ 「貴様!？」

ナツパ 「ぐわああああ!!!」ズガアアン

ラディッツ 「裏切るつもりだったのか…」

??? 「そうだ」

ラディッツSS3 「俺は簡単にくたばる訳にはいかねえんだよ!!!」

??? 「勝てると思っているのか」

ラディッツSS3 「少なくとも負けるつもりはない!!」

??? 「残念だ…」ブウン

ラディッツSS3 「ぐっ… やはり力は奴が上か!!」 ドガ

??? 「消えろ…」

ラディッツSS3 「ちくしよおおお!!」 ドガアアアアアアン

??? 「ふっ」

ベジータ 「その仮面… 奴らの仲間だな？」

??? 「この暗黒仮面王自ら相手になってやるぞ… ベジータよ」

ベジータ 「かかってきやがれ…」

暗黒仮面王 「ではいくぞ!!」

19話 親子の鬪い!! 悟空VSバーダック

バーダックSS「おらあ！」ドガ

悟空SS「おりやあ!!」ガッ

バーダックSS「なかなかやるじゃねえか： カカロット」ニヤ

悟空SS「おめえもな：」ニヤ

バーダックSS3「これなら：： どうする！」

悟空SS「おめえも3になれるんか」

バーダックSS3「も”：だと？」

悟空SS3 「オレもなれるさ…超サイヤ人3によ」

バーダックSS3 「簡単には終わらせねえよ」

悟空SS3 「へへへ…」

バーダックSS3 「よそ見る余裕はねえ筈だぜ？」ドガ

悟空SS3 「ぐはっ」グラア

バーダックSS3 「もう一発お見舞いしてやる!!!」

悟空SS3 「まずいつ!!」ドガアアアアアアアアン!

バーダックSS3 「さっさと起き上がれ」ズガアアアアアアアアアアアアアアン!

バーダックSS3 「何っ!？」

悟空SSGSS「ふー危なかつたあゝ」

バーダックSS3「やるじゃねえか」

悟空SSGSS「へへつまあな…」

バーダックSS3「俺も本気になるか…」

バーダック「月…」

悟空SSGSS「おめえ…まさか!？」

バーダック「ぐぐぐぐぐ…」ドクンドクンドクンドクン

大猿バーダック「ぐあおおお!!!」

悟空SSGSS 「まじかよ…」

大猿バーダック 「ぐぐぐ…」

大猿化したバーダックは理性を保つ事に成功し、元の大きさに戻ってはいたが…黒髪ではあるが通常状態ではなく体は赤い体毛に覆われ瞳は黄色味を帯び目元も赤く誰が見ても今までの変身とは違う事がわかった

悟空SSGSS 「…超サイヤ人4…」

バーダックSS4 「ほう…」

悟空SSGSS 「すっげえ…おめえからとんでもねえ気を感じっぞ」

バーダックSS4 「こいよ…今の俺の力確かめるにやあお前の協力が必要なんでねえ…」

悟空SSGSS「いくぞおおお!!!だりやああああ!!!」バツ

バーダックSS4（何だ？こいつの動きがゆっくりに見える…舐めてんのか？…いや、そうでもないらしいな…）

バーダックSS4「遅い!!」シャツ

悟空SSGSS「何!?!:だりやりやry」ドガ

悟空SSGSS「っ!?!」

バーダックSS4「おらあ!!」ドゴ

悟空SSGSS「うわああああ!!!」ズガアアン

バーダックSS4「ダリやあ!」ズガアアン

悟空「…本気出すか…」

悟空「はあああああ…」ドドドドドドド

悟空「はあっ!!」ズオツ

バーダックSS4「…何だ？」

悟空身勝手の極意〃兆〃「ふうう…」

※悟空のこの身勝手の極意は超サイヤ人等の変身ではなく、界王拳等の〃技〃に当てはまります。なので身勝手の極意と超サイヤ人の上乗せも出来なくはないです。 (例)

SSSS界王拳20倍

バーダックSS4「へえ…それがお前の本気ってやつか…」

バーダックSS4「おもしれえ…やってやるっ!!」バツ

バーダックSS4 「あだだだだだだだ!!!」 ブンブンブンブン

バーダックSS4 「あ、当たらねえ!?!」

悟空身勝手の極意 〃兆〃 「はっ!」 ドン

バーダックSS4 「ぐわあああ!?!」

バーダックは悟空の衝撃波に吹っ飛ばされ山に衝突するところギリギリで止まった

バーダックSS4 「はあ…はあ…はあ…はあ…はあ…」

バーダックSS4 「この一撃に全てを込める!!これは賭けだ…この一発でお前が立っていたら俺の負けだ…」 ポウツ 【ファイナルスピリッツキャノン】

悟空身勝手の極意 〃兆〃 「か…め…は…め…は…め…は…め…」 ブラウン 【かめはめ波】

バーダックSS4 「これでも食らえっ!!」ブン

悟空身勝手の極意〃兆〃 「波ああああ!!!」ズオツ

そのころ霊夢と魔理沙は…

セルとフリーザと闘っていた

霊夢&魔理沙&フリーザ&セル『私(達)の扱い雑すぎ(ない!?) (るぜ!) (だな…)
(ですねぇ…:)]

ー別の時空ー

ピツコロ「よし、今はここまでだ」

パン「ええ〜？」

ピツコロ「幼稚園に遅れるぞ」

パン「そつか！じゃあ、ようちえんがおわつたらね〜！」ビューン

ピツコロ「ああ…」

ピツコロ「…誰だ、其所に居るのは」

ピツコロ「こっそり隠れているのは知っているぞ…」

???「それはいつから？」

ピツコロ「そうだな…パンが来る時には知っていた…」

ピッコロ「さっさと姿を見せたらどうだ？」

??? 「そうでしたね…」

??? 「私は八雲紫、幻想郷の管理をしている者です」

ピッコロ「幻想郷？何処にあるんだ？」

紫「お連れしますよ」

ピッコロ「悟飯に聞いてみるか…」

く孫悟飯家く

悟飯「幻想郷ですか…」

ビーデル「1か月位なら大丈夫だと思っけど…」

悟飯「まあ、ビーデルさんが言うなら…」

ピッコロ「いくぞ…」

悟飯「はい！…パンちゃんいつてきます」

パン「いつてらっしやくい♪？」

紫「では…」ズズズ

ピッコロ「そうだ悟飯、幻想郷では修行と研究はしていいぞ」

悟飯「…へ？あ、ありがとうございます？」

紫「着きましたわ…此処が楽園の世界、幻想郷です」

ピッコロ&悟飯『っ!?!』

ピッコロ「フリーザとセルだと!?!」

紫「え?」

悟飯「ピッコロさん!」

ピッコロ「ああ…」バツ

ー霊夢saidー

霊夢「まずいわね…」

フリーザ「貴女達が私に勝てる訳がないでしょう」

魔理沙「ヤバいぜ…霊夢」

セル「今すぐ楽にしてやる…」

???「おりやあああ!!!」ガッ

セル「ぬおおお!!?」

フリーザ「何!?!誰だ!」

霊夢「あれは…悟空さん…?」

???「何故此処にセル!お前が居る!」

セル「…孫悟飯!!!」

20話 因縁の対決！ 孫悟飯VSセル

セル「何故貴様が此処に…」

悟飯「お前達を倒しに来ただけさ…」

フリーザ「どうやら孫悟空さんの息子さんの様ですねぇ」

悟飯「お前、力の大会って知ってるか」

フリーザ「何ですか？それは」

悟飯「いや、何でもないさ…」

ピッコロ「悟飯、お前はセルをやれ…俺はフリーザをやる…」

フリーザ 「ナメック星人ごときが私に勝てると思っっているんですか？」

ピッコロ 「なら、見せてやる…かあっ!!」ボン

ピッコロ 「潜在能力解放」 「かかってきやがれ」

フリーザ 「くっ!? まあ良いでしょう…きいやああ!!!」 ガシッ

フリーザ 「何!?!」

ピッコロ 「でやあっ!!」 ドガ

フリーザ 「ぐはあああ!!」

悟飯 「はっ!!」 バッ

悟飯 S S 2 「さあ…来いよ」 バチバチ

セル「いいだろう…そう来なくちやあ面白くない」バチバチ

セル「では、いくぞ!!!」ドン

悟飯SS2「ふっ!!」バチッ

セル「ぶるああああ!!!」ズン

悟飯SS2「…その程度か」ビュオオツ

霊夢「凄いわね…」

魔理沙「私達でも歯が立たなかったのに…とんでもない人? 達だぜ」

悟飯SS2「今度は僕の番だ…はあっ!!」ズン

セル「ごはっ!？」

悟飯はセルを押しして腹に蹴りをいれた…流石のセルもおもいつきり吹っ飛ばされた

セル「くっ…この世界ごと消えてなくなれえい!!!」【太陽系破壊かめはめ波】

悟飯SS2「…」【魔貫光殺砲】

セル「かゝ!…めゝ!…」ブウン

セル「はゝ!…めゝ!…」グググググ…

セル「波ああああ!!!」ズオオ

悟飯SS2「魔貫光殺砲!!!」ビッ

セル「なっ…バカナ…この私…が…」ザグウツ

悟飯の魔貫光殺砲がセルの頭、基セルの核を破壊した

悟飯SS2「かめはめ波ああ!!」【かめはめ波】

セルは悟飯のかめはめ波によって完全に消滅した

ピッコロ「お前を『ゴールデンフリーザ』とやらにさせる訳にはいかんのでな」

フリーザ「何故ゴールデンフリーザのことを!?!」

ピッコロ「決着をつけさせてもらうぞっ!!!」

ピッコロ「たあくだだだだだだだ!!!」ボボボボボボボ

フリーザ「そんな攻撃当たりませんよ!」

ピッコロ「ああ、当てる気がないからな」

ピッコロはただ気弾を当てようとせずばらまいた…そしてピッコロが撃った気弾はフリーザの周りをとどまっていた

ピッコロ「食らえ！魔空包囲弾！！」【魔空包囲弾】

フリーザ「ぐわああああ！！！」

ピッコロ「呆気なかったな…」

フリーザ「よ…よくもやってくれましたね…」

フリーザ「はああああああ！！！」

ピッコロ「何っ!？」

ゴールデンフリーザ「どうですかこの変身は…安っぽいネーミングですがゴールデンフリーザとも呼んでおきましょうか…」

ピッコロ「ちっ…化け物め…」

ゴールデンフリーザ「貴女から殺して差し上げましょうか…」

霊夢「え…」

ピッコロ「させるかあ!!!」ボン!

オレンジピッコロ「うおおお!!!」

ゴールデンフリーザ「なっ!?!」

オレンジピッコロ「でやあっ!!!」【激烈剛拳】

ゴールデンフリーザ「ぐふあああ!!!」

フリーザ「がはっ…あっ…うああ…」

オレンジピッコロ「終わりだ!!!」【激烈光弾】

フリーザ「ぎやああああ!!!」

オレンジピッコロによってフリーザも完全に消滅した

悟飯「ピッコロさん、ちょっとやり過ぎだと思えますが」

オレンジピッコロ「力を入れすぎたな…」

霊夢「助けて貰って悪いけど貴方達は何者なの？」

魔理沙「悟空さんに似ているけどな…」

悟飯 「悟空…!? お父さんを知ってるんですか!?!」

霊夢 「お父さん!? あの人が子供いたのね…ってか結婚してたのね…」

悟飯 「僕は孫悟空の息子、孫悟飯です」

魔理沙 「その顔色悪い人は？」

ピッコロ 「これは元からだっ!! まあいい…俺はピッコロだ」

霊夢 「悟飯さんにピッコロさんね」

魔理沙 「よろしくだぜ!!」

ピッコロ 「…お前達は何者なんだ？」

霊夢 「私は博麗霊夢、博麗の巫女よ」

悟飯 「巫女って…神社の？」

魔理沙 「一応霊夢は博麗神社の巫女やってるんだぜ」

悟飯 「へ、へえ…一応？」

魔理沙 「人が来ないからな！」

霊夢 「うっさい!!!」 ガン

ピッコロ 「大丈夫なのか、それは…」

魔理沙 「おーいてて…私は霧雨魔理沙、普通の魔法使いだ！」

悟飯 「魔法使いさんですか！…ん？魔法使いに普通なんてあるの？」

ピッコロ「孫…いや、悟空は見た事はあるってことだよな知っているか? 何処にいるか」

悟飯&ピッコロ『っ!?!』

霊夢「どうかしたの?」

ピッコロ「探す手間が省けた…」フワー

悟飯「あっちですね」フワー

霊夢「ちよつと待ちなさいよ!」フワー

21話 王族の決着

悟空「この気は…悟飯とピッコロ…だな」

バーダック「そんなこともわかるのか」

悟空「まあな！」

ーベジータ saidー

ベジータSS「へっ、まさか父親の貴様が此処に来るなんてよ…何しに来た…」

暗黒仮面王「わかるまい…この私の今までの苦痛を!!!」

暗黒仮面王は自分の忌々しい過去を思い出しながら答えた

ベジータSS 「そんなこと知ったことか！」

暗黒仮面王 「俺はこの力でフリーザを倒し、破壊神ビルスをもひれ伏させる!!!」 スッ

暗黒仮面王 「俺の力を舐めるなよ!!!」 パリン…

暗黒仮面王は自分の仮面を壊した。暗黒仮面王の素顔は惑星ベジータの…サイヤ人の王ベジータ王だった。

ベジータ王：ゼノ 「この世界も俺の手の中に収まるのだ」ズオオ…

暗黒仮面王…ベジータ王は自分の持つ悪の力を全て解放した

ベジータSS2 「俺を倒せると思うなよっ!!!」 バチバチ

ベジータ王：ゼノ 「はあああああ!!!」 バッ

ベジータSS2「でやあっ!!!」ドン

ベジータ王：ゼノ「だあっ!!!」

ベジータSS2「っ!?まっずいっ!」

ベジータSSG「かあっ!」

ベジータ王：ゼノ「くたばれ!」【ダークキングズブレイザー】

ベジータSSG「こいつを受け止める勇氣があるかっ!!!」【フルチャージファイナルフラッシュ】

ベジータ王：ゼノ「ぬおおっ!!!」

ベジータSSSS「決着をつけるぞ…」【ギャリック砲】

ベジータ王：ゼノ「いいだろう…」【ギャリック砲】

ベジータSSGSS&ベジータ王：ゼノ『ギャリック砲つ!!!』ポツ

互いのギャリック砲がぶつかり合い互角だと思われたが…

ベジータSSGSS「はあ…くだらん」

ベジータ王：ゼノ「何だと…？」

ベジータ王のギャリック砲がどんどん押されていった。

ベジータSSGSS「もういい…消えろ…」

ベジータ王：ゼノ「なっ…」ポツ

ベジータの気功波によって悪の力を持ったサイヤ人の王は完全に消滅した

―悟空 said―

悟空「よ、悟飯！それにピッコロも…って霊夢もいんのか！」

悟飯「お父さん！」

ピッコロ「どうしてそこまでボロボロなんだ」

悟空は仮面のサイヤ人、バーダックと超サイヤ人を超える力で戦ったこと等を話した。悟飯やピッコロ、霊夢は多少は驚いていた。悟飯は自分のいた時代の話をした。その中にはピッコロからスーパーヒーローと言われたガンマー1、2号のことやRR軍（レッツドリボン軍）の最恐の怪物のセルマックスの事も悟空に話した。悟空は新しい敵と戦えなかつた事を悔しがっていた（悟空の時代では悟空はビルス星で修行中だということ＋まだセルマックス等が完成していないので悔しがる理由が何も無い）

悟空「ま、そいつら倒して地球救ってくれたんなら問題ねえな！」

霊夢「あんた達の世界からどんどん幻想郷に流れてきてる…」

魔理沙「こりや博麗の巫女の仕事がめちやくちや増えるな」

霊夢「他人事だと思つて…（泣）」

そんな会話を気を消しながら見ている者（？）がいた。山吹色の道着に白いズボン、腰には《M》のついたベルトを着けている。さらにピンクの頭に一本の触角を生やしている。

ちょうどその時にベジータ王を倒したベジータが悟空達の元へ帰つて来た。

悟空「よ、ベジータ！おめえも終わったんか？」

ベジータ「…チツ」

ベジータは何も言わずに上を向く様に合図した。ベジータの合図に悟飯、ピッコロ、

霊夢、魔理沙は上を向いたが悟空は首を傾げていた。

悟飯&ピッコロ『っ!?!』

霊夢&魔理沙((?))

悟空「どうしたんだ？皆は、なあベジータ？」

ベジータ「黙って上を見てみろっ!!」

悟空「上を?…ん?」

流石の悟空でも違和感に気付いた様だった。

悟空「ん?…っ!?!あいつ!!」

霊夢「誰かいるみたいだけど何なの?」

??? 「やっと私に気付いた様だな」

悟空 「おめえは…ブウ!!」

22話 魔神の策略

霊夢「ブウ？」

悟空「ああ…あいつは魔神ブウっちゅうんだ」

ベジータ「おい、あいつ悟飯を吸収した姿じゃないか」

悟飯「え!？」

ピッコロ「面倒だな」

ブウ「フハハハハ、この最恐の魔神に勝てると思っっているのか」

ベジータ「オレ様が最恐の魔神（笑）を倒してやるよ」

ベジータはアルティメット悟飯を吸収した魔神ブウに対して挑発していた。そしてブウの方もその煽りに乗っていた。

ブウ「何だと!？」

ベジータ「よく見ているよ」

ベジータSSG「おらよっ!!」ドガア

ブウ「ぐわっ!？」

ベジータSSG「おいおい…ちやーんと避けるよ」

ブウ「お前…何をしたっ!？」

ブウはとても混乱していた。ベジータは全く動いてもないのに全身から強烈な痛みを感じたからだ。

ベジータSSG「さっさとかかってきやがれ」

ベジータは見えないパンチを与えていた。それでブウはダメージをいつも以上に受けていた（ゴジータが一星龍にやっていたのとよく似ている印象だ）

ブウ（一体何が起きているのだ!? 奴は私に近づいては…だが、奴は「避ける」と言った…ということは物凄いスピードで私を殴ったって事になる…クソ！ 奴の攻撃がわかることが出来れば…）

ベジータSSG「何企んでるかは知らんがさっさとトドメにさせてもらおうぞ…」

ブウ（奴は私がピンチになると吸収しに来る事は知ってるだろう…そして其所に居る孫悟飯やピッコロも同様に一度私に吸収されているため、吸収は出来ないと考えなければ…孫悟空も無理で……ん？ そこにいる紅白の奴と白黒の奴は私の事をほぼ全く知らないだろう。ならば奴らを吸収すれば…だがどうやって吸収をする？ 背後からは絶対に孫悟空やピッコロ達が気付くだろう…いや、近づこうものならベジータ達にぶっ飛

ばされるな…よし、決めたぞ！)

ちなみにブウがここまで考えているのはピッコロの頭脳の為なのである。さらに考えていた時間は0.005秒もない。

ブウ「クソツ！クソツ！何故だ！何故奴の攻撃が見えんのだ！奴の攻撃さえ見えたら！！」

ベジータSSG「舐めているのか？言っておくが吸収されるつもりはないと思え」

ブウ「だ、黙れ！」

ブウ（これで奴の気を引く事が出来れば…）パラパラ…

ブウは自分の体を分子レベルに細かくして、霊夢と魔理沙の近くに撒いた。ブウの体は目に見えない程小さくなっているためベジータ達は気が付いていなかった。

ベジータSSG（何か企んでやるな…だが無意味って事を思い知らせてやる…）

悟飯「奴は何か企んでる様ですが、何でしょうか…」

ピッコロ「良からぬ事は間違いないのだがな…」

悟飯とピッコロが会話をし、悟空がブウの動きを観察している為、誰も霊夢と魔理沙の背後にブウの体（？）に気が付く事はなかった。

ブウ（よし！）

ブウ「今だああ！」バツ

悟空&ベジータ&悟飯&ピッコロ『っ!?!』

霊夢「きやああああ!!!」ガバツ

魔理沙「うわああああ!!!」ガバツ

ブウは霊夢と魔理沙が包まれたのを確認し両腕を広げた。そしてブウの方へと飛んでいった。

悟空「しまった!!」バツ

悟空が動き出したのはブウが吸収する直前だった為、なす術なく霊夢と魔理沙は吸収された。

ブウ「霊夢、魔理沙吸収」「ふふ、ふはは、あーっはっは!!どうだ更に私はパワーアップしてしまったぞ!!」

悟空「おめえ、きたねえぞ!!!」

ベジータSSG「あいつら二人吸収したところで何も変わらん」

ブウ「何を言っている？何時私が二人だけだけ吸収すると思ったのだ？」

ベジータSSG「何だと!？」

ブウ「来いっ!!!」バツ

ヒューンヒューンヒューンヒューンヒューン…

ブウはベジータをどうやって倒すか悩んだ…其所の二人を吸収したところでベジータに勝つ事は出来ない。ならば幻想郷に住む強者を全員まとめて吸収してしまえば良いという事に…気が付いてしまったのだ。(ちなみに地底がある事は知らない)ので地上に住む者のみ片っ端から吸収したため、現在地底に住むハーツ達が吸収される事はなかった)

ブウ「幻想郷吸収」「素晴らしい…これ程の力が眠っていたとは…」

悟空「や、やっべえ…!!」

ベジータSSG「なっ!?…チツ…はあっ！」ボツ

ベジータSSGSS「でやあっ!!!」ドガツ

ブウ〔幻想郷吸収〕「…何だ?まさか、今攻撃をしたつもりか?」

ベジータSSGSS「たあくだだだだだだ!!」ガガガガガ

ブウ〔幻想郷吸収〕「っらあ!!!」ズン!

ベジータSSGSS「…かはっ!」

悟飯「ベジータさんっ!!はあああああ!!!」ゴゴゴ…

悟飯SS「おりやあああ!!!」バツ

ブウ〔幻想郷吸収〕「ふんっ!!」ズンッ!

悟飯SS「かはっ…!!?」

ブウ〔幻想郷吸収〕「おらっ!!」ドガ

悟飯SS「うわあああああ!!!」ズガアアアアア

ベジータブルーでも魔神ブウの力に勝つ事が出来なかったのにただの超サイヤ人には勝ち目がない事は誰が見ても明らかだった。

悟飯が究極（アルティメット）の力を取り戻さなければろくに戦い等は出来ないのだった。

悟飯SS「はあ……………はあ……………はあ……………はあ……………」

ブウ〔幻想郷吸収〕「これで……………トドメだあああ!!!」【ビッグ・バン・アタック】

悟飯SS 「や……めろ……やめろっ!! そんなこと…絶対にさせないっ!!」

悟飯SS 「うおおおおお!!」 バチバチツバチバチツ

究極悟飯 「くっ……!!」

ブウ〔幻想郷吸収〕 「いくら究極の力を持つとうが意味はない!!」

究極悟飯 「やってみなきやわからないだろ!!」

23話 最強の戦士降臨

究極悟飯「うりやああああ!!!」

ブウ「幻想郷吸収」「それでは私を倒せんぞ!!」シユツ

ブウは究極悟飯の攻撃を全て見切りあえてかすっている様に見せていた。究極悟飯は焦りつつも、平常心を保っていた。

悟空「こりややべえな…」

ベジータ「クソツタレ…」

ピッコロ「いづれ悟飯も体力がなくなる…悟空、ベジータ。仙豆だ…食べ」

悟空「ああ…サンキューなピッコロ」コリツ

ベジータ「チツ」コリツ

悟空「あ！そうだ思い出した！あれがあった！」

ピッコロ「あれ？あれとは何の事だ」

悟空「ベジータ！これやるぞ！」

ベジータ「なっ!？」

ピッコロ「その手があったか」

ベジータ「……………やってやる…準備しろ！」

悟空「サンキュー!!!ベジータ！」

ピッコロ「ベジータが文句を言わないとはな……」

ベジータ「またあれをすることになるとは……」

その頃究極悟飯は徐々に……確実に押されていた。

究極悟飯「はあ……はあ……はあ……はあ……ふっ」ニヤ

ブウ「幻想郷吸収」「何がおかしい」

究極悟飯「お前の……負けさ……」

ブウ「幻想郷吸収」「何だと!?!」

究極悟飯「後は頼みました……”お父さん”」

??? 『あとは俺に任せてくれ、悟飯……』

ブウ〔幻想郷吸収〕「なっ!?……お前は…!?」

ブウは忘れる事はなかった……かつて最強だった自分に対して、圧倒的な力の差を見せつけられた忌々しい奴を……それは山吹色の道着に青ジャケット、ベジータが着けていた手袋に靴を履いた合体戦士を。しかし、前に戦った奴と少し違っていた。確かに似ていたが服に違いが見られた。

??? 『覚悟しろよ……魔神ブウ!』

ブウ〔幻想郷吸収〕「貴様っ……! 一体何者なんだ!」

??? 『俺か? 俺は孫悟空でもベジータでもない……俺は貴様を倒す者だ!』

ブウが敵対している人物……それは孫悟空とベジータが合体した最強の戦士へゴジータである

ゴジータ『お遊びをしている暇がないんでな……』

ゴジータ『一気にフルパワーだ！』シユオオオオオ……

ゴジータSSSSSS『はああああああ!!』ブオツ

ゴジータSSSSSS『さあ、決着を付けようぜ』

ブウ〔幻想郷吸収〕「うおっ!？」

ゴジータSSSSSS（しかし……面倒なことしやがったな……全くムカつくヤローだ……）

昔、ベジットはブウに吸収された悟飯、悟天、トランクス、ピッコロを救出させようとしていた……結果は違ったものの、皆は救えたが、今回はそうはいかない。ブウがまた吸収という手を使うかわからないのと、吸収された人数が異常な程多いのだ。それをゴジータが一人で全員助けるのは物理的に無理な話だった。

ゴジータSSSS 『貴様が吸収した奴ら、解放させて貰うぞ!』 シュン

ブウ〔幻想郷吸収〕「ど……何処だっ!!?」

ゴジータSSSS 『うらっ!』 ドガ

ブウは先手を許してしまい、ゴジータの猛攻に耐えなければいけなかった。しかし、ブウは幻想郷の強者を吸収した為、ダメージは少なかった……

ブウ〔幻想郷吸収〕「ぐおああああああっ!!!」

訂正しよう……そんな事はなかった。

ゴジータSSGSS 『もつと本気でやってほしいな……これじゃ張り合いがねえしな……』

ブウ〔幻想郷吸収〕「ぐうううっ!! 貴様っ!!」

ゴジータSSGSS 『本気でやってその程度か?』

ブウ〔幻想郷吸収〕「うおおおおお!!」ブン

ゴジータSSGSS 『ふん』スカッ

ブウ〔幻想郷吸収〕「うがあああああ!!」ブンブンブンブン

ブウは手数でゴジータを押そうと企んだものの……赤子の様に弄ばれるだけだった。

ゴジータSSGSS 『まさか、様子見なんか企んでねえだろうな…それじゃガツカリだぜ』

ゴジータSSGSS 『攻撃つてのは、こうやるんだ…よっ!』ガツ

ブウは避ける前にゴジータからエルボーを受けてしまい、さらに連続打撃をも受けた。其所からゴジータは物凄く高い位置まで飛び構えた。

ゴジータSSGSS 『はああああああ!!!』「スターダストフォール」

ゴジータSSGSS 『だああああああ!!!』ズドドドドドドド

ゴジータのスターダストフォールは上空から気弾の雨を降らして攻撃する技だがこの場合は、敵はバリアを張るか、受けきるしかない。受けきると言うものの、相手はゴジータ、しかもブルーなので耐えきれる可能性はほぼない。

ブウ「幻想郷吸収」「ぐああああああ!!!」ズガガガガガガ

ブウ〔幻想郷吸収〕「くっ……ば、バリアー……」ブウン

ブウ〔幻想郷吸収〕「はあ……はあ……はあ……はあ……や、やばかった……危うく消滅するところだった……」ピカー

ブウ〔幻想郷吸収〕「な、何の光だ？」

ゴジータSSGSS『これで貴様は完全に消滅する!!』〔ソウルパニッシャー〕

ブウ〔幻想郷吸収〕「お、俺が吸収した連中も全員死ぬ事になるぞ!!」

ゴジータSSGSS『安心しろ、貴様“だけ”綺麗さっぱり消滅する様になつてらん』グッ

ブウ〔幻想郷吸収〕「ご、悟飯や悟天、トランク스에ピッコロほど、どどどうなるんだ?!」

ゴジータSSSS 『ふっ……ちやーんと元の時代に帰るだけだ……』

ブウ〔幻想郷吸収〕「ま、負ける訳にはいかんだああ!!」ズオオ:

ゴジータSSSS (あの気はっ!!)

ブウ「キサマニハ、マケン!!ウオオオオオオ!!」

ゴジータSSSS 『そうか……じゃあな!』ヒュン

そしてゴジータはブウにソウルパニッシャーを投げつけた。ソウルパニッシャーはブウの体内に消え、ブウはゴジータを殴ったがブウは破裂した…その後、破裂した部分が光に変わり、人型の形に変形すると霊夢達の姿に変わった

24話 鬼の力とサイヤ人

霊夢「う、ううう…」

悟飯「倒れてますが大丈夫なんですか？お父さん」

ゴジータSSGSS『ん？まあ…死んでないなら大丈夫かもな』

魔理沙「うくん…あれ？」

ゴジータSSGSS『起きたか』シユン

ゴジータは魔理沙達がやっと目を覚ましたのでブルーを解除した

魔理沙「うん…悟空k…」

ゴジータ『…どうした?』

魔理沙「うわあああああああ!!?」

ゴジータ『叫ぶな叫ぶな…』

まあ、魔理沙が驚いて叫ぶのも無理はない…悟空とベジータが心配してくれたのになくと思つたら知らない人物が目の前にいることに驚かない方がおかしいぐらいだ。

ゴジータ『…落ち着いたか?』

魔理沙「あ、ああ…」

霊夢「貴方…名前は?」

ゴジータ『俺か? そうだな…えーつと…ポタラの時はベジットだっけ…じゃあ、えつと…』

霊夢「ちよつと？聞いてる？」

ゴジータ『よし、決めた…俺の名はゴジータだ』

霊夢「ありがとう…ゴジータさん」

ゴジータ『別にいいってことよ』

咲夜「悟空様達は一体何処へ？」

ゴジータ『俺だ』

霊夢「……ん？」

咲夜「“俺”？ということとは……」

魔理沙「どういうことだ？」

ゴジータ『説明不足だったか？俺の名はゴジータ、孫悟空とベジータが合体したんだ』

霊夢「嘘…」

魔理沙「そんなことも出来るのか…」

レミリア「凄いわね…」

ゴジータ『おう、レミリア達も無事だったk』ポン

悟空&ベジータ『…あ』

霊夢「あ、戻った」

美鈴「あ!!悟空さん!ベジータさん!」

悟空「よう！」

早苗「ベジータさん！無事だったんですね！！」

ベジータ「ふん…」

悟空「悟飯！」

悟飯「は、はい」

悟空「時間稼ぎがとな！」グツ

悟飯「はい！」

悟空「さてと…平和になったことだし、けえるか！」

霊夢「此処にいても特に意味もないしね」

悟空「そーだ、オラつええ奴と戦いてえんだ！誰か知らねえか？」

どうやら悟空は危ない目にあつた筈だかまだまだ戦い足りない様だった

ピッコロ「まだ戦う気か…」

魔理沙「強い奴ねえ…」

レミリア「あいつはどうかしら？」

悟空「あいつう？」

レミリア「ほら、鬼よ…あの博麗神社に住み着く鬼」

霊夢「ああ…萃香のことね…つてだめよ」

悟空 「スイカ？ 旨そうな名前だなあ」

霊夢 「食べ物じゃないわよ」

悟空 「そういやさつき鬼って言ったか？ 地獄にいるんか？」

霊夢 「いや……たしかいたような……」

??? 「霊夢うゝ酒がなくなったぞ」

霊夢 「あつ……いた」

魔理沙 「噂をすれば……」

悟空 「おめえがスイカか！」

??? 「君は〜?」

悟空 「オツス! オラ孫悟空」

??? 「私は伊吹萃香、凄く強い鬼だよ」

悟空 「いつちよオラとやろうぜ……!」

悟空は萃香に宣戦布告をしたが萃香は悟空の実力を知らない為、少し舐めていた。

萃香 「君が〜? まあ、ちよつとは強そうだけど……」

霊夢 「萃香? フルパワーを出さないとあっさり負けるわよ?」

萃香 「いやいやいや……いくら強くても、鬼を舐めないでほしいね……」

悟飯 「どうなりますかね……この勝負」

魔理沙「ま、流石の悟空さんでもまずいと思うぜ？」

ピッコロ「まあ…孫が全力をださなくても勝てるだろう…」

霊夢「あー……」

早苗「悟空さんってそんなに強いんですか!？」

ベジータ「まあ、此処に住む奴より圧倒的に上ってことだ」

霊夢（もしかしたら、華扇や白蓮より強いなら利用価値があるわね!!）

この時霊夢に悪い心が付け入るもしつかりと成敗された（物理）

悟空「よし、いくぞ！」スッ

萃香「あいよ！」スッ

悟空「だりやああ!!」バツ

悟空「うりやああ」ブン…クルツ

萃香「そんなの簡単に避k…！」ガッ

萃香「……つぶなあ…ギリギリだったよ…」

悟空は正拳突きをした…のはフェイクで、当てる瞬間に回し蹴りに変更したのだ。

悟空「うりやりやりやりやりやりや!!」

悟空の一撃ごとに強烈な力を込めている為、どんどん萃香を押し去っていった。

萃香「まずいね…これならどうだい？」スウツ

悟空「…え？」

萃香は消えた。見えない速さで移動してもないし、瞬間移動もしていない…その代わりとして悟空の周りには霧が出来ていた。悟空が気を探ろうにも霧全体に萃香の気があり上手く探る事が出来なかつた。そして…

悟空「ぐわっ!？」ドゴツ

悟空は一方的に攻撃を受けていた。

霊夢「悟空さんには悪いけど負けね」

悟飯「…いえ、それでもありませんよ」

魔理沙「どう考えても勝ち目がないだろっ!!」

幻想郷に住む者からは萃香の勝ちに見えた。実際そうだからだ。しかし、

ベジータ「奴は戦闘の天才だ。よく見ておけ」

早苗「…へ？」

悟空「へへっ…おもしれえ能力だな…」ドガッドガッドガッ

萃香「そりやどうも」

悟空「でも、その程度じゃオラには勝てねえぞ？」ガッ

萃香「言ってくれるじゃないか」

悟空「見せてやるよ…はあっ!!」ブオッ

萃香「やばっ…!」

悟空はノーモーションで超サイヤ人3になった。髪は背中まで伸び、眉毛はなくなつた。

悟空SSS3「そして…これが…更にそれを超えた超サイヤ人3だ…気の消費が激しい代わりに超サイヤ人2の4倍…つまり合計400倍のパワーがだせる訳だ」

悟空SSSG「そして、超サイヤ人ゴッドだサイヤ人の神の力って言ったらわかるか？」
髪は元の長さに戻り、色は赤くなつた。若干だが若くなつた様に見えるもない。

悟空SSSG「どうだ？ちよつとはびびつたる？」

萃香「いや？全然…」

萃香は強気だつた。超サイヤ人ゴッドになつた悟空相手に勝ち目があると言うのか？

萃香（やっぱあ！今になって不安が押し寄せてきたあ…）

さて、萃香は神の気を纏った悟空に勝てるのだろうか？

結論……勝てなかった。

萃香（だよね…）

いくら鬼の力が強くてもサイヤ人の神の力には遠く及ばなかった…

霊夢「改めて見ると、とんでもなく強いわ…だってあの萃香に勝つなんて…」

ベジータ「カカロットめ、手加減しやがったな！」

悟飯「まあまあ……」

神奈子「いやー、ほんつとに神の力を扱えるんだ」

諏訪子「しょーじき、まだ驚いてる」

???「貴方が私達を助けてくださったんですね？」

悟空「まあな！ほんでおめえは？」

???「私は聖白蓮…命蓮寺の僧侶です」

悟空「…おめえ、力隠してんだろ？」

白蓮「……!？」

悟空「ま、そんなことはどーでもいいや！」

悟飯「相変わらずお父さんらしいや…」

悟空「そういやさ！下のほーからまあまあでけえ気を感じつけど何だ？」

霊夢「ああ、それは地霊殿よ。旧地獄とも言うわ」

悟空「ふーん」

魔理沙「あれ？地獄と聞いたら多少はびびってもいい気が……」

悟空「…？何言ってるんだ？オラ地獄にも行った事あつぞ」

霊夢「え？悟空さんって悪い事してたの!？」

悟空「ちげえよ…地獄で暴れてる悪い奴らを懲らしめる為に地獄に行ってるんだ」

魔理沙「もう……何があってもツツコまないぜ……」

ピツコロ「まあ、そらが良い判断だ」

悟空「よし！行ってみつか……えつと……その……」

ベジータ「地霊殿だ」

悟空「あつ、そうそうちれーでんだ！」

「やつと此処に来るか……孫悟空、また俺の力を試させて貰おうとするか……」

25話 行くぞ地底へ！地霊殿の戦い

霊夢 「此処が地底への道よ」

悟空 「此処つて博麗神社の裏じゃねえか？」

霊夢 「見てみなさい」 ヒュオオオオオオ…

悟空 「ひゃー、とんでもなくふけえな〜」

ベジータ 「…さっさと行くぞ」

悟空 「そんなカツカすんなよ〜ベジータあ」

結局時間はかかったものの、地底に着いた

悟空「意外に長かったな」

さとり「いらつしやいましたね」

悟空「??おめえ…誰だ?」

ベジータ(それよりこいつは何時から此処にいた?)

さとり「さつきです、私は古明地さとりと言います」

悟空「よろしくな!さとり」

ベジータ(……ん?こいつも心を読めるのか…?)

さとり「はい…覚妖怪なので心は読めます」

さとり「貴方達”も”怖くないのですか?」

悟空「心読むのか？全く怖くねえぞ？」

ベジータ「〃も〃だと？他に怖がらなかった奴の名は」

さとり「ハーツさんです」

悟空「っ!？」

ベジータ「ハーツだと!？」

悟空（ハーツも来てんのか）

ベジータ（あいつめ…）

悟空「案内してくれねえか？」

さとり「いいですよ」

そして悟空達はさとりと一緒に地霊殿に向かった。その途中…

悟空「なあさとり」

さとり「はい」

悟空「ずっと着いてくるこいつは？」

ベジータ「…は？何言ってやがる？」

悟空「だから、この帽子被った娘つ子に決まってんだろ？ほら」ダキツ

??? 「わあっ!!」

さとり「…もしかして、私と同じ様な第三の目がありますか？」

悟空「なあ！おめえのそれ、目か？」

???「そうだよー！」

悟空「目あったぞ！」

さとり「じゃあ、その子は私の妹の古明地こいしです」

悟空「おめえこいしっちゆうんか？」

こいし「うん！」

悟空「よろしくな！」

ベジータ「何ぶつぶつ一人で喋ってんだ」

ベジータや霊夢から見たら悟空が一人でぶつぶつ喋っているようにしか見えないのだ。

悟空「こいしも地霊殿に住んでんのか？」

さとり「はい」

こいし「そうだよ〜！」

悟空「じゃ、一緒に行くか！」

こいし「わかった！」フワ〜チョココン

こいしは悟空に肩車される様にした、当然ベジータ達は見えないので悟空が何をしてるかさっぱりだった。

悟空「其所でいいんか〜？」

こいし「大丈夫！」

悟空「じゃ、掴まってるよ…さとり行こうぜ」

魔理沙（一体どうなってるんだぜ!?!）

さとり「魔理沙さん、私も同じです…」

霊夢（良かった…仲間いた）

さとり「着きました…此処です」

悟空「此処が地霊殿か」

ベジータ「出てこい！ハーツ！」

ハーツ「また君達に会えるとはね…」

ベジータ「ふざけやがって…」バツ

ベジータ「でやあああああ!!!」

ベジータはハーツがいること自体が気に入らない様で怒りを露にした。

ハーツ「ふふふ…行け!カンバー!」

ハーツの合図と共に悪のサイヤ人カンバーが飛び出した。

カンバー「俺と戦えええええ!!!」ビュン

魔理沙「うわっ!?!」

魔理沙はカンバーの気迫に押されびびっていた。

ベジータ「かああああ!!」

ベジータSSGSS「くっ!!」

いくらベジータの超サイヤ人ゴッド超サイヤ人でもカンバーにはかなう筈もなく…

ベジータSSGSS「ぬわああっ!!」

カンバーSS「貴様の力はこの程度だったのかあ?」

霊夢「博麗の巫女なのに何も出来ずにただ見る事しかできないのは最悪ね…」

悟空SSGSS「カンバー!おめえの相手はオラ達だああ!」バツ

ピッコロ「…やるか」

オレンジピッコロ「うおおおお!!」ボン

究極悟飯「はっ!!」ドウツ

究極悟飯「だああああ!!!」バツ

カンバーに対抗すべく悟空、悟飯、ピッコロが自分のフルパワーで戦いに挑んだ

カンバーSS「ふっ」ニヤ

カンバーSSS「うおおああああ!!!」

悟空SSGSS「界王拳…20倍だああ!!」ギャウツ

ベジータSSGSS「うおおお!!だああああ!!」

悟空SSGSS20倍界王拳「だりやああああ!!!」ブン

ベジータSSSS・進化「でやああああ!!」ブン

究極悟飯「うりやああああ!!!」ビュン

オレンジピッコロ「うおらああああ!!!」ブオン

悟空、ベジータ、悟飯、ピッコロが同時に攻撃をしようとしたが…

ハーツ「ふむ…」

超ハーツ「カンバーにはやられてもらう訳にはいかないんでね」

悟空SSSS20倍界王拳「だりやあ…うわああああ」ヒューン

悟空は超ハーツの作り出したキューブに当たると、垂直に落ちた。

ベジータSSGS・進化「ぬおおお!!」ヒューン

オレンジピッコロ「ぐおおお!!」ズズズズズ：

究極悟飯「うわあっ!!」ズオオ：

悟空だけでなくベジータやピッコロ、悟飯まで落下した。超ハーツのキューブは重力を操るためベジータが使う重力室より何倍も強いので立てなくなっていた。

悟空「やっぱハーツは…強えなあゝ…」ズズズ

カンバーSS3「俺の邪魔をするな!!」

ハーツ「ああ、悪い」シユン：

悟空達がハーツと戦っていた時、一つの球体が霧の濃い湖に落ちた。

ザッパーーーン!!!

しかし水だけではスピードを殺せなかったのか、木をなぎ倒しながら森に入った。

ズガガガガガガガ!!!……プシュー……

その球体は赤い星の入ったオレンジ色のボール……ではなかった……

白くて人の入れる位の大きさの球体だった。赤く光る窓がついた、一人用のポッド
“
だった。

ウーーーーーン……ガガガ

機械音が鳴り扉が空いた。スツ

ザッ……ザッ……ザッ……ザッ

ポッドから出た者はフラフラになりながら歩いた。死にかけだった為、悟空やベジータは感じる事が出来なかった。その者はたった一人でフリーザに挑んだ戦士……ではなかった。

フリーザに挑んだ戦士、バーダックは洗脳が解けた後、また仮面を着けて潜伏していた。

それはさておき、その者はかつて孫悟空に恨みを持ち、圧倒的なパワーをもっていたものの敗れ去った……奇跡的に生きていたがそれでも孫一家に敗れた……

??? 「うう……ぐうう……」

チルノ 「お前大丈夫か?」

大妖精 「危ないよ」

ルーミア 「血だらけなのだ」

??? 「カ…カ…カ…ロツト…カカ…ロツト…！」 ドサツ

チルノ 「カカロツト？」

大妖精 「カカロツトってベジータさんが言っていた悟空さんの事じゃないのかな？」

その名は…

ブ
ロ
リ
ー
と
言
う
…

26話 時空の歪みとサイヤ人

悟空達が超ハーツと敵対し、ブロリーがひっそりと幻想入りしている中、悟空の父バーダックが仮面の洗脳が解けた状態で魔神トワとミラと行動していた。何かあったらすぐに抜け出せる様に準備は完了していた…

ミラ「一体何が起きているんだ」

トワ「わからないけど私達にとっては都合がいいわね」

バーダック（奴らの話を聞いてきたが何を企んでやがるかさっぱりだな…）

ミラ「ヒューは孫悟空によってやられたらしいから、この先新たな暗黒王はどうするか……」

トワ「早くしないと暗黒因子が奴らに取られるわ」

ミラ「暗黒ドラゴンボールも揃えたし、生き返らせるか？」

バーダック（暗黒因子？暗黒王？駄目だ…さっぱりわかんねえな…）

トワとミラは新たな暗黒王を誕生させる（？）為に暗黒ドラゴンボールを使おうとしていた

バーダック（しかし、どうすつかな…このままじゃ、面倒な事を起こされるだけだな…俺がアクションを起こしちまえば奴らの計画とやらは潰せるが、「暗黒因子が奴らに取られる」という事は他の奴もその暗黒因子とやらを狙っている事は確かだ…此処は奴らを監視しているのが一番か？）

バーダックは思考を働かせて今一番やった方がいい事を考えていた。しかし、これが一番！というのは見つからなかった。

その頃ブロリーは

命蓮寺にいた。理由はわかっていない。ブロリーは無意識に命蓮寺に来ていたという事だ。

ブロリー「ぬう…？」

白蓮「あら、貴方は…？」

ブロリー「……………」ピク

白蓮「私の方が先でしたか？私には」

ブロリー「ブロリー…です…」

ブロリーはタイミングというのを良く理解していなかった

白蓮「ブロリーさん…で間違いないですか？」

ブロリー「はい…」

白蓮「私は聖白蓮…命蓮寺の僧侶でありつつ、魔法使いでもあります」

ブロリー「……………」

白蓮（……………？何とも感じてない？）

ブロリー「僧侶って何なんだあ？…」ズルツ

ブロリーがいたところは、僧侶などいなかったたので意味を知らなかった

白蓮「そ…！其所からですか…」ガクツ

ブロリー「……………」

白蓮「えーつと…つまり、命蓮寺の一番偉い人だと思ってくれて構いません」

ブロリー「わかった…」

白蓮「貴方はこのお寺に入門しに来たんですか？」

ブロリー「……………？ああ…」

白蓮（不安になってきました…）

白蓮「まずは貴方の实力を見たいので、私に全力を出してかかってきてください」

白蓮は悔っていた…ブロリーの底知れぬ戦闘力を…：奴が本気になれば幻想郷等一瞬でチリに変える事が出来ることも…

白蓮（普通の人間なら手加減しないと、死んでしまいますからある程度は加減しないと…）

悟空達はブロリーの気を感じる事はなかった。自分達より小さな気は感じ取りにくいのだ……そしてブロリーも悟空の気は感じる事はなかった。神の気を纏った悟空達を察知するのは無理だった

ブロリー「ウオオオオオオ!!!」ゴゴゴゴ……

ブロリーSS「青」「ぐおおおお!!!」

ブロリーは超サイヤ人になった……が髪は金にはなっていなかった。その力に白蓮は驚き、自分の考えを悔いた。

白蓮（これ程のパワーを持っていたとは……私の考えは甘かったですね……）

ブロリーSS「がああああ!!!」

ブロリーの髪が青から金に変化し、悟空達が変身する良く見る超サイヤ人になった。

白蓮「まだパワーが上がっている!?!もう、止めなさいっ!」

白蓮は静止を促すもブロリーの気は上がり続けた。ブロリーの髪は金から黄緑へと変わっていき、筋肉はどんどん肥大化した。ブロリーが伝説の超サイヤ人に変身した証だ

…そして白蓮は言葉を失った。自分ほとんどでもない事をしてしまったのではないかと。ブロリーはどんだん昔の頃に戻っていった。今この時、悪魔が蘇った。全てを破壊しつくす化け物が幻想郷に現れてしまったのだ。

伝説の超サイヤ人ブロリー「……………」ニヤ

白蓮「なっ…………?!?!あ…………!」

白蓮は恐怖の底に叩き付けられた気分だった。本当は周りの住人の避難をさせなければいけない状況にも関わらず、白蓮はブロリーを見る事しか出来なかった。其所へ、間の悪い時に…………

??? 「あの、まだ……かかりますか？こつちとしてはなかなか戻って来ないので多少ながら困っていたところ……です……が……」

「其所に毘沙門天代理の寅丸星がやって来てしまった。白蓮はブロリー（の力）によって周りが見えてないので星の声に全く気付かなかつた。」

伝説の超サイヤ人ブロリー「何なんだあ……？貴様はあ……」

星「……え？……あ、あ……」

星は固まってしまった……が、目の前にいるブロリーを敵と判断するのは早かつた。機嫌を損ねない様子を付けつつ、仲間の避難と援護要請の為そそくさとその場を離れた。

つもりだった。

伝説の超サイヤ人ブロリー「何処へ行くんだあ？」ニヤ ギュピギュピギュピギュピ
ブロリーは星に着いてきたのだ。予想外の出来事に啞然としていた。

星（こうなつたら……一か八か……）【光符 「正義の威光」】

伝説の超サイヤ人ブロリー「ぬう……？」ズガアアアアン

星は不意打ち気味にスペルカードでブロリーを攻撃した。ブロリーがどの程度の実力か確かめようとしたのだ。弾幕がブロリーに全ヒットしたので余裕を持って倒せそうと思っていた。

……が

伝説の超サイヤ人ブロリー「何なんだあ……？今のはあ……」ギュピギュピギュピギュピ

ギユピ

星（私の力だけじゃ、こいつは倒すことが出来ない…少なくとも“私”の力だけじゃ、ね…）

星はすぐに命蓮寺の中に行き、強い力を持っていない者は人里にいる人達を避難させ、力を持った者はブロリーと交戦した。だが、ブロリーの圧倒的パワーによって命蓮寺の強者達はすぐにやられた。

その頃悟空達は…

悟空SSGSS&ベジータSSGSS&究極悟飯&ピッコロ「っ!？」

悟空達はブロリーが伝説の超サイヤ人に変身した時に気付いた。

カンバーSS3「……むっ?」

ハーツ「これは……」

悟空「ブロリーだっ!!小さい気は一般人か…?って事はやべえぞ!!人里で暴れたりなんかしたらっ!!」

霊夢「……………えええ!?!」

魔理沙「そのブロリー?って奴は何しようとしてるんだぜ?」

霊夢はブロリーのヤバさに嫌な予感がしたが、魔理沙はよくわからなかった。

ピッコロ「ブロリーが暴れたりなんかしたら人里は跡形もなく消滅するだろうな……」

悟空「皆っ!!オラに掴まれっ!瞬間移動すっぞ!!」

ベジータ「あのやろう…どうやって幻想郷に入ってきたんだ…」

霊夢「そんなの紫が黙ってるつもりがないじゃない…そいつを無力化させてくれるわよ…多分だけ」

悟飯「紫さんが死ぬかもしれない…」

悟空「ハーツ!!おめえらも!」

ハーツ「いや、俺達は残ろう…頑張ってきたまえ…」

悟空「わかった…じゃ、行ってくる」シユン

シユン

伝説の超サイヤ人ブロリー「ぬおおっ!?!…カカロット…?」ニヤ

伝説の超サイヤ人ブロリー「カカロット…ベジータあ！フハハハハ！！血祭りにあげてやるっ！！」

悟空「オラはえめえをぜってえ許さねえぞ！！ブロリーっ！！」

ベジータ「覚悟しやがれ…！！」

27話 英雄対悪魔

伝説の超サイヤ人ブロリー「カカロット…まずは貴様から血祭りにあげてやるっ!!」

悟空「出来るもんなら……」カッ

悟空SS「やってみろい!!」スッ

伝説の超サイヤ人ブロリー「があああああ!!」ドウッ

悟空SS「だりやああああ!!」ドガッ

悟空とブロリーは正面から激突した。素人からすると、ブロリーが勝ってしまうのはというレベルの気迫を放っていた。それでも悟空とブロリーはほぼ互角の闘いをしていた。

悟空SS 「はあああああ!!!」ズオオ

悟空SS2 「だあああああ!!!」バチバチ

伝説の超サイヤ人ブロリー「うおおっ!?」ズザア

ブロリーは悟空の気合いでふっ飛ばされはしなかったものの後退りした。そこからは悟空が一方的にブロリーにダメージを与え続けた。周りからは悟空を応援する者がいたそうだがとても危険な為、命蓮寺組から避難を受けていた。そのお陰で悟空は周りを特に気にせず闘いを続けた。しかし相手は腐っても伝説の超サイヤ人：悟空の超サイヤ人2の攻撃も少しは耐えていた。

霊夢「うわあ…人里の被害が酷いわね…」

??? 「ええ、そうね…」

霊夢「はあ………って紫じゃない！」

紫「私だけじゃないわ……ほら、其所にいるの紅魔館のメンツよ……それに幽々子達もいるし、皆幻想郷を守る為に来てくれたのよ」

霊夢はよく周りを見渡すと確かに見たことあるような人物達がいた。霊夢は何故気が付かなかったのかを疑問に思ったが悟空とブロリーがまだ闘っているので考えるのをやめた。

悟空SS2「まだオラの攻撃耐えちまうのか……なら……！」

伝説の超サイヤ人ブロリー「何をするつもりだあ……？」

悟空SS2「あまりの迫力にひびっちまうかもよ？」

伝説の超サイヤ人ブロリー「フハハハハ!!無駄な足掻きをしなくても意味がない事を教えてやる!!」

悟空SS2「はあああああああ!!!」バチバチツ!!

悟空は力を込めて、気をどんどん上昇させた。

伝説の超サイヤ人ブロリー「ぬうう…?」

ブロリーは何が起こっているかはわからないが、少し焦りが見られた。

悟空SS3「これが…超サイヤ人3だ…さて、ブロリー…さっさと始めようぜ…?」バ

チツ

伝説の超サイヤ人ブロリー「……………血祭りにあげてやる…!」ポウ

悟空SS3（何をする気だ…?）

伝説の超サイヤ人ブロリー「所詮、クズはクズなのだ…」ポーヒー

悟空SS3「あんにやろっ!!だあああ!!」バシッ

ブロリーの気弾は悟空のお陰で人里に被害が及ぶ事はなかった。

伝説の超サイヤ人ブロリー「カカロット、貴様は確かにこの俺のパワーを超えているかもしれない……だが、それでは俺を倒す事は出来ぬうっ!!」ブウン

悟空SS3「何をするつもりだ？」

ブロリーは気弾を作り出した……いや、その中に入っている様な状態だった

ベジータ「………む？」

ピッコロ「奴の考えている事がさっぱりわからん」

悟飯「あれは…バリア？」

ベジータ「違うだろうな…カカロットは攻撃態勢に入ったただだからな…」

ピッコロ「自爆だとしても、する価値がない…」

ベジータ達にもブロリーがこれからしようとしていた事はわからなかった。

伝説の超サイヤ人ブロリー「うおおおおお!!!」〔プラスターメテオ〕

悟空は直前でその攻撃を見たことがあるように感じた。それはブロリー（新）が父親のパラガスが死んだ時の怒りで超サイヤ人に変身し、気弾を其所らじゆうに打ち続ける攻撃だった。

悟空SS3「…!!? やつべえ!! ベジータああ!!」

ベジータ「どうした、カカロット!!」

悟空SS3「このままじゃ、人里が消滅すつぞ!!」

霊夢「……………え？」

ベジータ「何い!？」

魔理沙「嘘だろ…?」

伝説の超サイヤ人ブロリー「があああああ!!!」ズドドドドドドドドドドドド

ズガアアアアン!!

人里の建物がどんどん破壊されていった。何発かは弾いたが効果は全くと言っていいほどなかった。

レミリア「こうなる事はわかってた筈なのに…!何も出来ないなんて…」

悟空SSG「ブロリー!!オラはおめえを許さねえぞ!!」ゴオオオ

伝説の超サイヤ人ブロリー「フハハハハ！」

悟空SSG「かゝ…めゝ…！」【かめはめ波】

悟空SSG「はゝ…!!めゝ…!!」

悟空のかめはめ波は普通の水色ではなく、赤っぽい色に変わっていた。

悟空SSG「波ああああ!!!」ズオオツ

悟空のかめはめ波は真つ直ぐブロリーに向かった。

伝説の超サイヤ人ブロリー「ぐおおおおああ!!!」ズガアアアアン

悟空SSG「…ふう」シユウ…

ベジータ「ギャリック砲!!」【ギャリック砲】

ピッコロ「爆力魔破!!」【爆力魔破】

悟飯「魔閃光く!!」【魔閃光】

ベジータ達も各自で技を打った。ブロリーに向かったぎあくまで周りの気弾を打ち落とす為である。

魔理沙「私もやらなきやなんだぜ!!」【恋符「マスタースパーク」】

他にも続々とスペルカードを放つが効果は想像道理だった。

伝説の超サイヤ人ブロリー「カカロットおおおお!!!」

悟空SSG「オラは…ぜってえおめえを許さねえぞ…!」

伝説の超サイヤ人ブロリー「カカロット…ぐおおおおお!!」グググ…

悟空SSG「な…!？」

ブロリーSS3「……………」ニヤ

ブロリーは自分の殻を破り、超サイヤ人3に変身した

ベジータ「あいつ……………!!」

ピッコロ「超サイヤ人3になりやがった…」

悟飯「僕もお父さんと一緒に闘います!!スウツ…はっ!!」

究極悟飯「…………よし」

ベジータ「…………まだだ」

究極悟飯「え？何故ですか？」

ピッコロ「奴が孫への怒りでパワーアップしているようなものだ…」

ベジータ「それにカカロットが協力しようとするか？」

霊夢「わ、わあ…私達の事完全無視か…」ズガアアアアン！ズガアアアアン！ズガアアアアン！ズガアアアアン

悟空とブロリーが衝突する度、衝撃波が頻繁に起きた。

魔理沙「こりやまずいと思うぜ…」

霊夢「そうだ…レミリア、あんた運命見れるでしょ。それでこの運命見れないの？」

レミリア「え？まあ…出来なくもないけど…」

霊夢 「見てみてよ」

レミリア 「わかったわよ……………嘘…」

霊夢 「何かあった訳？」

レミリア 「早く此処から離れなさいっ!!」

フラン 「……………
??？」

悟空 S S G 「うわああああ!!!」ズガアアアアア

悟空が吹っ飛んできた方向からは15m以上ある超巨大な猿が現れた。

霊夢 「何あれ……………？」

魔理沙「でかすぎるのぜ……」ガラガラ……

悟空「いっちち……おーいて……」

究極悟飯「大丈夫ですか？お父さん……」

悟空「こいつはまずいな……」

大猿ブロリー「ぐおおおおおおお!!!」

悟空「はあっ!!」ボウツ

悟空SSGSS「はあああああ!!!」ゴゴゴゴ……

究極悟飯「はあああああ!!!」ズオオ

大猿ブロリー「があああああ!!!」ブウン

悟空SSGSS 「っ!? かめはめっ!!」【かめはめ波】

究極悟飯 「か〜! め〜! は〜! め…!」【かめはめ波】

大猿ブロリー 「ウオオオオオオ!!」ズオオツ

悟空SSGSS & 究極悟飯 『波ああああ!!!』ズオオツ

ブロリーの気功波と悟空、悟飯のかめはめ波がぶつかり合った。

28話 幻想郷最大の危機

孫一家のかめはめ波とブロリーのプレスがぶつかり合い、悟空達が押しきり大爆発を起こした。大猿ブロリーは傷だらけながらもピンピンしていた。

大猿ブロリー「ぐううううう…」ググググ…

ブロリーの体は光を放ちながらどんどん元の大きさに戻っていった。

悟空SSSSS「……………え？何で…」

大猿から元の大きさに戻るには1700万ゼノ以上の球（月）を破壊するか、尻尾を切り落とさなければならなかった。月はまだあるので大猿の姿から元の大きさに戻る筈がなかったのだ。

ただ元に戻ったならまだ良かったものの、黒髪に赤い体毛と明らかにあの変身…超サ

イヤ人4に変身したブロリーが其所にいた。

究極悟飯「これって…結構まずいですよね…」

悟空SSGSS「ああ…オウが全力出さなきや負けつぞ」

霊夢「嘘…それ程の奴なの？ブロリーって…」

悟空SSGSS「やるしかねえか…20倍界王拳だああ!!」ギヤウツ

悟空SSGSS20倍界王拳（これでも勝てるか微妙だな…でも）

悟空SSGSS20倍界王拳「やるしかねえつ!!!来いっブロリー!!!」

ブロリーSS4「カカロット…カカロットおおおおお!!!」ズオオツ

悟空SSGSS20倍界王拳「だりやああああ!!!」ドウツ

ブロリーSS4「があああああ!!」ドゴツ

悟空とブロリーは激しい攻防を繰り広げられた。

ブロリーSS4「でやあっ!!」ズン

悟空SSGSS20倍界王拳「ぐはっ！」

究極悟飯「お、お父さん!!」

ブロリーSS4「うおらっ!!」ドガツ

悟空SSGSS20倍界王拳「うわああああ!!!」ズガアアアアン シユウ

悟空は受けたダメージによって元に戻ってしまった：

悟空「ははは……こいつはやべえな……」

究極悟飯「お父さん!!大丈夫ですか!?!」

悟空「ああ……一応な」

究極悟飯「僕も一緒に……」

ピッコロ「駄目だ……」

ベジータ「悟飯……貴様のその力でもブルーレベルだろう……?それを上回るカカロットでもやばいと思っっているんだ……邪魔をするだけだ」

悟空「……せーのつよっころ……せ!つと」ピヨン

悟空「スウー……ハアア……」

霊夢「…………え？深呼吸？」

悟空は突然深呼吸を始めた。霊夢や魔理沙は予想外の出来事だった。

悟空「ふう…」ズドオ

悟空身勝手の極意〃兆〃「……………」オオオオオオオオオオ…

ブロリーSS4「…？何なんだあ？貴様あ！」

ブロリーはそのまま悟空に突っ込んでいった。そしてブロリーのパンチが悟空に触れそうになった時、其所に悟空はいなかった…

ズン！

ブロリーSS4「!?」

ブロリーは悟空に攻撃出来ず、逆に反撃された。ブロリーは何が起きたか理解出来ていなかった。

ブロリーSS4「カカロツトオオオオオオオオ!!!」ボオオオ!

悟空身勝手の極意 〃兆〃 「はあっ!!」カツ

悟空身勝手の極意「……………」シユウ

霊夢「銀髪…? 神々しいわね…」

魔理沙「……………つてか熱すぎるぜ……………」

悟空が身勝手の極意を発動させると熱風も発生させていた。それは周りに結構大きな被害が出ていた。

悟空身勝手の極意「うおおおおお!!!」

ブロリーSS4「カカロットオオオオオオ!!!」

ドガアン!!ドガツ!ドゴツ!ズドオ!

悟空はブロリーの攻撃を全て避け反撃もした。ブロリーは決定的な攻撃を与える事が出来ず、怒りが溜まっていた。

ブロリーSS4「ぐううううう!!!があああああ!!!」ブウン

ブロリーの髪や体毛が紅色に変わり始めた。それは、ある世界で悟空が皆のサイヤパワーを貰って変身した超フルパワーサイヤ人4を限界突破した変身だった。

ブロリー超フルパワーサイヤ人4限界突破「フハハハハ!」

悟空身勝手の極意「……ちよつと厳しいか…?」

ブロリー「逃がすつもりはないと思うんだな！」

ベジータ「……チツ……おいカカロット！ あれ、使うぞ」

悟空「わかった……ベジータ」シユウ

悟空は唐突に身勝手の極意を解除した。

ブロリー「諦めた様だな!!」ギユピギユピギユピギユピ

悟空「別に諦めるつもりはねえさ……」シユン

悟空はベジータの場所に瞬間移動し、ある物を受け取った。

カッ!!

そして悟空とベジータは引き寄せられ、中から一人の男が飛び出してきた。

ブロリー「何い？」

??? 『よっしやあああ!!!』グツ

ブロリー「……誰だあ？ 貴様」

悟空が着ていた山吹色の道着やベジータのジャケットのようなものにベジータの布袋やブーツを履いた一人の戦士が誕生した。両耳には界王神が普段付けているポタラがありフュージョンで生まれたゴジータに少しだけ違った髪形が特徴だった。その者の名は…

??? 『俺か？…俺はベジータとカカロットが合体して…ベジット』

ベジット『そして…これが…ベジット…！ブルー!!!』ドウツ

ベジットSSSSSS『はあああああああ!!!』

究極悟飯「と、とてつもない気の嵐だ…！」

ベジットSSSS『さあ、決着をつけようぜ！』

ブロリー「カカロット…！ベジータ！」ドン

ブロリーは地面を蹴り、ベジットに先制攻撃をしようとした…が

ベジットSSSS『よつと』ヒョイ

ベジットはブロリーの攻撃をいなしていた。

ベジットSSSS『へっへー』ニヤ

ブロリー「があああああ!!!」ドウツ

ブロリーは周りの建物を吹っ飛ばしながら襲い掛かった。

ベジットSSGSS 『おら!』ブン

ベジットは右フックを仕掛けるも…

ブロリー「ぐううう!!」

ブロリーはベジットの攻撃に耐えた。

ベジットSSGSS 『…確か、界王神様が俺のとおきのおきの必殺技に耐えられる様改良してくれてたんだったよな…』ブツブツ

ベジットSSGSS 『…試してみつか…!』スツ

ピッコロ「…何をするつもりだ?」

ベジットSSSS『界王拳…10倍だ!!!』ギャウツ

究極悟飯「す、すごい…!」

ピッコロ「これなら奴を倒せるかもしれんぞ!!」

魔理沙「頑張ってくれなんだぜ〜!」

ブロリー「カカロットオオオオオオオ!!!」

ベジットSSSS10倍界王拳『覚悟しろよ…ブロリー!!』ガツ

ベジットは戦闘態勢をとつたため、ブロリーと衝突するかと思われた。

ベジットSSSS10倍界王拳『悟飯!』

究極悟飯「はいっ!!」

ベジットSSGSS10倍界王拳『お前達は気を溜めて、自分のフルパワーを一撃に込めろ!!』

究極悟飯「わかりました!!」

魔理沙「私も手伝わせてもらおうぜ！」

ピッコロ「仕方ないな…」スツ

オレンジピッコロ「よし…やるか！」バツ

魔理沙「私は気を溜める事は出来ないけど八卦炉に最大火力の魔力を込める事は出来るぜ！」ブウン

パチュリー「私の魔力も魔理沙の八卦炉に込めさせてもらおうわ」

魔理沙「パチュリー!？」

アリス「私もいるわよ」

幻想郷の主な魔法使い達が魔理沙の八卦炉に魔力を込め、火力がどんどん上がっていった。

究極悟飯「はあああああ!!!」ズドドドドド

オレンジピッコロ「かあああああ!!!」ズオオオオオオオオオ

ベジットSSGSS10倍界王拳『こっちだ!!』ポウ

ブロリー「ぬううう!!」ズガアアアアン

ブロリー「楽にしてやる」【ギガンティックミーティア】

ベジットSSGSS10倍界王拳『させねえよ!』【スピリッツソード】

ブロリーとベジットは互角の闘いをしていた。

ベジットSSGSS10倍界王拳『良いもんやるよ!!』【フィンガーボム】

ブロリー「舐めるなあっ!!」バチッ

ベジットSSGSS10倍界王拳『まだまだこれからだ!!』【キャノンブローコンビ
ネーション】

ブロリー「でやっ!」【ギガンティックオメガ】

ベジットSSGSS10倍界王拳『つしやあああっ!!』【ゴッドファイニッシュ】

ブロリー「がああああっ!!!」【ギガンティックブレス】

お互い技をぶつけ合い一歩も引かない闘いを繰り広げている中、他の者達は…

美鈴「私も少しは役に立たないと…！」

美鈴は悟飯達と同じ様に気を溜め…

霊夢「早苗！あんたも力溜めておきなさい！！」

早苗「言われなくてもわかってますよ〜！」

霊夢達巫女は霊力を溜め…

そして妖怪は妖力を溜めだした。

カッ
魔理沙「私だけだったら八卦炉の魔力限界値を突破する事が出来なかったぜ…」ピ

究極悟飯「…あの、ピッコロ…さん。これ…って何処まで溜めればいいんで…しょう

か？」ズオオ

オレンジピッコロ「まだ溜め続ける」ズドオ

ベジットSSSS10倍界王拳『これでも食らえ！ビッグバンアタック！』
「ビッグ・バン・アタック」

ブロリー「でやあああ!!」
「ギガンティックオメガストーム」

かれこれ30分は闘い続けているのでベジットの制限時間も後半分になってしまっ
た。

魔理沙「私の八卦炉も流石に悲鳴をあげてきたぜ…」

パチュリー「この八卦炉の最大許容範囲を大幅に超えてしまっているからね…無理
もないわ」

霊夢「私もそろそろ疲れてきたわ……」

周りの妖怪達も悲鳴をとうとうあげ始めた

究極悟飯「皆さーん!!もうちよつと……もう、ちよつとだけ耐えてください!!」ズオオツ

ベジットSSGSS10倍界王拳（後……少しもつてくれよ……皆……）

ブロリー「があああああっ!!!」ポーヒー

ベジットSSGSS10倍界王拳（よしっ!!）シャツ

ベジットはブロリーの隙をつき、懐まで移動した。

ブロリー「ぬおおっ!？」

ベジットSSGSS10倍界王拳『おらああああっ!!』ドガツ

ベジットSSGSS10倍界王拳『はあああああああ!!!』ドウツ

ベジットSSGSS20倍界王拳『今だあああつ!!』

ベジットの合図と共に…

究極悟飯「かゝ…！めゝ…!!はゝ…!!!めゝ…!!!」【究極爆裂かめはめ波】

オレンジピッコロ「激烈光弾!!」【激烈光弾】

魔理沙「ファイナルマスタースパーク!!!」【魔砲「ファイナルマスタースパーク」フルパワー】

霊夢「夢符「封魔陣」!!!」【夢符「封魔陣」最大出力】

究極悟飯「波あああああ!!!」ズドオオオオオオオオオオ!!!

ベジツトを除く、ブロリーに敵対する全ての妖怪や妖精、人間達が本気の一撃をぶつけた。そして…

ベジツトSSSSSS20倍界王拳『お前に俺のとおきのおきの必殺技を見せてやるぜ!!』ズオオ

ベジツトSSSSSS20倍界王拳『いつもの20倍の威力だ!』【20倍ゴッドファイナルかめはめ波】

ベジツトは両手を大きく広げ、右手からは紫色の気弾…左手からは黄色の気弾が現れて、それを合わせた。悟空のかめはめ波とベジータのファイナルフラッシュが合わさった必殺技だが、更に界王拳で赤くなっていた。

ベジツトSSSSSS20倍界王拳『ゴッド…!ファイナル…!!』バチバチツ

ブロリー「ぐおおおおあああ!!!」

ブルリーは抵抗しようとするも皆の渾身の力を込めた一撃を受けている為、何も出来なかった。

ブルリー「カカロットツ!?」

ブルリーはこの時、ベジットをカカロットやベジータのように見えた。

ベジットSSGSS20倍界王拳『かめはめ波あああああ!!!』ズドオオオオオ!!!

ブルリー「ぬあああああ!!!」

ブルリーはベジットのファイナルかめはめ波に押さえていった。……がこのままでは博麗大結界を木っ端微塵に破壊してしまう威力があった。

ベジットSSGSS20倍界王拳『紫っ!!』

紫「わかってるわ」ズズズ：

紫はスキマを広げ：

紫「もう地獄に繋がれたから貴方はもう此処へは絶対に来れないわよ…」

ブロリー「ぐおおおおお!!」ズオオオオオオオ

紫「さようなら」

紫が言ったタイミングでベジツトが：

ベジツトSSSSSS20倍界王拳『波あああああ!!』ズドオツ

トドメと言わんばかりの力で押し出した。

ブロリー「カカロツ…トオオオオオオオオ!!!」

そしてブロリーは幻想郷から姿を消した。

29話 ドラゴンボール

ベジット『……終わったか？』バシユウ……

ベジットは、まだブロリーがいるか警戒していた。

悟飯「もうブロリーの気も感じないので大丈夫だと思いますが……」

ベジット『それもそうだな……しかし、こりやひでえな』

霊夢「人里がめちやくちやね……」

幻想郷の人里は、ブロリーとの戦闘により崩壊し原型を留めていなかった。

魔理沙「完全に元通りになるには何年かかるんだぜ……？」

ピッコロ「少なくとも何十年はかかるだろうな…」

霊夢「……」サー

ピッコロの発言で霊夢の顔色が真っ青になっていた

ベジット『…なあピッコロ、ドラゴン』ポン！

悟空「ありや？」

ベジットは1時間したら合体が融ける筈だったのだが1時間も経たずに融けてしまった。

ベジータ「まさか界王拳を無理やり限界以上に使ったからか？」

ピッコロ「…それしかないだろ」

ベジータは結論に至り、ピッコロは静かにツツコミをいれた、

悟空「ま、いつか！」

霊夢「そんなことより、これどうすんのよ…」

レミリア「そういうえば、貴方達何を言おうとしてたのかしら」

レミリアはベジットの合体が融ける寸前の事を聞いた。

悟空「ん〜？え〜つと…何だっけ？…あつ、そうだ！ドラゴンボールを使ったら元通りになるぞ!!」

悟空は戻った弾みで忘れていたようだった。

霊夢「…ええ？」

ピッコロ「ドラゴンボールだ…どんな願いも3つ叶う」

霊夢「どんな……!!」

魔理沙「……願いもっ!」

悟空「なあ、紫!ドラゴンボール持ってきてくんねえかなあ!!」

紫「えっ!?!……まあいいけど」

そして待つこと数分

紫「持ってきたわよ」コロコロ

ベジータ「……おいカカロット」

悟空「なんだ?ベジータ」

ベジータはある違和感に気付いたようだったが、悟空は微塵も感じてはいないようだった。

ベジータ「はあ……ピッコロはわかったか？」

ピッコロ「ああ……妙な違和感を感じる」

魔理沙「へーこれがドラゴンボールなのか……ひびがあるんだな」

ベジータ「……何だと？」

確かに魔理沙の言うとおり、ドラゴンボールにひびが入っていた。

悟空「んー、大丈夫じゃねえんか？」

ベジータ「貴様はひびの入ったドラゴンボールを使った事があるとしても言うのか!!」

悟空「……………ありや？何か変だぞ？」

悟空はいつも神龍が出現する筈が見た目が違い、首を傾げていた。

ベジータ「……………何だ？こいつは」

霊夢「こいつがその神龍…？」

ピッコロ「いや……………わからん」

「フハハハハハ——！お前らよく呼び出してくれたな」

悟飯「…………へ？」

悟飯は思っていたセリフと全く違っていたので戸惑いを隠せていなかった

!!
「外の空気というのは実に美味しい…生き返るようだ！これで思う存分暴れられるぞ!!」

悟空「なあ神龍！いつもだったら「どんな願いも叶えてやる」とか言うのにどうしたんだ?？」

「ウン？ウハハハハハハ——!!!もうお前たち人間などの言うとりにはならん…」

黒煙の龍は何処からか取り出した葉巻を口に咥え、更に何処からか取り出したオイルライターで吸っていた。

霊夢「何よそれ!!」

黒煙の龍「ウハハハッ!!ウハハハハハッ!!」

黒煙の龍「フン……フウ——」

黒煙の龍は悟空達に向かって煙を吐き出した

悟空「げっほげほ!!」

ベジータ「こいつっ!!何しやがる!」

すると突然ドラゴンボールが浮上し、黒煙の龍の周りに集まった。

ピッコロ「おい!!ドラゴンボールをどうする気だ!!」

黒煙の龍はピッコロの問いに答えるような仕草をし、

黒煙の龍「スウ——ゴクン!!!フフフフ…」

そのままドラゴンボールを飲み込んだ。

悟空「いいっ!?!」

ベジータ「何だどっ!?!」

黒煙の龍の目が赤く光り、取り巻く黒煙が渦を巻き、そして六体の尾龍〔黒龍〕がそれぞれドラゴンボールを啜え幻想郷中に飛び散った。残る黒煙の龍本体も笑いながら

空の彼方に飛び去っていった。

あまりにも突然の出来事に悟空達は固まっていた。

悟飯「……………はっ!？」

悟飯は間抜けな声を出していた。

魔理沙「……………え？何が何だかさっぱりなんだぜ」

悟空「ドラゴンボールは……………集めるか…?」

誰もよく理解出来ず、混乱していた。その時……………

ズドオオオオオオオオオオオオン!!

何か落下したような音が辺り一面に響いた。

悟空&ベジータ&悟飯&ピッコロ『?!』

霊夢「何よこの音」

魔理沙「家が崩れたのか？」

美鈴はある強大な力を感じとってしまった。

美鈴「……………」

咲夜「どうかしたのかしら？美鈴」

美鈴「……………はい。それが…」

「ぶるあああああああああああああ
!!!!」ズドオツ

美鈴が話そうとした瞬間、雄叫びのようなものが響き渡った。

悟飯「はっ!!」ボウツ

究極悟飯「……クツ！」

ピッコロ「うおおお!!」ボン

オレンジピッコロ「まずいぞ……」

悟空「一体何の気なんだ…?」

究極悟飯「おそらく……」

オレンジピッコロ「っ!! 来るぞ!!」

オレンジピッコロの合図と共に元凶が目視で出来る程度まで近づいてきた。

ヒューーーーーー

ベジータ「あれは…デカイセルか!？」

悟空「うひゃー! でっけーな〜!!」

悟飯とピッコロは敵対心を全快にし、悟空とベジータはセルの大きさに驚いていた。

霊夢「……あいつ片腕がないわね」

オレンジピッコロ「良かった…弱体化しているあいつなら勝てるかもしれんぞ!」

究極悟飯「そうですね……お父さんにベジータさん、奴はセルマックスつてやつです。いままでのどんな敵より強いです」

究極悟飯「…だから、絶対気を抜かないでください」

セルマックスの強さを念入りに伝えた悟飯は構えをとつた

ベジータ「やってやる…」カッ

ベジータSSGSS「スクラップにしてやるよ」ゴオオオオ

セルマックス「ぶるああああああああああ
!!!!」ズドオツ!

悟空「はっ!!!」ポウッ

悟空SSSS「オラ…ワクワクしてきたぞ！」

30話 最凶の人造人間 セルマックス

！
究極悟飯「気を付けてください!!! 奴は頭のとっぺん以外はほぼダメージが通りません
！」

!!
悟空SSSSS「わかった! 悟飯は気を溜めて、渾身の一撃をあいつにぶつけてくれ
！」

究極悟飯「はい!!」

な
ベジータSSSSS「奴の腕が直らないのか…フツありがたいぜ再生しないんだから
！」

ベジータはそれを確信し笑っていた

オレンジピッコロ「うおおおおお!!!」グググ…

オレンジピッコロは力を込めて、どんどん巨大になっていった。

巨大オレンジピッコロ「だが、油断するなよ…奴は恐らく一番強い敵だ」

悟空SSGSS「ああ…だからワクワクしてんだ」

セルマックス「がああああああ!!!」

霊夢「うっさいわね…」

セルマックスは雄叫びをあげ、霊夢は顔をひきつった。

レミリア「咲夜、あの人達の援護をしてきてちょうだい」

咲夜「お嬢様は…?」

レミリア「恐らく闘っても私に勝ち目はないわ」

レミリアは悔しそうに、残念そうに言った。

咲夜「ん？妹様の能力なら……」

フラン「さつきからずーっとやってるのに何にも起きないの……本当にイライラしてくる!!破壊出来ないなんて」ギユ

美鈴「パチュリー様は何を？」

パチュリー「何かの魔法が効いたらそれで助けになれないかと思っただけど今のところ全部効果なしね」ブウン

パチュリーはそう言い放ちながら魔法を片っ端から打った

悟空SSSSS「だりやあああああ!!!」ブン!

セルマックス「ぐううううう!!!」ガキン!

悟空SSSSS「くっそ〜!硬え〜!!」

悟空はセルマックスの頭部に攻撃しようとするも、セルマックスの頑丈な右腕に防がれてしまった。

ベジータSSSSS「ファイナルフラッシュユ!!」【ファイナルフラッシュユ】ズオツ

セルマックス「ぶらああああ!!!」バシン!ズガアアアアン!!!

ベジータSSSSS「チツ…クソつたれが…!!!」

ベジータは自分の必殺技を簡単に弾かれたので怒りを吐きすてた。

巨大オレンジピッコロ「うおおおお!!!」ズシンズシンズシン

巨大オレンジピッコロ「だああああ!!!」ブオン

セルマックス「ぐおおおお!!!」ドガツ!

端から見ると、ピッコロがセルマックスにダメージを与える事が出来たように感じた。だが、ピッコロだけはそれでもダメージが入ってないことに気付いていた。

巨大オレンジピッコロ（やはり、前と同じような事になりそうだな…すまん、悟飯）

セルマックス「ぶらああああ!!!」ドン! ドガツ!

巨大オレンジピッコロ「ぐふおああ!!!」ズガアアアアン!!!

セルマックスはピッコロに体当たりをしたあと、尻尾で殴りつけた。殴りつけられたピッコロは宙に舞い、大きな岩に激突した。

究極悟飯「ピ、ピッコロさんっ!!!」ザッ

巨大オレンジピッコロ「悟飯っ!!!絶対に来るな!!!」

究極悟飯「ぐっ!」

巨大オレンジピッコロ「俺が…俺達が必ずあのクソつたれを止めてみせるっ!!!だから…集中して気を溜めろ!」

究極悟飯「わかりました…!」

悟飯はピッコロ達に加勢しようとしたが、ピッコロの説得によりまた気を溜め始めた。

悟空SSGSS「かーめーはーめー!!!」【かめはめ波】

セルマックス「ぐるあああああ!!!」ブオン

悟空SSGSS「波あああああ!!!」ズドオツ!!!

セルマックス「ぶあああああ!!!」ブン

悟空SSGSS「くっ！押されちまう…!!!」

悟空SSGSS「やべっ!!」

悟空とセルマックスの力がぶつかり合うと、そのまま悟空の方へ向かった。そして、
当たると寸前で…

咲夜「時よ…止まれっ!!」カチッ

咲夜「そして、時は動きだす…」カチツ

時を止めた咲夜は悟空を安全な場所に置いてから、時間停止を解除した。

セルマックス(?!?) キョロキョロ

セルマックスは攻撃していた位置に悟空が消えたので驚き混乱し周りを見渡していた。

ベジータSSSS「此方だ!!このゴミクズやろうが!!!」

セルマックス「ぶるああああ!!!」

セルマックスはベジータに罵倒されたことに激怒した。

悟空SSSS「……………ありや?何ともねえ…」

咲夜 「お体の方は大丈夫でしょうか。悟空様」

悟空 S S G S S 「ん？咲夜がオラを助けてくれたんか？…サンキューー！じゃ、また行ってくる」

悟空は咲夜に礼を言い、またセルマックスの方へ飛んでいった。

巨大オレンジピッコロ 「でやっ!!」 ガコツ！

セルマックス 「ぐるるううう!!」 バチン！

巨大オレンジピッコロ (クソ…：…これだけやってまだ何ともないってのか?)

ピッコロはセルマックスとの戦闘により、だいぶ疲弊していた。

悟空 S S G S S 「界王拳！20倍だああああ!!」 ギャウウツ

ベジータSSSSS「かああああ!!!だああああああ!!!」ズドオツ

悟空SSSSS20倍界王拳「へへっ」

ベジータSSSSS・進化「俺は簡単にはやられんぞ」ガツ!

巨大オレンジピッコロ「いくぞ!!」

セルマックス「ぶるあああああ!」

幻想郷を護る者達対最凶の人造人間との闘いは続く…

31話 目覚めし獣、再び

霊夢「私達ってほぼ空気になってない？」

魔理沙「それについては何も言うことがないぜ…」

レミリア「言っちゃだめよ」

霊夢がとうとうメタ発言をするようになった。……まあその話は置いて、悟空達はセルマックスに波状攻撃をするも、効果はまるでなかった。

ベジータSSSSS・進化「はあ……はあ……チツどうなつていやがる…」

悟空SSSSS20倍界王拳「オラ達の攻撃をまともにくらって、まだ余裕そうじゃねえか…」シユン

悟空SSSS「……あ」

巨大オレンジピッコロ「まずいぞ…これは」

とうとう、悟空の界王拳の時間制限が切れてしまったようだった。

ベジータSSSS「でやあああああ!!!」ドウツ

巨大オレンジピッコロ「おい!!元のブルーに戻っているぞベジータ!!」

ベジータはお構い無しに突っ込んでいった。

セルマックス「ぶらあああ!!!」ドガアアアツ

ベジータSSSS「……がっ!？」

セルマックス「ぶらあああ!!」バチン!ズガアアアアン!!!

ベジータ「……クソつたれめ……」ガクツ……ドサツ

ベジータはセルマックスの強烈な一撃により、ダウンしてしまった。

悟空SSGSS「ベジータあああ!!! だりやあああ!!!」バヒューン

巨大オレンジピッコロ「やめろバカツ!!!」

悟空はピッコロの静止を振り切り、セルマックスに挑んだ

セルマックス「がああああ!!!」ガツン!!!

悟空SSGSS「ぐふっ!?!」

セルマックスは自身の尻尾で悟空の身体を叩き上げ……

セルマックス「ぶるああああ!!」ベチン!! ドゴオオオオン!!!

宙に舞った悟空を右手で地面に叩きつけた。

悟空「はあ……はあ……はあ……はあ……はあ……」フラフラ

悟空はベジータのように倒れはしなかったが超サイヤ人になれる程の力は残って
なかつた

霊夢「悟空さん達を助けなきや……!」バツ

魔理沙「やめろ霊夢!!!お前も奴にやられるぜ!!!」

早苗「しかも霊夢さん、貴女はただの人間ですよ!?人間の身体であいつの攻撃でもく
らったら、ひとたまりもありません!!!」

霊夢「じゃあ、此処に住む私達は何もしないで、外来人である悟空さん達に全て任せ

るって言うの!?!ふざけるんじゃないわよ!これでも博麗の巫女の力舐めないで欲しいわ!」

そうして霊夢は悟空達の元へと飛んでいった。

魔理沙「……やれるだけやってやるぜ!!」

美鈴「これでも私だって気を扱えるんです!!悟空さんとまではいかないかと思いますが、やれる時はやるってとこ見せてやります!」

妖夢「私も悟空さんに助けられた身です。手伝い位には頑張るつもりです!」

レミリア「紅魔館の主ともあろう者が此処でうじうじしている暇はないわ!」

そして悟空達の闘いを見ていた幻想郷の強者達が立ち上がった。

霊夢「皆!!行くわよ!!!」バツ

『おお〜!!!』

巨大オレンジピッコロ「:!!あいつら!」

巨大オレンジピッコロ（もしかして、何か作戦でも出来たのか!!）

ピッコロは驚愕し、凄いと感嘆としていたが

セルマックス「ぶらっ!!」バシッ

『うわあ〜!!!』ヒューーーン

巨大オレンジピッコロ「あっ……あっ……あっ……あっ……!？」

ピッコロはポカーンと口を開けていた

セルマックス「ぐああ……？」

セルマックスも若干困惑しているのが誰が見てもわかる程だった。

巨大オレンジピッコロ「…アホかつ!!! 作戦の1つもなく突撃しに行ったのか!?!」
ギャーギャー

ピッコロはセルマックスを余所に説教を開始した。

魔理沙「だって霊夢が……」

霊夢「ちよっ!?! 私のせいにする!?!」

巨大オレンジピッコロ「言い訳などいらん!!! ったく……」

究極悟飯「ちよっ……!?! ピッコロさん!?!」

悟飯の集中が切れるのも当然だった。

巨大オレンジピッコロ「はっ!? 忘れていた……悟飯はまた気を溜め直せ!」

究極悟飯「ピッコロさんはどうするんですか!?!」

巨大オレンジピッコロ「俺はどうかしてあのくそつたれを何とかする!!! 其処にかめはめ波でも何でもいいからそれを放て!! 遠慮はするな! わかったか!!!」

究極悟飯「はいっ!!!」

巨大オレンジピッコロ「さてと……此処からが本当の闘いだ……」 スツ

ピッコロは戦闘体制をとったあと、足に力を込めた。

セルマックス「がああああ!!」

巨大オレンジピツコロ「うおおおおお!!!」ズンツズンツズンツ

セルマックス「ぶるああああ!!!」ズンツズンツズンツ

お互いに走りだし、次の瞬間

ドゴオオツ!!!

巨大オレンジピツコロ「ぐほおっ!!」

セルマックス「ぶらああっ!!!」

お互いの強烈なパンチがお互いの顔にめり込んだ。だが、セルマックスはすぐに次の攻撃に移った。尻尾で殴りつけたり肘や膝を使った攻撃にと、攻撃を休むことはなかった

巨大オレンジピッコロ「ぐはっ!!…ぐはっ!!…ぐあっ!!」

究極悟飯「ピッコロさん!!!」

巨大オレンジピッコロ「ま、待て…俺が…必ず奴の…動きを止めて…みせる…!!」
そう言うも、既にピッコロの身体はズタボロでフラフラしながらもセルマックスに挑んでいた

セルマックス「ぶらああああ!!」ガシツ ブン

究極悟飯「や、やめろ…!!」

ズドドドドドドドドドドドドドドドドドドドド

セルマックスはピッコロを上空に投げ、手から気弾を打ち続けた。ピッコロは重力によりどんどん落ちてゆき、セルマックスが持ち上げているような感じで止まった。

セルマックス「ニイ」ブウン

セルマックスはニヤリと笑うと手から不穏な光を発し始めた。ピツコロは力が抜けたようにぐったりと沈んだ

プツン…

その時、悟飯の中で何かが切れたような音がした。

究極悟飯「うわああああああああ!!!」ズドオツ

悟飯が叫ぶと、強風が吹き荒れ紫電が悟飯の周りに発生した。それはアルティメットを超えた、最早獣のような姿をしていた。目は黒から赤へと変わり、髪も白く逆立っていた。

悟飯ビースト「……………」スツ

セルマックス「……!?ぶらああああ!!!」ドンッ ビュオオッ

悟飯ビーストがセルマックスの方を見ると、セルマックスは怯んだ。そしてピツコロを無造作に投げ捨て、右の拳を突き出した。その拳は悟飯に当たったものの、後ろで強風を起こすだけだった。

悟飯ビースト「この程度か……今度は僕の番だ……」スッ

悟飯は小さく眩きながらセルマックスの拳を押しした。

悟飯ビースト「はっ!!」ズンッ

セルマックス「ぶらああっ!!」ズガアアアアアア

押した瞬間、悟飯はセルマックスの懐に入り飛び蹴りをくらわせた。セルマックスはそのまま大きな岩に叩きつけられた。

悟飯ビースト「ふっ」ニヤ

悟飯はにやけるも、

セルマックス「ぶるあ!？」ガシッ

巨大オレンジピッコロ「悟飯!!」

悟飯ビースト「はっ!」

ピッコロの声かけにより、しなければいけないことを思い出した。

悟飯ビースト「……」スッ バチバチバチ

悟飯は額に指をかざすと、指先に気を溜め始めた。悟飯の周りは風が吹き荒れ雷が鳴った。セルマックスは必死に抵抗するが、

巨大オレンジピッコロ「おとなしく…してろっ!!!」グイッ

ピッコロに引つ張りあげられた。

悟飯ビースト「魔貫光殺砲!!」ビッ ズドオッ

悟飯の魔貫光殺砲はセルマックスの頭のとっぺんを貫通した。セルマックスは重力に沿って落ちていった。

巨大オレンジピッコロ「悟空!!! 霊夢!!! さっさと離れろ! 爆発するぞ!!!」
ヒューーーーーーン

魔理沙「急げ!!!」

ズガアアアアアン!!

悟空「ひゃー！危なかつたなー」

ピッコロは他の者に警告しながらセルマックスから離れたセルマックスが不自然に膨らみ、大爆発を起こした。人里は甚大な被害を受けたものの、死者0名という奇跡的な結果となった

32話 終わりなき混沌

悟飯ビースト「…大丈夫ですか？皆さん」

霊夢「……!?え、ええ此方は何とも…」

霊夢は獣のような姿の悟飯を見て動揺していた

魔理沙「ほえー……あんなに強かった怪物を一人で、しかも一撃で倒すとはな…すげえぜ」

オレンジピッコロ「悟空、ベジータ…仙豆だ」

悟空「おお、サンキュー！悟飯、おめえすげえなく!!」

悟空は悟飯の姿に目を輝かせていた。

悟飯「ふう…僕もこの姿については良く知らないですよね」

ピッコロ「まだ戦いは終わりではない」

ベジータ「…あの邪悪龍ってやつか」

紫「ちょっと申し訳ないのだけど…」

悟空「どうしたんだ？紫」

悟空達の会話に突然紫が割り込んだ

紫「悟飯さんとピッコロさんはもう元の時空に戻ってもらおうわ」

悟空&悟飯『…え？』

ベジータ&ピッコロ『何?』

紫「時間切れよ……1か月たってしまったわ」

悟空「そうなんか?」

悟飯「……あつ、忘れてました」

悟飯は数多くの戦いで、約束をすっかり忘れているようだった

ベジータ「時間制限付きでここに来ていたということか」

悟飯「本当は幻想郷の生態系やら色々見たかったんですけどね……」

紫「ここを潜れば元の時空へ帰れるわ」ブウン

紫はそう言いながらスキマを出した

悟飯「お父さん…後は任せました」

悟空「ああ…悟飯、おめえも元気だな」

悟飯「……!!はいっ！」

ピッコロ「……孫」

悟空「何だ？ピッコロ」

ピッコロ「負けるなよ？」ニヤ

悟空「わかってっさ」ニヤ

そして悟飯とピッコロはスキマに入り、元の時空に帰った

悟空「……さてと、ドラゴンボール集めつか！」

霊夢「でも…あの邪悪…龍？つてのを倒さなきゃいけないんでしょ？」

早苗「敵の強さがわからないと勝てるか微妙ですよ？」

魔理沙「でもやるしか方法はないんだぜ」

悟空「………で邪悪龍ってどこにいるんだ？」ズコツ

ベジータ「はあ…」

悟空の緊張感のない一言でベジータ達はすっこけた。

悟空「皆どうしたんだ？」

ベジータ「もういい…余計面倒くさい」

悟空「??？」

ベジータには呆れたが悟空は理解出来てなかった

美鈴「ちよつと失礼します」

悟空「何だ？美鈴」

美鈴「気で邪悪龍を見つけれるんじゃないでしょうか」

悟空「……………あつ」

ベジータ「なっ!?! 貴様、気付かなかったのか!?!」

ベジータは頭を抱えるしかなかった。

悟空「じゃあ、探しに行くとするっk」

??? 「その必要はない…」

??? 「わらわ達が此処で…」

??? 「孫悟空…貴様を」

??? 「倒してやる!!!」

頭や身体に青いドラゴンボールをくつつけた邪悪龍達が現れた

ベジータ「そろそろと出て来やがったな」

??? 「この最強の俺さm」

??? 「はっ?」

「はっ？」
「はっ？」

二星球をくつつけた邪悪龍が喋っている中、他の邪悪龍達が反応した。ちなみに、二星球の邪悪龍は二星龍である

「お前が最強？」

「『最弱』の間違いじゃねえか？」

「少なくとも、わらわが一番強いんじゃない？」

「何？」

「お前も違うだろ！」

邪悪龍同士で口論が起きだした。わらわが一人称の邪悪龍が六星龍、もぐらみたいな

見た目をしている七星龍、紫色のスライムを垂れ流しているのが五星龍である。

霊夢「……………どうしましょ」

『ギャーギャーギャーギャーギャー!!!』

魔理沙「私らのこと、完全に忘れてないか？」

ベジータ「……………チツ」ワナワナ

悟空「べ、ベジータ……………」

ベジータ「貴様ら、いい加減に……………」

ベジータSSSS「しやがれえええええ!!!」ドウツ

邪悪龍『!?!』バツ

ベジータの怒りがとうとう限界を越え、ブルーに変身してしまった。そして、それに驚いた邪悪龍達は一齐に振り返った。

ピッ

ベジータSSSS「!!」シャッ

ベジータは不意打ち気味の攻撃を避け、攻撃してきた方へ顔を上げた。

??? 「全く……さっさとトドメを刺せばいいものを…」

五星龍 「三星龍か…何の様だ」

三星龍 「いやいや、貴方達を助けてあげただけでしょう」

五星龍 「余計なお世話じゃ」

三星龍「何ですって？わざわざ助けてあげたというのに」

ベジータSSSSS「……………」

ベジータは怒る事をやめた。それほど、しようもなく感じていた。しかし、邪悪龍達は揉める事をやめなかった。

『ギャーギャーギャーギャー!!!』

悟空「……………」

それは悟空でさえ何も喋れない程だった。若干引いてさえいた。

霊夢「……………」

霊夢は引くというより、困惑気味でどうすればいいのかという感じであった。

魔理沙「……………」

魔理沙も霊夢と同様、何も言えなかった

ベジータSSGSS「……………カカロット」

悟空「??……………!!!」ドウツ

悟空はベジータの考えていることに気付き、ブルーに変身した

悟空SSGSS「ベジータ…」

ベジータSSGSS「ファイナル…!!!」【ファイナルフラッシュ】

悟空SSGSS「かめはめ…!!!」【かめはめ波】

悟空とベジータは静かに技を構えた。

ベジータSSSSS「フラーーツシュ!!!」ズドオツ

悟空SSSSS「波ーー!!!」ズドオツ

邪悪龍『ギャーギャー…えっ?』ドゴオオオオオン!!!

悟空とベジータの技をもろに受けた邪悪龍達はあっさりとやられた。そして、気功波が消えると浄化されたドラゴンボールが5個地面にあった。

霊夢「……………あっさりしすぎてないかしら」

魔理沙「全員同じような奴だったら簡単だと思うぜ」

悟空SSSSS「……………いや、こっからが本番かもしれねえな」

ベジータ「……来るぞ」

悟空とベジータは何者が近づいて来るのに気付いた。

レミリア「流石に私も戦うわ」

悟空「……!!レミリアとフランは離れてくれ」

フラン「えー？何でよ」

ベジータ「……!!パチュリー！今レミリア達に太陽の光は大丈夫なのか!!」

ベジータは今回の敵が吸血鬼にとっては最大の天敵ということが無意識に感じとつた。

パチュリー「一応、日焼け止めは塗ってあるけど……」

ベジータ「…とにかく!! 吸血鬼は此方に来るなっ!!! 死にたいなら来い」

レミリア「…フラン、離れましょ」

フラン「お姉さま!?!」

咲夜「お嬢様、妹様…こちらへ」

そうして、レミリアとフランは咲夜と共に悟空達から離れた

美鈴「あ……暑いです」

霊夢「まるで太陽が近づいてくるような感じね」

魔理沙「だからレミリア達は離れろって言ったのか」スタツ

??? 「お前が孫悟空だな」

悟空「……!?それって四星球か!!」

??? 「俺は四星龍。孫悟空…お前とは1対1がしたい」

悟空「ああ……オラも全力でいかせてもらうぜ！」

悟空は四星龍とのタイマンを始めようとしていた。

悟空「はあああああ!!!」ゴゴゴゴゴ

悟空SSGS「そーいやおめえ、他の奴と違って卑怯な事はしてこねえんだな」スツ

四星龍「俺は正々堂々と戦うのが俺のやり方だ」スツ

お互いに構えをとり、様子を見た。

悟空SSSS 「だりやあああ!!!」 ドン

四星龍 「うおおおお!!!」 ドン

そして、お互いに地面を蹴り拳をくり出した。

33話 灼熱の魂

悟空と四星龍が戦い始めてからおおよそ20分が経とうとしていた。お互いの力はほぼ互角であり、なかなか決め手になるような一撃を相手に与える事が出来ずにいた。瞬間移動やバリアを駆使し、お互いに打撃や気弾を相殺し技の打ち合いにまで発展した。お互いに肘や膝をぶつけ攻防を繰り返したり、自身の必殺技もバリアや瞬間移動で対処していた。その戦いを見ることが出来たのは幻想郷に住む者でも少数であった

早苗「速すぎて見えないですよ〜!!!」 ダアン!! ダアン!! ダアン!!

悟空と四星龍の戦いが見えない者の視点では衝撃波が相次いで起きていくことぐらいだった。戦っている音は聞こえるが見えないのでもどかしい気持ちになっている者も多少なりといた。

魔理沙「霊夢は見えているのか？」

霊夢「……!?え、ええ…:勿論よ!」

霊夢（本当は全つ然見えないなんて絶対に口が裂けても言えないわ…）

知ったかぶる者もいた。

霊夢「そういう魔理沙こそ見えるのかしら?」ガチガチニコニコ

魔理沙「……!?み、見えてるぜ!?勿論」

魔理沙（言っちゃったく!!!本当は見えないのについ意地になって言ってしまったぜ…:バレたら…:「あんたつてこの程度のスピードも見えない訳? ニヤニヤ」つて感じになりそうだぜ…:何があっても霊夢にはバレる訳にはいかないのぜ!!）

霊夢「…!?そ、そうなのね…:」

霊夢（うっそ…:魔理沙にはあんなとてつもないスピードも見える訳!?ヤバい…:もし私

が本当は見えないことを魔理沙が知ったら……「やっぱり霊夢にはこの戦いにはついていけなかったのか……やれやれだぜ ニヤニヤ」ってなるじゃないの……何としてでもバレル訳にはいかないわね」

自身のプライドに嫌気が刺す者もいた……そして

さとり（……私がいること忘れてません!?）

あまりにも本音ベラベラ喋るので自身の存在を忘れてないかと覚妖怪が戸惑うこともあった

ベジータ「チツ、あいつらめ……楽しんでやがる」

ベジータはイライラしながらも戦いを観戦していた

悟空SSGSS「おめえ、随分とつええや！」ガッ

四星龍「お前とこうして戦っているのも、楽しいぞ」ゴッ

悟空と四星龍は会話しながら戦いを続けていた

四星龍「孫悟空…お前は本当に限界フルパワーで俺と戦っているのか？」ガシッ

悟空SSGSS「…!?!」

四星龍「もしそうならお前の本気を見せてくれ…お前に手を抜かれたまま勝ちたくはないからな」

四星龍は悟空が力を隠していることに気付いていたようだった。

悟空SSGSS「後悔しても知らねえぞ？」ブウン

悟空がそう言い放つと赤いオーラを纏いだした。悟空の気は爆発的に上昇していた。

悟空SSSS「界王拳！20バエだあああああ!!!」ギャウウツ

四星龍「ぐおっ!?」ビュオオツ

悟空SSSS20倍界王拳「いくぞっ!!!四星龍!!!」ドン!!!

四星龍「ぐおっ!!!」ドゴオツ

四星龍（此処まで実力とはな…孫悟空よ）キツ

四星龍は自分よりも強い孫悟空に悔しい思いを持ちながらも、その実力を認めた。その顔は嬉しそうで悲しく、負けないという意志を持っていることがわかる程だった。

四星龍「…だが、負ける訳にはいかない!!!」〔フレイムショット〕

悟空SSGSS20倍界王拳「オラだつて負けねえぞ!!!」〔20倍ゴッドかめはめ波〕

四星龍「確かに俺の方がお前よりパワーも実力も上かもしれないや、実際には遥か上だな：しかし俺にだつて邪悪龍のプライドというものがある!!だから何としても勝たせてもらうぞ!!孫悟空!!!」〔バーストアタック〕

悟空SSGSS20倍界王拳「来い!!」

四星龍「うおおおおお!!!」ズドオツ

悟空SSGSS20倍界王拳「はああああ!!!」ギャウウツ

そして悟空と四星龍はフルパワーでぶつかり合い：

ザシユツ…ドサツ

四星龍「…がはっ」

四星龍が倒れた。

悟空SSGSS20倍界王拳「なっ!？」

ベジータ「何っ!!」

霊夢「嘘…!!」

魔理沙「す、四星龍!!!」

だが、四星龍は悟空によって倒れた訳ではなかった。僅かに悟空と四星龍には隙間が

あったのだ。

??? 「邪悪龍に正義の心だと？笑わせおって…」

妖夢 「え…？」

ベジータ 「貴様は…一体!？」

??? 「おっと、自己紹介が遅れたか…俺は一星龍。お前らがドラゴンボールを乱用した為、俺が生まれたのだ！」

鈴仙 「お師匠様…これは…」

永琳 「多分、もうもたないわ」

文 「そんな…」

悟空SSGSS「…!!おめえ…よくも四星龍を……!」バシユウ

早苗「酷い…何故こんなことを…?」

悟空は一星龍に怒りを抱きながらも体力温存のためなのか界王拳は解除した。

悟空SSGSS「おめえは絶対に許さねえ!!!」キツ

一星龍「俺を〃許さねえ〃だと…?その俺を誕生させたのは誰だ?……お前だ、孫悟空!」

悟空SSGSS「何?」

一星龍「お前らがドラゴンボールを乱用したために生まれたのだ。此処がおかしくなったのも、みんなお前らのせいだ!!!」

鈴仙「だ、だからって……!」

悟空SSGSS「そいつは悪かった……けんどな、それとこれとは話は別だ！」

一星龍「散々ドラゴンボールに助けてもらったくせに……勝手な事を言うな!!!」

いままでのドラゴンボール乱用を一星龍は激しく怒りを表にした

悟空SSGSS「四星龍の仇だ……おめえをぶつ倒す」ドン

悟空は一星龍に目掛けて力を込め、おもいつきり殴った。

だが、殴られた一星龍は一步も動かず、笑った

一星龍「ふっ……所詮この程度のやつらということだ」ブウン

一星龍は手に気弾を作りだし、悟空の身体に近づけた。

一星龍「じゃあな」ドゴオオオオオン

悟空は一星龍の気弾に当たり、吹っ飛んだ。激突した瓦礫の山からボロボロになった悟空が出てきた。

悟空SSGSS「負ける訳にはいかねえんだ……だから、此処でおめえを倒す!!!界王拳!!!」ギャウウツ

悟空SSGSS20倍界王拳「おめえだけは…おめえだけは許さねえぞー!!!」ドウツ

悟空は気の消費を考えず、一星龍に突っ込んでいった

悟空SSGSS20倍界王拳「だりやあああ!!!」ドカッ

一星龍「ぐおっ!?!」

一星龍が少し怯んだが悟空はお構い無しに攻撃を続けた。

悟空SSGSS20界王拳「かーめーはーめええ!!!」「かめはめ波」ブウン

悟空のかめはめ波は界王拳があるためか急激に肥大化していった。

悟空SSGSS20倍界王拳「波ああああ!!!」ズドオツ

一星龍「があああああ!!!」ドゴオオオオオン!!!

急速に威力が増大した悟空のかめはめ波は一星龍を飲み込み、遠くで大爆発を起こした。

魔理沙「やっつけちゃったんだぜ…」

悟空SSGSS20倍界王拳「……………」

霊夢「流石悟空さんよ…あいつなんて目じゃないわね」

早苗「そうかもしれませんね!!!」

幻想郷の住人達は一星龍を倒したと喜んでいた。しかし…

コロコロコロ…

不自然にゆつくりと転がるドラゴンボールに誰一人と気付く者はいなかった。

34話 タイムパトロール

これは悟空達がトワと出会う前まで遡る……

トランクス：ゼノ「一体トワとミラは何処にいるんだ……？」

時の界王神「あんた達も手伝いなさいよ!!!」

??? 「界王神様!ここら辺巻物にもいませんでした」コンモリ

時の界王神「ありがとう」

トランクスや時の界王神と一緒に時の巻物を眺めているメガネをかけた人物は孫悟飯。時の巻物というのは、1つ1つの歴史を見ることが出来る巻物である。巻物を開いて、少しでも違和感を見つけるとその時代に行き、異変を解決する仕事である。(博麗の巫女の仕事みたいなものである)

??? 「兄ちゃん……これとだけあるの〜?」

悟飯：ゼノ「悟天!! しっかりと仕事しろ! まだまだ残ってるんだから……」ペラ……

頭が尖ったりゼントのような形をしていて、悟飯を兄呼ばわりしている人物は孫悟天。しっかりと者の悟飯と違い、かなりマイペースな性格をしている。ちなみに悟空と髪型が違うのはかなりそっくりでややこしいので変えた。

悟天：ゼノ「多すぎるよ〜!」

??? 「悟天おじちゃん、しっかりと仕事しなきゃ駄目でしょ〜?」

悟天「パンちゃんだって何もしてないじゃん……」

悟天に文句を言っているのは悟飯の娘であり、悟天の姪っ子のパン。周りから見たら子供かもしれないが、バカに出来ない戦闘力を秘めている。他の時空では父親の悟飯よ

りもセンスがあるとピッコロが称えている程である。

パン：ゼノ「私はトキトキの監視役だも〜ん」

トキトキ「ト〜キ〜!!」チヨコン

パンの頭に乗っかっている鳥はトキトキ。端から見れば変な鳥だが、トキトキがいないと最悪、時間が消滅するという時の界王神が大切にしている鳥である。

時の界王神「悟空は〜……………そうだった、調査に行かせたんだった」

時の界王神が言う悟空は孫悟空なのだが、幻想郷にいる悟空ではない。此処での悟空は超サイヤ人ブルーにはなれないものの、超サイヤ人4の力が使える。ベジータも同様に超サイヤ人4に変身が可能である。幻想郷にいる悟空と此処の子供は一度、戦ったことがある。お互いの最強のブルーと4だったが互角の実力を持っていた。

??? 「……………それにしても、何だか遅いのう…道草でも食っておらんといいのじゃが」

悟飯：ゼノ「…もしかして、またベジータさんと戦ってるんじゃない？」

??? 「あり得るのう…」

悟飯と話している老人は老界王神である。悟空の世界にも老界王神はいるが、特に影響はない。この老界王神は、悟空の住む世界の（東の）界王神の15代前の御先祖様である。

トランクス：「……ん？時の界王神様！これを…」バサッ

トランクスは、ある歴史に違和感を感じたようだった。

時の界王神「これって…幻想郷ね。」

時の界王神も幻想郷のことは知っているようだ。

トランクス：ゼノ「此処に……悟空さんや父さんがいるんです!!!」

時の界王神「何もおかしいところは……ん？」

時の界王神「悟空とベジータが幻想郷!？」

時の界王神は、悟空やベジータに幻想郷には行かせていない……つまり

トランクス：ゼノ「おそらく、別の時空の父さん達でしょう……」

時の界王神「そうね……」

トランクス：「……これは……!？」

トランクスは幻想郷に、悟空がいる異変ともう一つ違和感に気が付いた。

時の界王神「えっ？まだ何かあったの？」

トランクス：ゼノ「見てください！この暗黒エネルギーはトワが持っているやつです」

時の界王神「……トランクス！貴方は孫悟空達に出会い、トワを捕まえてきなさい!!」

トランクス：ゼノ「わかりました!!!では行つてきます!!!」 シュン

時の界王神「……一体何が起きているのかしら……」

時な界王神はトランクスが幻想郷に向かった後、誰にも聞こえない程度の声で呟いた。

トランク스가いない間、時の界王神達は他にも異変が起きてないか、確認をしていた。敵はトワだけでなく魔神ドミグラなど決して少なくないのだ。そうして、巻物を見ていくと……

トランクス：ゼノ「戻りました……」

トランクスが幻想郷から帰ってきた。

時の界王神「……トワは……」

トランクス：ゼノ「逃げられました……」

時の界王神「でしょうね……」

時の界王神は、若干諦め気味だった。

悟飯：ゼノ「結局、お父さん達に会って来たんですか？」

トランクス：ゼノ「はい、またトワが来た時用に連絡出来るやつを渡しましたから」

そう聞くと悟飯は安心したような顔になった

悟天：ゼノ「兄ちゃん達!!あいつら見つけたよ!!!」

トランクス：ゼノ「本当か、悟天!!!」

悟天：ゼノ「うわ!トランクス君も帰ってたんだ…」

トランクス：ゼノ「それよりも、見つけたって…」ガバツ

トランクスは問い詰めるように悟天に近寄った。

悟天：ゼノ「ち、近いって…落ち着いてよ」

トランクス：ゼノ「……！あ、ああ悪かった」バツ

悟飯：ゼノ「悟天、見つけたって何を見つけたんだ？」

悟天：ゼノ「あいつらだよ!!!」

どうやら、悟天は暗黒魔界にいる者が他の時空にいたことを発見したようだった。

パン：ゼノ「いたの？」

トランクス：ゼノ「じゃあ、いきますか？」

老界王神「そうじゃのお…行ってこい」

トランクス：ゼノ「ありがとうございます!!では、行っていませぬ」

ブーツ ブーツ ブーツ

突然、アラームのような音が鳴り響いた

悟天：ゼノ「うわっ!!今度は何!?!」

トランクス：ゼノ「……父さん達に何かあったのか!?!」

老界王神「悟空もベジータもまだ帰ってこんし……トランクス、行ってこい」

トランクス：ゼノ「はいっ!!」 シュン

35話 幻想郷大戦

悟空SSSS「……!?!」

悟空は何か異変に気が付いたようだ。

ベジータ「何だ?この気は…まさか!?!」

ベジータも悟空と同じ反応を示した。

霊夢「今回ばかりは私も感じるわ」

魔理沙「私もだぜ…何でだろうな」

本来なら気を感じない者でも感じているので何かが起きているのは確かである。その時、ある者達が空から舞い降りた。

??? 「孫悟空さん、ベジータさん」

悟空&ベジータ『……!?!』バツ

??? 「この新たなパワーで貴様らを倒してやろう」

悟空 「おめえは……フリーザ!?!」

霊夢 「フリーザ!?!」

ベジータ 「貴様は……セルか!?!」

魔理沙 「せ、セル!?!」

前、悟飯に破れ去ったメンツがいた。他にも…

ナツパ「あの時の借りは返させてもらうぜ!!! ベジータ!!!」

ベジータ「……貴様か」

早苗「確か……ナツツさん!!!」

ナツパ「ナツパだ!!! 覚えとけ!!!」

早苗「す、すみません……」

名前を間違われてキレルナツパや……

ラディッツ「よう、カカロット」

ターレス「くくく……」

悟空「ラディッツにターレスまで……」

悟空の兄のラディッツや悟空の顔にそっくりのターレスまでいた。

??? 「お待たせしました!!フリーザ様!!!」

フリーザ 「ギニュー特選隊の皆さんも、思う存分に暴れてくれて構いませんよ」

??? 「ありがとうございます!フリーザ様!!」

??? 「誰が先に戦うかじゃんけんで決めようぜ!!」

??? 「そこにいるあいつには恥をかかされたからな」

??? 「ベジータめ…許す訳にはいかんからな」

ギニュー 「まあ待て、今回はじゃんけんなしで各々好きに暴れてくれ!以上!!!」

ギニュー特選隊にはギニューの他にジース、バータ、リクーム、グルドがいる。

??? 「フリーザよ、貴様だけが孫悟空と戦おうなんぞ思わんことだ」

??? 「兵士達よ…暴れてこい!!!」

フリーザ 「パパに兄さんまで…」

何とフリーザの父のコルド大王や兄のクウラまでいた。

クウラ 「孫悟空…ただでは済まさんぞ!!!」

フリーザ 「ふふふ…:…さあ!サイヤ人の皆さん!あそこにいるベジータは反逆者ですよ!トドメを刺した方には特別ボーナスですよ?」

サイヤ人 『うおおおおお!!!』

更には、フリーザが殺した筈のサイヤ人達もいた。

??? 「俺達を忘れていないだろうな？」

ベジータ 「ボージャック…」

悟空 「スラッグ…！」

悪のナメック星人のスラッグにボージャックも幻想郷にいた。

咲夜 「この量は時間を止めてもきついわね……」

フラン 「数が多くても、変わらないよ〜？」

レミリア 「……!?これは……」

レミリアは運命を少しだけ見ることが出来たが、とても驚いていた。一体何が写って

いたのだろうか……

悟空「……!!!この気は!？」

ベジータ「まさか…ブロリーか!？」

姿は見えていないが、ブロリーもいるようだ。

チルノ「いくらあたいがサイキョーでも、この数はヤバいわ〜」

悟空「トランクス呼んだほうがいいか？」

ベジータ「そのほうがいいな…」

悟空「わかった」ガサゴソ…ポチツ

??? 「うぎやぎやぎやおー!!!」

突如、怪奇な声を上げた者がいた。

霊夢「な、何!？」

ベジータ「……!?ま、魔人ブウか!？」

紫「魔人ブウですって!？」

紫は魔人ブウのことを知っているような口ぶりだった。

ベジータ「知ってるのか!？」

紫「ええ、随分昔にやつが幻想郷に襲来してきたわ」

ベジータ「どうやってブウを倒したんだ?」

紫「先代の博麗の巫女と共に幻想郷を巻き込んで何とか幻想郷から追い出したわ」

紫は苦勞話を始めた。

??? 「ひっひっひ…」

悟空「ジャンバ!？」

??? 「悟空さん、父さん!!!」

悟空「トランクス!」

トランクスがやっと幻想郷に到着した。

トランクス：ゼノ「それより、何が起きているんですか？」

悟空「それがなく」

トワ「何故かトランクスがいるけどまあいいでしょう」

悟空がトランクスに状況を説明しようとする、トワが現れた。

トランクス：ゼノ「トワ!!」

トワ「この世界での実験は終わりよ」

霊夢「実験ですって!？」

トワ「さあ、貴方達の真の力を引き出してあげるわ」ズオオ

フリーザ「な、何ですかこれは!？」ズオオ

セル「ぬおおっ!？」ズオオ

トワは邪悪な気をフリーザ達に注いだ。すると…

フリーザ「うおおおおあああ!!!」ズドオツ

セル「ぶるあああああ!!!」ズドオツ

トワ「後は貴方達がなんとかすることね」ズズズ…

トランクス：ゼノ「あ、待て!!…:…クソ!!!」

トワはフリーザ達を暴走させて消えてしまった。

トランクス：ゼノ「じゃあ俺はトワを…」ドカツ

魔人ブウ（純粹）「ぎやぎやおおお!!」

トランクスは時空移動しようとしたが、魔人ブウに邪魔されてしまった。

トランクス：ゼノ「くっ！…はあっ！！」ドウツ

トランクス：ゼノSSG「数が多いな…」

霊夢「私達がこいつらを倒せるかしら…」

魔理沙「見た目に反してめちやくちや強いからな…」

た。
霊夢や魔理沙は悟空達の敵は予想以上に強いことを知っているため、自信がなかつた。

美鈴「気が付きませんでしたか？」

早苗「何がですか？」

美鈴 「貴女方の気の大きさは悟空さんと出会う前の10倍以上ですよ？」

妖夢 「……え？そんなんですか!？」

霊夢達は悟空のパワーが高すぎるせいか、自分の力が上がっても気が付いていなかった。

霊夢 「やーっ!!!」 ドゴオツ

兵士 「があああああああ!!!」

霊夢 「本当だったわ」

魔理沙 「なら、新技でも十分殲滅出来るな」

霊夢 「え、新技？」

咲夜「火力上がり過ぎない？」

サイヤ人「ぐうううああっ!!!」

兵士「があああああ!!」

魔理沙「よし、じゃあ本場のマスタースパークでも見せてやるぜ!!!」カツ

魔理沙「マスタースパーク!!!」
「マスタースパーク（拡散ver）」
ズドドドドドドドドドド
ドドドドドドド

兵士&サイヤ人『ぐわあああああ!!!』

魔理沙のマスタースパークは敵を確実に一撃で倒していった。

霊夢「何か違う気が……」

魔理沙「流石に霊夢でも気付いちまったか：そうだぜ、こいつは拡散verだぜ!!!」

文「拡散って威力落ちませんか？」

文はマスタースパークの火力が低下するのではと、疑問に思った。

魔理沙「それがな、さっきのレーザーガンの5倍の威力だぜ!!!」

魔理沙は簡単に言うが、(悟空と出会う前の)マスタースパークの100倍の力がある。

霊夢「じゃあ、レーザーガンなんていらんないじゃない」

魔理沙「それが、レーザーガンはスペカじゃないから連発可能なんだぜ!!ちなみに本当のマスタースパークは拡散型の10倍だぜ!!ただし、拡散型のほうが消費する魔力は少ないぜ」

さらっと魔理沙はとんでもない発言をした。マスタースパークの1000倍のマス

タースパークなので確実にヤバいスペカである。

霊夢「私の夢想封印も耐久力を10倍にして、相手との実力差も10倍まで対応出来るようにしたわ」

早苗「強すぎませんか？」

妖夢「私達は新技とか、強化なしの純粋なパワーアップだけですよ!」

セル「があああああ!!!」

妖夢がツツコんでいると、セルが突っ込んできた。(決してダジャレを意識したわけではない)

魔理沙「マスタースパーク!!!」 「マスタースパーク」ズドオツ

セル「が……あ……くあ………」 ドゴオオオオオオン

魔理沙のマスターズパークでセルは消滅した。

36話 決着

トランクス：ゼノSSG「このままじゃ…先に倒れるのは俺達だ…!!」ドゴオ

悟空SSGSS「こいつら、弱えけんど数がとんでもねえぐれえ多いんだよなあ……」
バキツ

ベジータSSGSS「たあだだだだだだだだだだ!!」ドガガガガガガガガガ

ベジータは気弾を打ち続けるが、敵はさほど減っていないかった。

悟空SSGSS「ベジータ!!!フュージョンして、一気に倒すしかねえぞ!!!」

???「そんなことはさせせん」

悟空SSGSS「一星龍!?それって……」

ベジータSSSSS「ドラゴンボールか!!!」

突如、悟空とベジータの前に現れた一星龍はドラゴンボールを持ち、にやけていた。

一星龍「ふっふっふっ……」ゴクンゴクンゴクン……

トランクス：ゼノSSG「ドラゴンボールを……食べた!？」

一星龍「うおおおおお!!!」カツ

ドラゴンボールを全て飲み込んだ一星龍は身体が光りだした。

超一星龍「どうする……お前達」

悟空SSSSS「ベジータ!!!」

ベジータSSSS「……チッ」スタツ

ベジータは地面に着地し、悟空と距離をとった。

悟空SSSS「ベジータ？」

ベジータSSSS「やってやる…準備しろ!!!」

悟空SSSS「……!!!最高だぜ、ベジータ!!!」

悟空SSSS&ベジータSSSS『フュー…!!!』タカタカタカ…

悟空SSSS&ベジータSSSS『ジョン!!!』バツ

悟空SSSS&ベジータSSSS『はっ!!!』ピッ

ギユルギユルギユルギユル…

悟空とベジータはフュージョンを成功させ悟空はオレンジ色に、ベジータは青色に発光し混ざりあった。

ゴジータ『トランクス、お前は霊夢達と共に奴らを倒してこい……俺はこいつをやる』

トランクス：ゼノSSG「わかりました……」シユン

ゴジータ『はあああああ……!!!』ゴゴゴゴゴゴ

ゴジータが力を込めると、地面が揺れた。

ゴジータSSGSS『だあああああ!!!』ズドオツ

超一星龍「はああああ!!!」ビユン

ゴジータSSGSS『ふんっ!!』ゴツ

超一星龍はゴジータに近づくと、吹っ飛ばされた。

超一星龍「ぐおっ!!」

ゴジータSSSS『たああああ!!!』ドゴオオ

ゴジータはエルボーを食らわせた後に蹴りを叩きこんだ。

超一星龍「ぐほあっ!!!」

ゴジータは超一星龍に容赦をせず、殴る蹴るを続けた。

ゴジータSSSS『これで終わらせてやるぜ!』【ソウルパニッシャー】

超一星龍「や、やめろ!!!」

ゴジータSSGSS 『はっ!!』キラキラ…

ドゴオオオオオン

ゴジータSSGSS 『おまけでやるよ!!!』【かめはめ波】ズオオ

超一星龍「ぐわあああ!!!」チユドオオオオオン!!

ゴジータのかめはめ波は超一星龍を飲み込み、地面に着弾し大爆発をした。

ゴジータSSGSS 『ふっ…』

トランクス：ゼノSSG「大体片付け終わりました」

ゴジータSSGSS 『そうか…』

トランクス達はフリーザ軍を殲滅しきったようだった。

トワ「これはまずいわね…」

消えた筈のトワはまた戻ってきたようだ。

ゴジータSSSS『どうする？お前の思惑は外れたようだかな…』

トワ「どうかしら？」ズオオ…

トワが出した杖から黒い煙が出てきた。

ゴジータSSSS『そんなもん、俺には効くとも思ってるのか？』

トワ「ええ…」

ゴジータSSSS『面白え…いくぞ!!!』ドン

トワ「ふふふ……」

ゴジータはトワの黒煙の中に突っ込んだ。黒煙を掻き分けたゴジータはトワを攻撃しようとしたが…

ポンッ

悟空「…へっ?」

フュージョンの合体が融けてしまった。更に合体していた時間は30分経っていない。

ベジータ「……まあいい」

ベジータSSSSS「この手でぶっ飛ばせばいいわけだ!!!」ボツ

ベジータは予備動作なしでブルーに変身し、トワに向かっていった。

トワ「どうなるか…見物だわ」

超一星龍「ふっ」ポウツ

ベジータSSGSS「:!?くっ!!」

ベジータは超一星龍の攻撃をギリギリで回避した。

超一星龍「俺の本気を受けてみろ!!マイナスエネルギーボール!!」
「マイナスエネルギーボール」

超一星龍の胸にあるドラゴンボールが光りだし、紅い元氣玉のようなものを作り出した。

悟空SSGSS「だあああああ!!!オラが受け止めてやらああああ!!!」

悟空は地面スレスレでマイナスエネルギーボールを受け止めるものの、そのま

ま着弾してしまった。

トランクス：ゼノSSG「ご、悟空さあああん!!!」

霊夢「そんな…」

ベジータSSGSS「カカロットの気が消えた…」

魔理沙「まさか……死んじたのか？」

妖夢「そんな…」

霊夢や魔理沙達は悟空が死んでしまったと嘆いていた。

ベジータSSGSS「貴様ら!!カカロットが死んだからっていつまでもメソメソして
いる暇はないんだぞ!!!せめてやるなら奴を倒してからにしろ!!!」

トランクス：ゼノSSG「はあああつ!!!」ボウツ

ベジータSSGSS「トランクス!!!油断はするなよ!!!」

トランクス：ゼノSSG「はいつ!!!」

ベジータとトランクスは超一星龍に対して戦闘体制をとった。だが、ベジータとトランクスがフルパワーになっても超一星龍にかなう筈もなく、一方的にやられていた。

しかし、その時悟空は生きていた。

悟空「皆……オラに、元気をくれ……このまま負ける訳にはいかねえんだ……」

だが、気はほぼ感じなかったのでベジータ達は気が付かなかった。

ベジータ「クツソ〜!!…カカロット…オレに、このオレに力をくれ…!」

ベジータはボロボロになりブルーに変身する体力も残っていなかった。

霊夢「私達も戦うわ」

魔理沙「ずっと任せているのは違うと思っただぜ!」

レミリア「あまり私を舐めるんじゃないわよ」

霊夢達はずっと任せていたので責任感を感じているようだった。

超一星龍「何匹集まっても同じだ!!」

ベジータ「お前ら…はあっ!!」ボツ

トランクス：ゼノ「うおおお!!」ポウツ

ベジータSS「くっっ！」

そして、同時に超一星龍に始めた。爆発が絶え間無く発生した。ベジータ達は全力を出しきったが超一星龍に決定打になるような攻撃はなかった。時間が過ぎていく中、仲間が一人、二人と倒れていった。遂に立っていたのはベジータだけとなった。

超一星龍「終わりだ!!!」ポウツ

ベジータSS「ぬおおっ!!!」ドゴオオオオオン

とうとうベジータもやられてしまった。ベジータが倒れている位置は丁度悟空がやられた場所だった。

超一星龍「お前達の負けだな」

ベジータ「……へっ、貴様の負けだ！」ガクッ

ベジータは一言発すると、気絶してしまった。

すると、クレーターから、青白い光が漏れてきた。

超一星龍「な、何だ!？」

霊夢「はあ……はあ……はあ……はあ……あれは……？」

魔理沙「何が起きているんだぜ？」

その青白い光は巨大な気弾だということがわかった。更にその下から……孫悟空が浮かんできた。

早苗「ご……くう……さん？」

超一星龍「なっ…!?お前、生きていたのか!？」

悟空「まだまだ死ねえなあ…:おめえを、やっつけるまではな…」

超一星龍「チツ…くたばれ!!」ボウツ

超一星龍は悟空に気弾を連射するもダメージがなかった。その顔は絶望に叩き落とされたような表情だった。

悟空「皆…!!オラに元気い分けてくれ…!!」

紫「…!!それなら、私の能力が有効活用出来るわ」

そう紫は言うときマを作り出した。数は1つや2つ程度ではなく、大量のスキマだった。そのスキマは悟空の世界だけでなく、過去や未来に平行世界までも繋げた。

悟空「皆〜!!!オラに元気を分けてくれ〜!!!頼む!!!」

悟空を知る者は我先にと手を上げ、元気を送った。悟空に元気を送っていない者でも、星から元気を貰っているので問題にはならなかった。数多くの世界から元気を貰っているので大きさは今までとは比べ物にならないほどには大きかった。例えるならば魔人ブウの時の超元気玉の2〜3倍レベルである。

悟空「サンキュー!!!宇宙の皆!!!いくぜ!!!」

超一星龍「や、やめろ…!!!」

超一星龍は悟空に静止を促すが悟空は止まらなかった。

悟空「でりやああああ!!!」ブン!!

悟空の超ウルトラ元気玉は地面をえぐり、超一星龍を飲み込んで大爆発を起こした。煙からは超一星龍の姿はなかった。